３　効果的なごみ減量化方策について

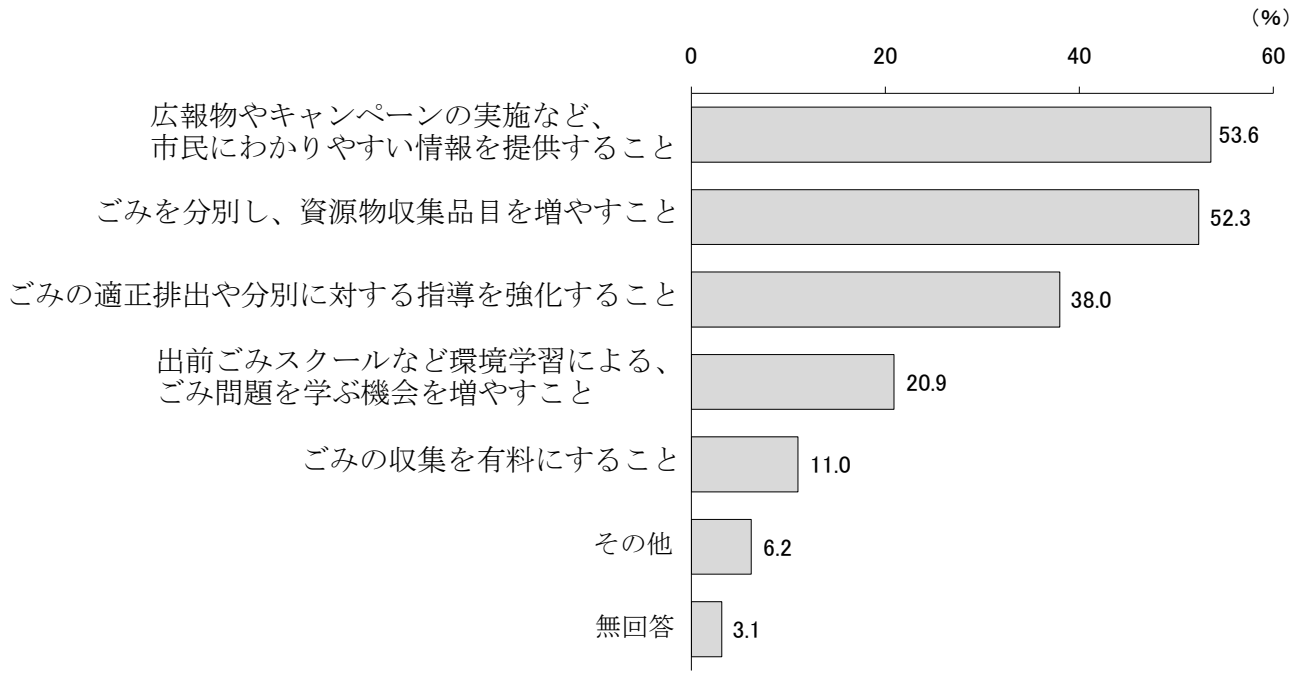
３－１　家庭系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法

◎「広報物やキャンペーンの実施など、市民にわかりやすい情報を提供すること」が５３．６％

問 16　川崎市の焼却ごみ量は減少の傾向にありますが、現在の埋立処分場を少しでも長く使用するためには、さらにごみの減量化が求められています。家庭系ごみの減量化として、どのような方法が効果的だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表３－１　家庭系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法

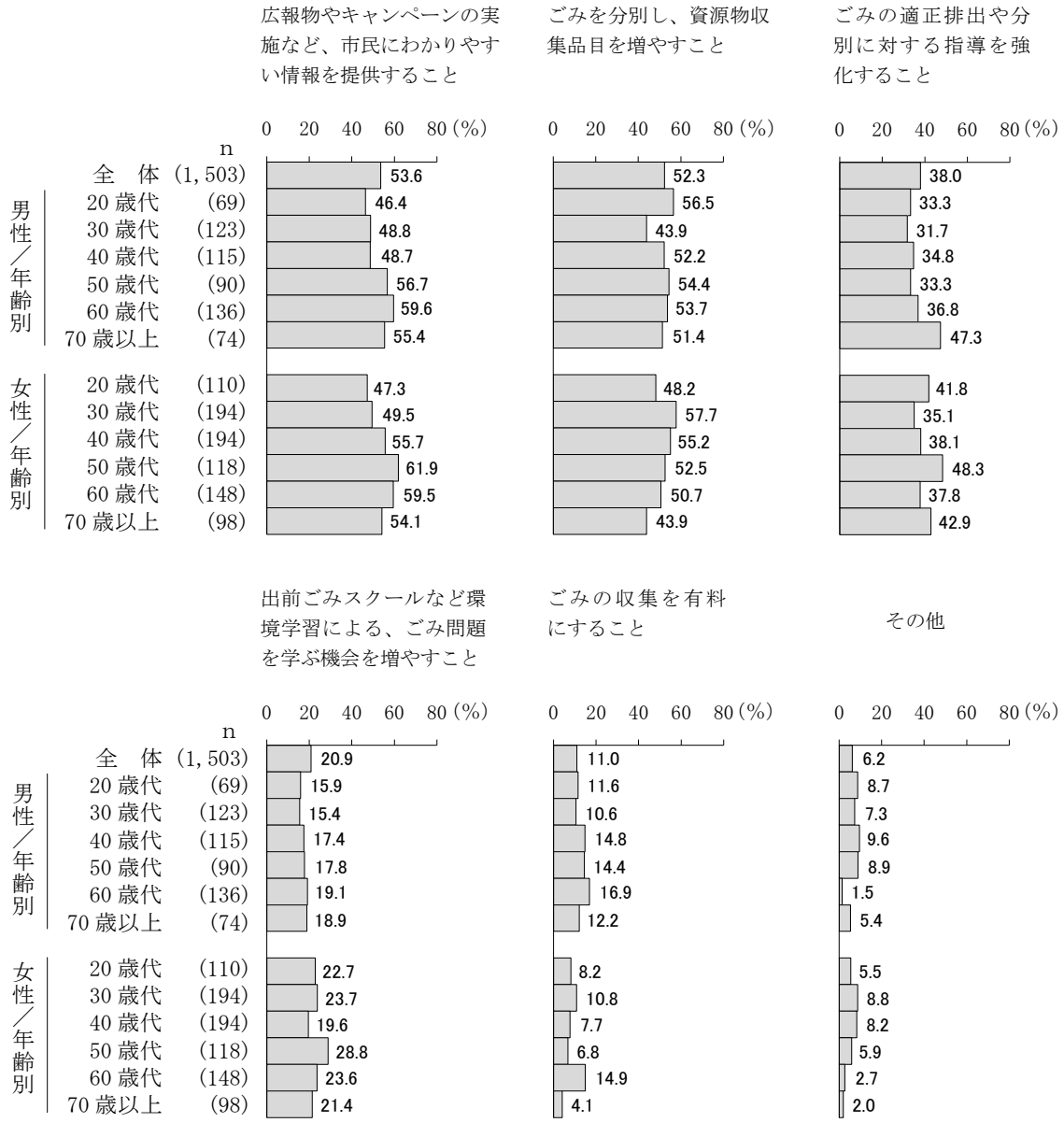
（複数回答）ｎ＝（1,503）



家庭系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法は、「広報物やキャンペーンの実施など、市民にわかりやすい情報を提供すること」の 53.6%が最も多くなっている。次いで、「ごみを分別し、資源物収集品目を増やすこと」が 52.3%、「ごみの適正排出や分別に対する指導を強化すること」が 38.0%となっている。（図表３－１）

（第１回アンケート）

図表３－２　家庭系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法（性／年齢別）



性／年齢別では、「広報物やキャンペーンの実施など、市民にわかりやすい情報を提供すること」は、男性では４割台半ばから５割台後半となっている。女性では４割台半ばから６割台前半となっている。「ごみを分別し、資源物収集品目を増やすこと」は、男性では４割台半ばから５割台半ばとなっている。女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が小さくなる傾向となっている。（図表３－２）

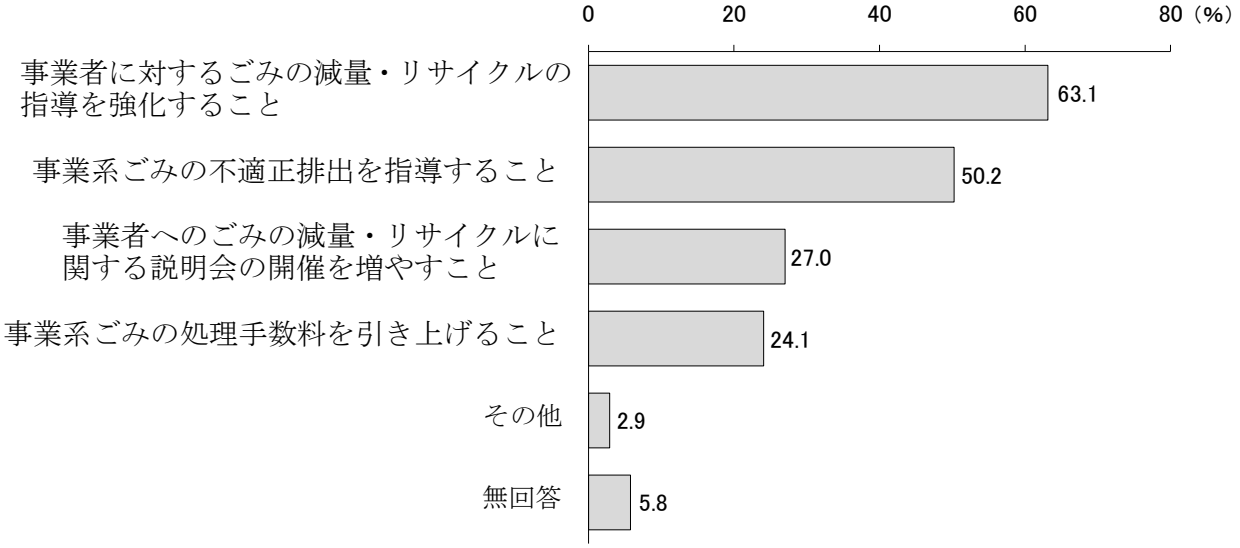
３－２　事業系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法

◎「事業者に対するごみの減量・リサイクルの指導を強化すること」が６３．１％

問 17　同様に、事業系ごみの減量化として、どのような方法が効果的だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

図表３－３　事業系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法

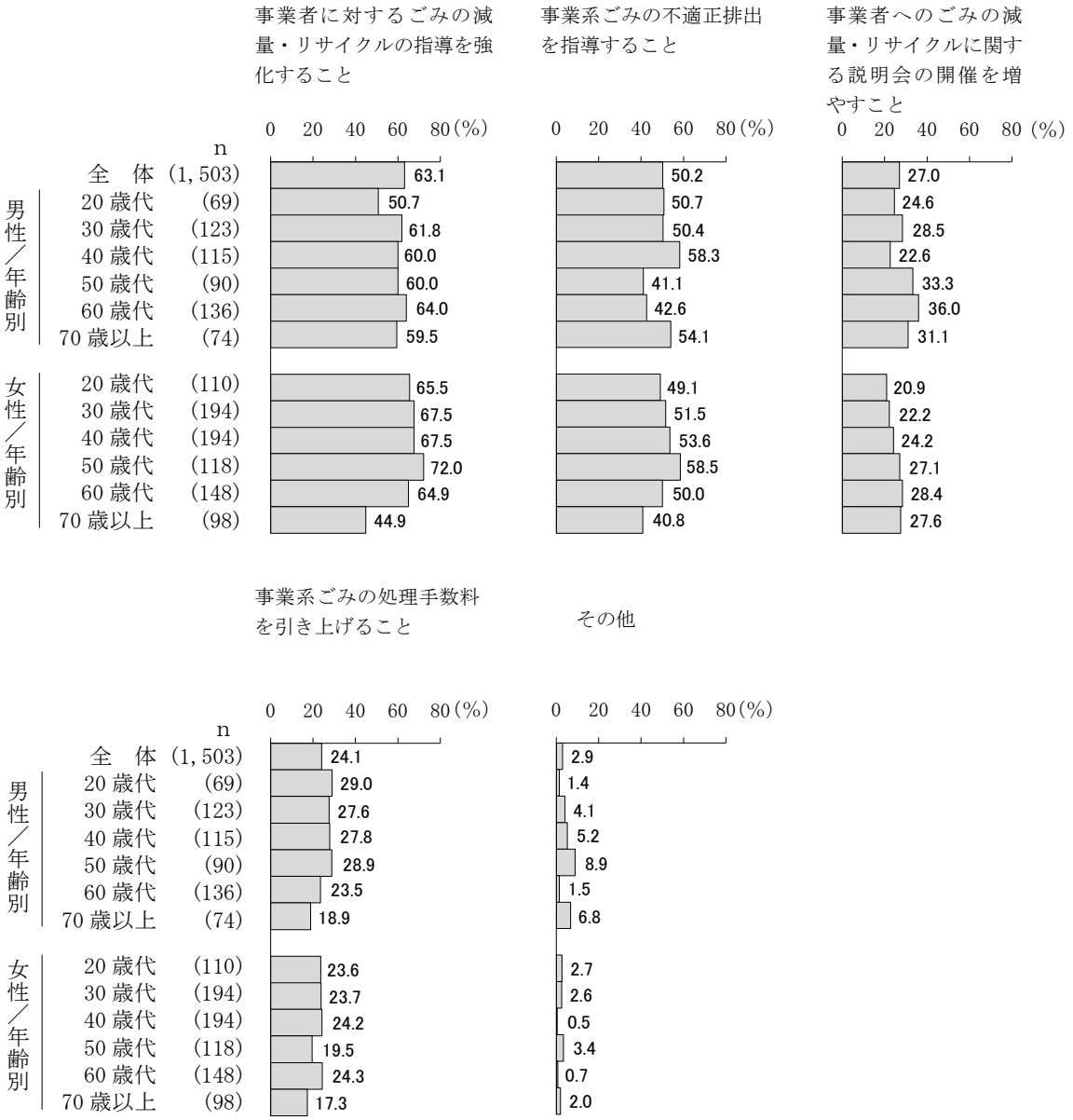
（複数回答）ｎ＝（1,503）



事業系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法は、「事業者に対するごみの減量・リサイクルの指導を強化すること」の 63.1%が最も多くなっている。次いで、「事業系ごみの不適正排出を指導すること」が 50.2%、「事業者へのごみの減量・リサイクルに関する説明会の開催を増やすこと」が 27.0%となっている。（図表３－３）

（第１回アンケート）

図表３－４　事業系ごみ減量化のために効果的だと思われる方法（性／年齢別）



性／年齢別では、「事業者に対するごみの減量・リサイクルの指導を強化すること」は、男性では５割台前半から６割台半ばとなっている。女性では 70 歳以上が 44.9%と少なくなっており、他の年代では６割台半ばから７割台前半となっている。「事業系ごみの不適正排出を指導すること」は、男性では 50 歳代と 60 歳代が４割台前半から４割台半ばと少なくなっており、他の年代では５割台前半から５割台後半となっている。女性では４割台前半から５割台後半となっている。（図表３－４）

３－３　ミックスペーパー分別モデル収集実施の認知状況

◎「知らない」が７２．１％

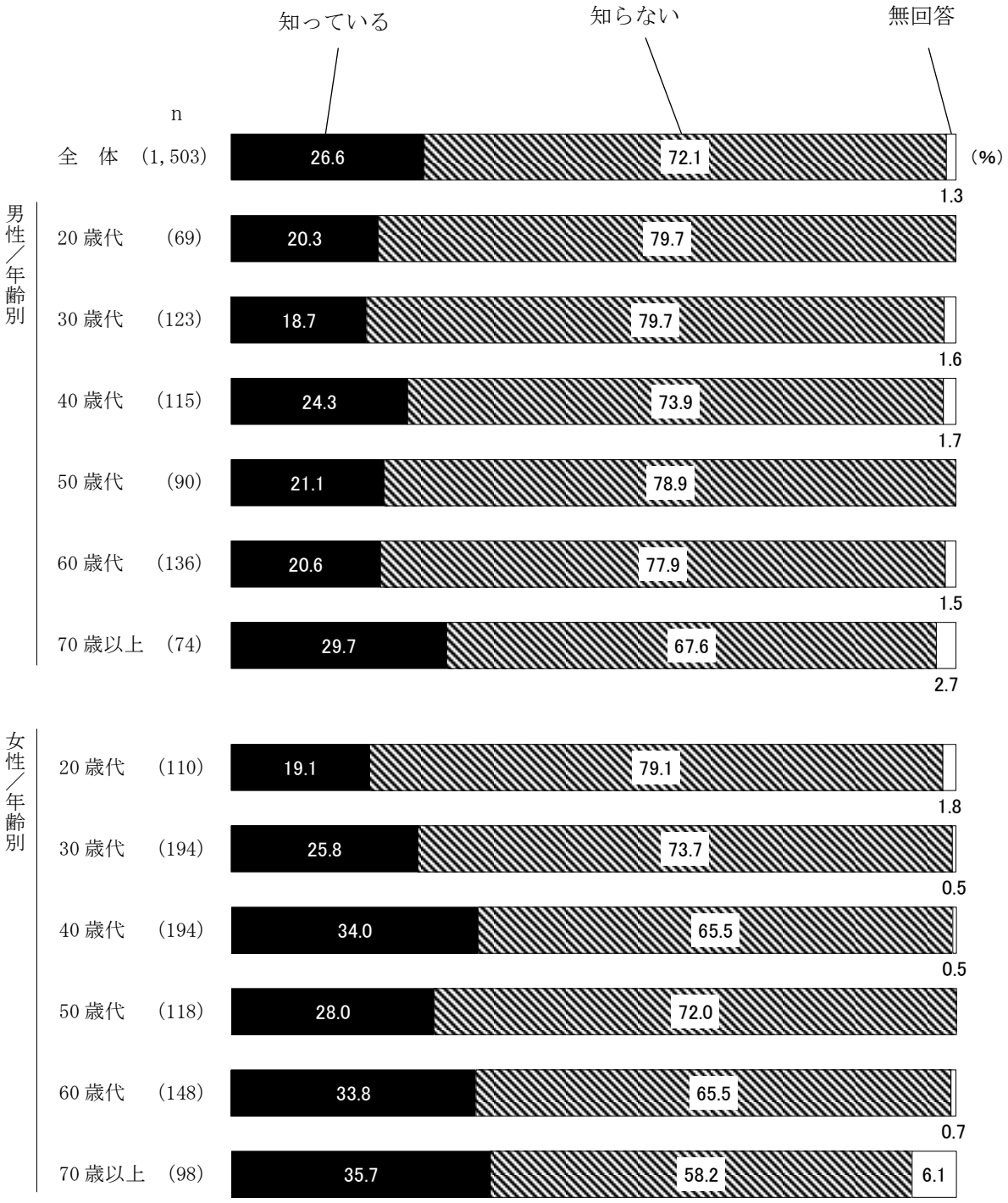
問 18　川崎市では、焼却ごみの減量化を図るため、平成２０年４月から、ミックスペーパー分別モデル収集を市内全域の約１０万世帯で実施しています。あなたは、ミックスペーパー分別モデル収集が実施されていることを知っていますか。（○は１つだけ）

図表３－５　ミックスペーパー分別モデル収集実施の認知状況

ミックスペーパー分別モデル収集実施の認知状況は、「知っている」が 26.6%、「知らない」が 72.1%となっている。（図表３－５）

（第１回アンケート）

図表３－６　ミックスペーパー分別モデル収集実施の認知状況（性／年齢別）



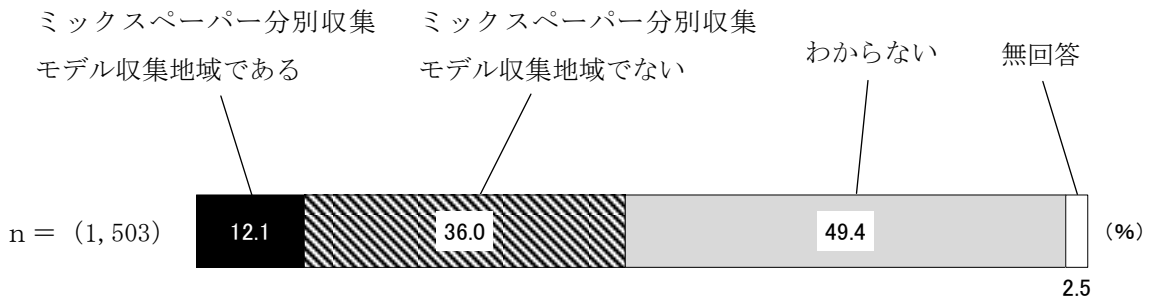
性／年齢別では、「知っている」は、男性では 70 歳以上が 29.7％と最も多くなっており、他の年代では１割台後半から２割台半ばとなっている。女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。（図表３－６）

３－４　ミックスペーパー分別収集モデル収集地域か否か

◎「わからない」が４９．４％

問 19　あなたのお住まいの地域はミックスペーパー分別収集モデル収集地域ですか。（○は１つだけ）

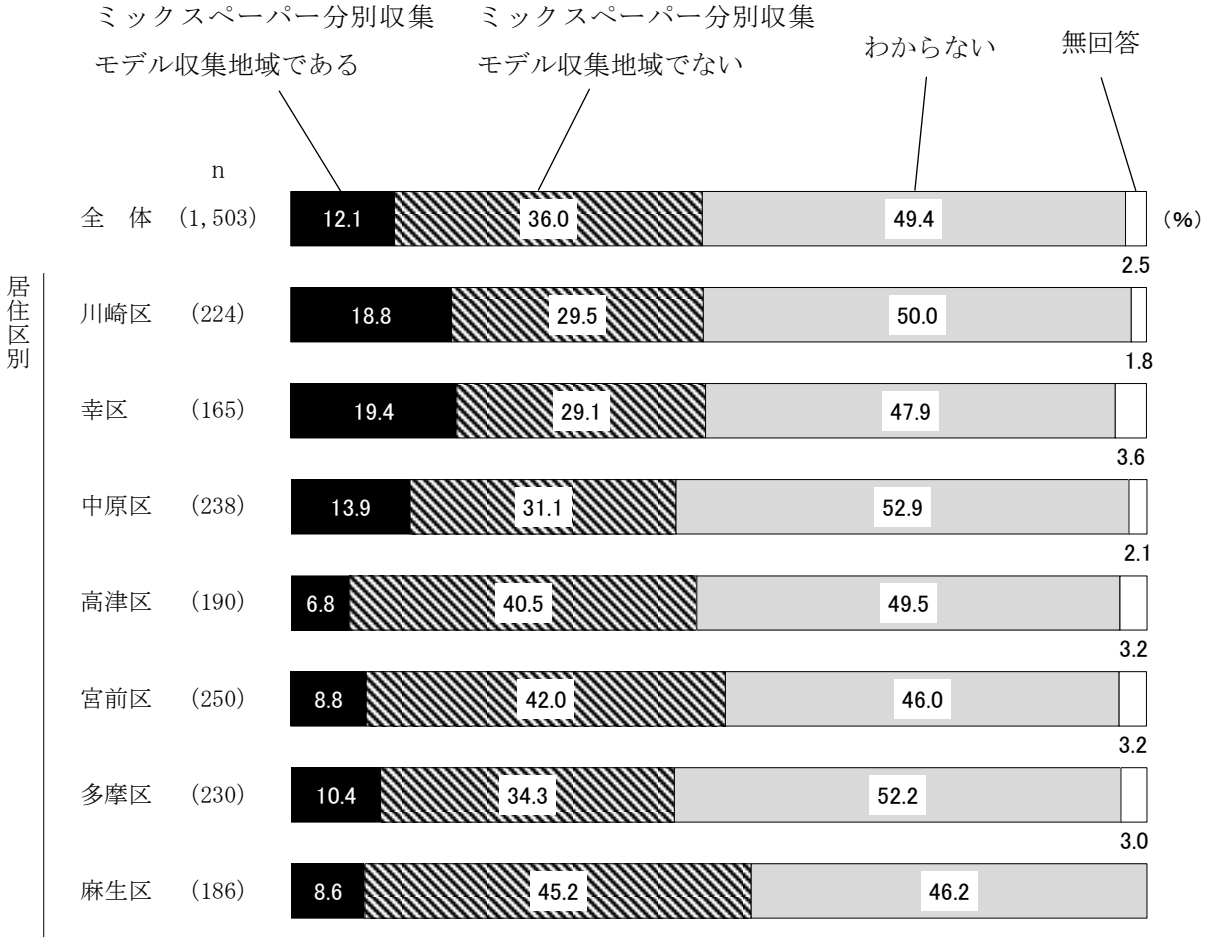
図表３－７　ミックスペーパー分別収集モデル収集地域か否か



ミックスペーパー分別収集モデル収集地域か否かについては、「ミックスペーパー分別収集モデル収集地域である」が 12.1%、「ミックスペーパー分別収集モデル収集地域でない」が 36.0%、「わからない」が 49.4%となっている。（図表３－７）

（第１回アンケート）

図表３－８　ミックスペーパー分別収集モデル収集地域か否か（居住区別）



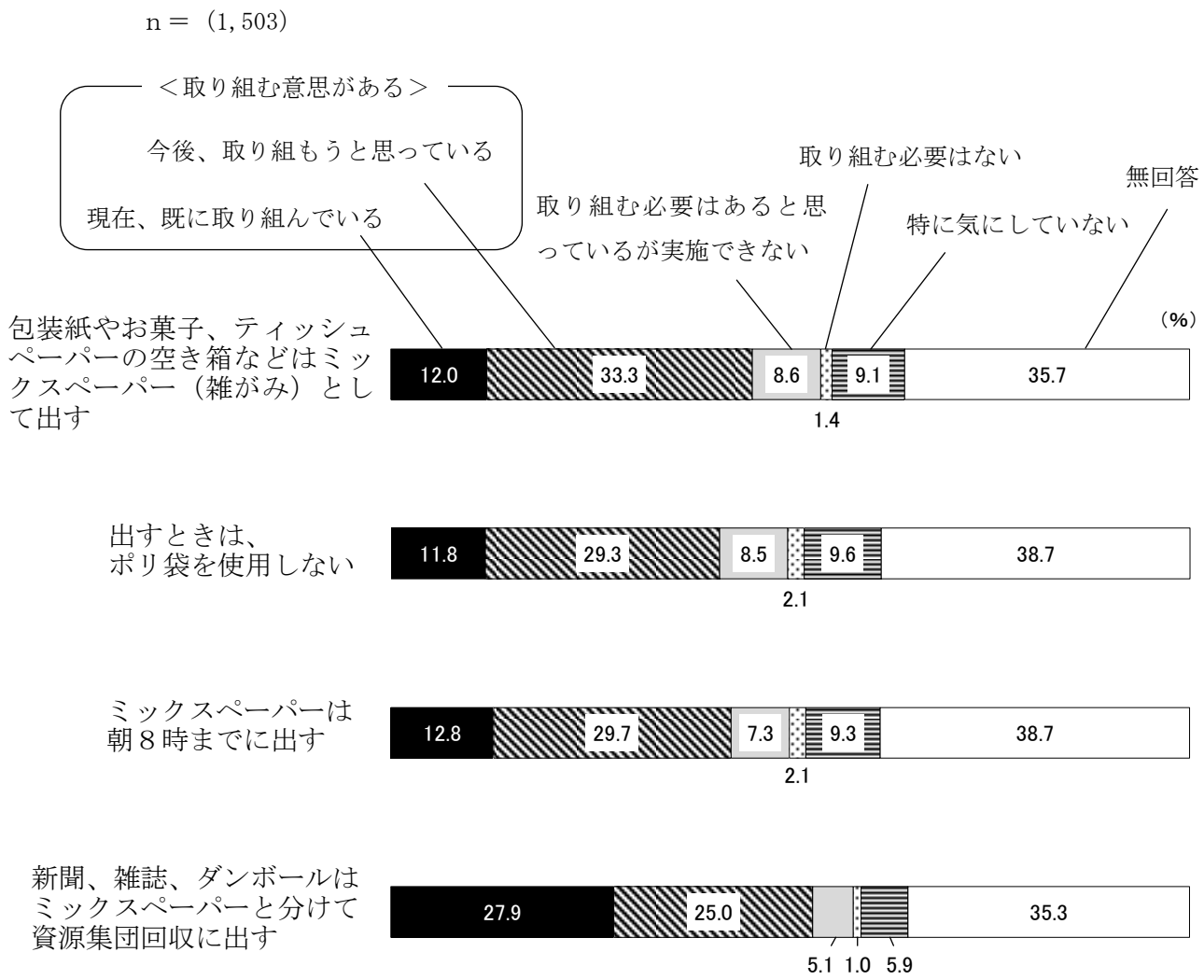
居住区別では、「ミックスペーパー分別収集モデル収集地域である」は、幸区が 19.4%と最も多くなっている。次いで、川崎区の 18.8%、中原区の 13.9%と続いている。「ミックスペーパー分別収集モデル収集地域でない」は、麻生区が 45.2%と最も多くなっている。次いで、宮前区の 42.0%、高津区の 40.5%と続いている。「わからない」は、全体的に４割台半ばから５割台半ばとなっている。（図表３－８）

３－５　ミックスペーパー分別収集の実施状況・実施予定

◎＜取り組む意思がある＞が最も高い項目は、「新聞、雑誌、ダンボールはミックスペーパーと分けて資源集団回収に出す」で５２．９％

問 20　ミックスペーパーの分別収集について既にモデル収集地域にお住まいの方は、どのように実施していますか。また、今後実施される地域にお住まいの方は、開始された場合、どのように実施しますか。（○はそれぞれ１つずつ）

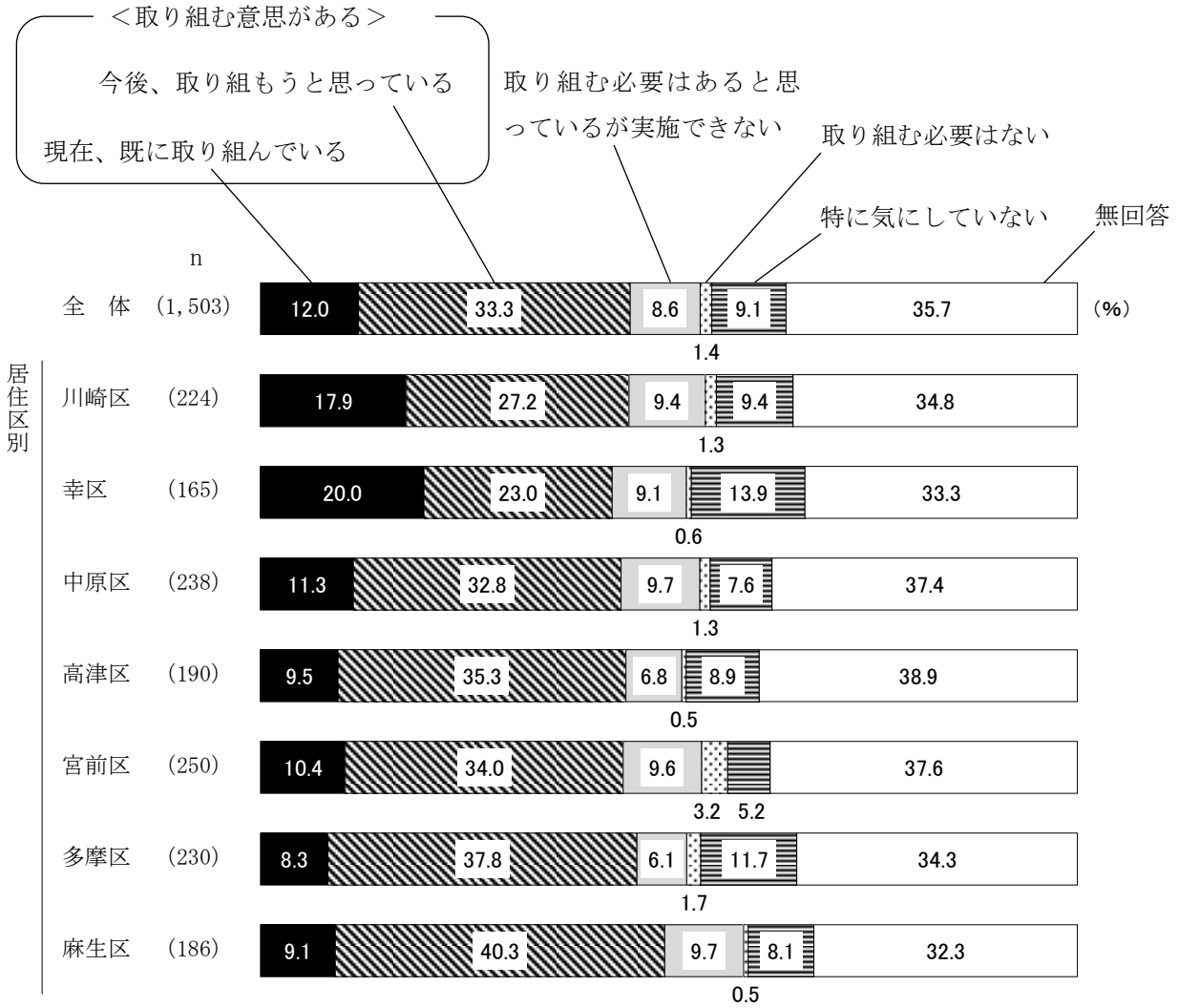
図表３－９　ミックスペーパー分別収集の実施状況・実施予定



ミックスペーパーの分別収集の実施状況・実施予定は、「現在、既に取り組んでいる」と「今後、取り組もうと思っている」をあわせた＜取り組む意思がある＞が多いのは、「新聞、雑誌、ダンボールはミックスペーパーと分けて資源集団回収に出す」の 52.9%となっている。（図表３－９）

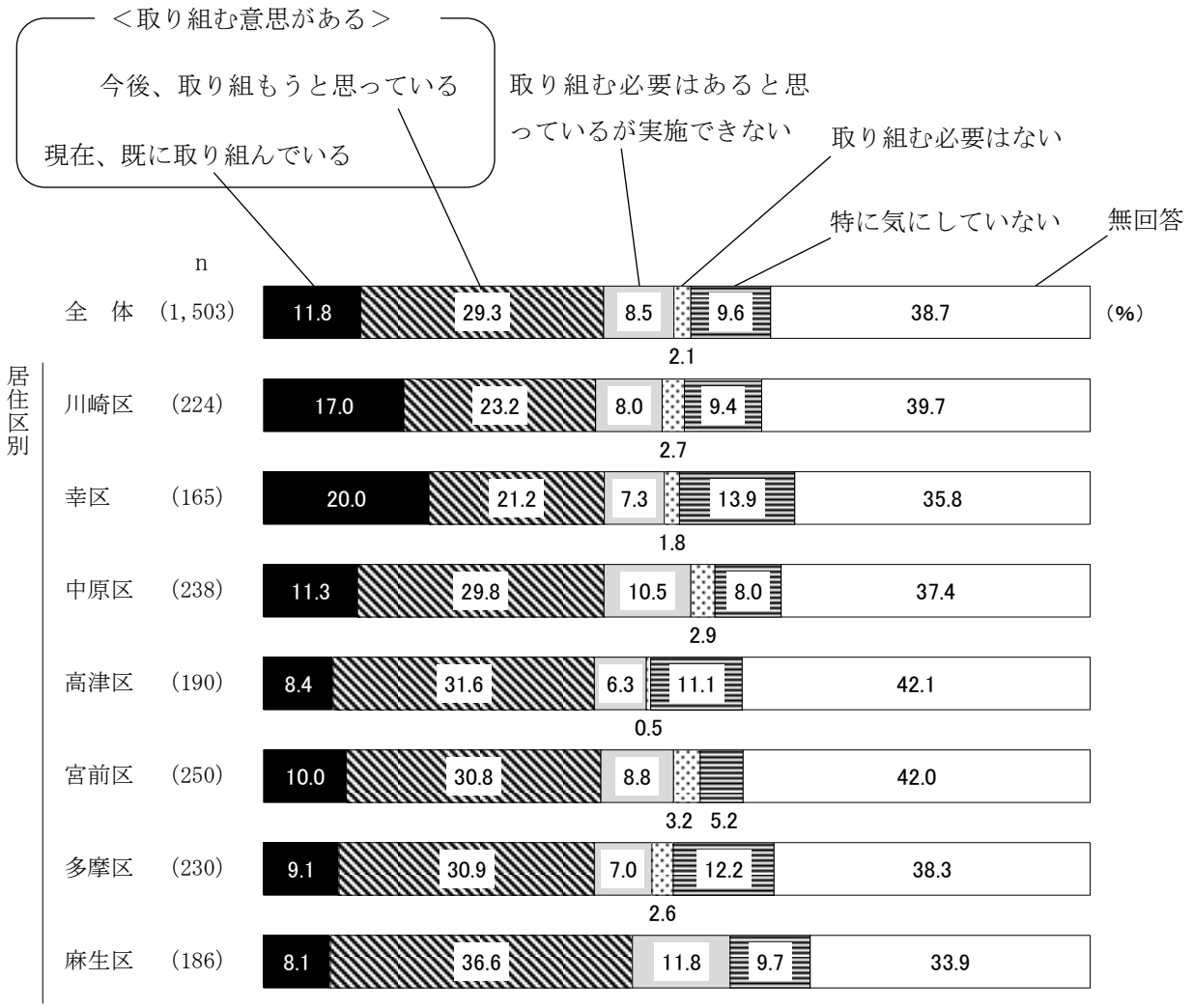
（第１回アンケート）

図表３－10　ミックスペーパー分別収集の実施状況・実施予定（居住区別）
＜包装紙やお菓子、ティッシュペーパーの空き箱などはミックスペーパー（雑がみ）として出す＞



居住区別では、「現在、既に取り組んでいる」は、幸区が 20.0％と最も多くなっている。次いで、川崎区の 17.9％、中原区の 11.3％と続いている。「現在、既に取り組んでいる」と「今後、取り組もうと思っている」をあわせた＜取り組む意思がある＞は、麻生区が 49.4％と最も多くなっている。次いで、多摩区の 46.1％、川崎区の 45.1％と続いている。（図表３－10）

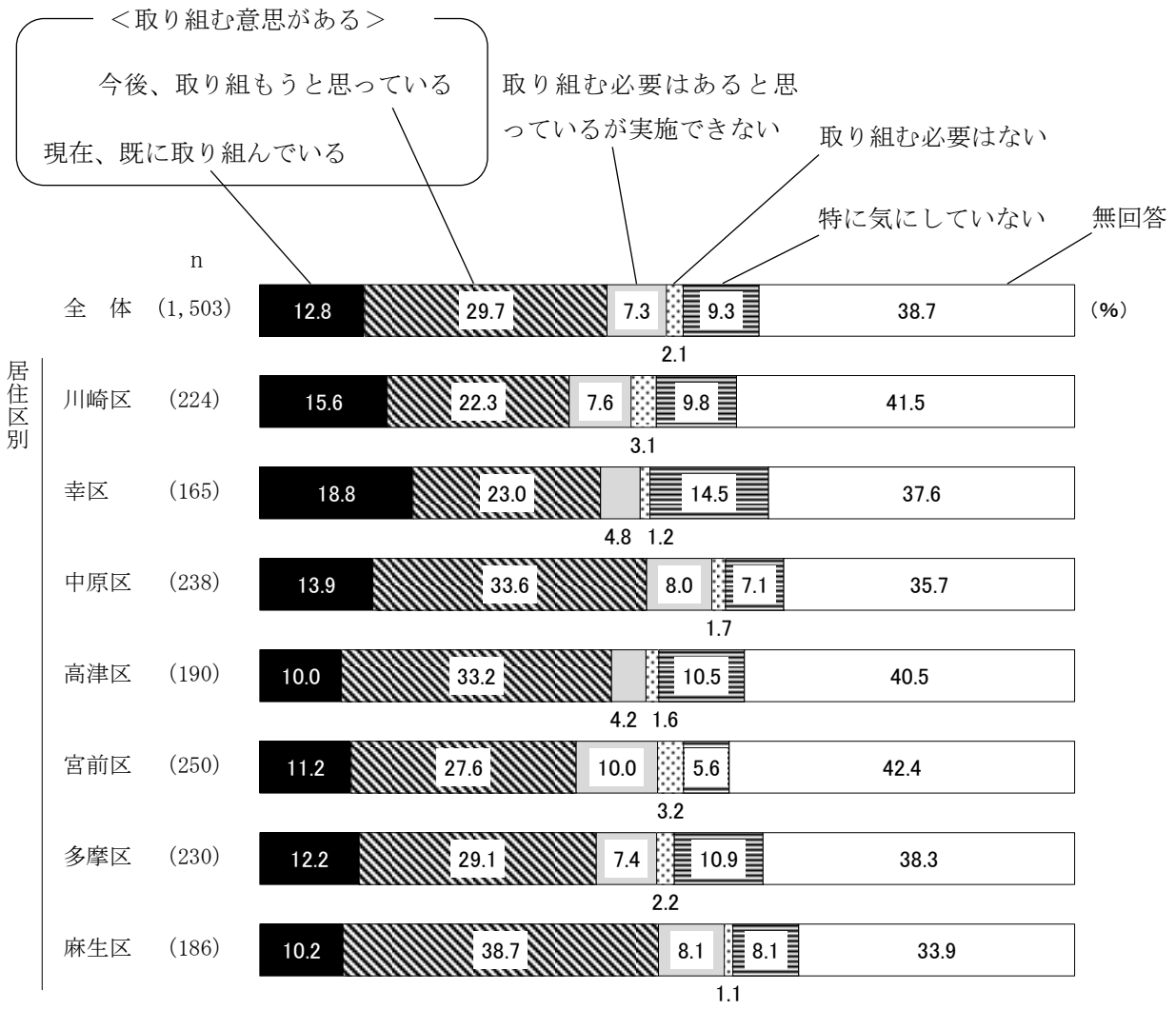
図表３－11　ミックスペーパー分別収集の実施状況・実施予定（居住区別）
＜出すときは、ポリ袋を使用しない＞



居住区別では、「現在、既に取り組んでいる」は、幸区が 20.0％と最も多くなっている。次いで、川崎区の 17.0％、中原区の 11.3％と続いている。「現在、既に取り組んでいる」と「今後、取り組もうと思っている」をあわせた＜取り組む意思がある＞は、麻生区が 44.7％と最も多くなっている。次いで、幸区の 41.2％、中原区の 41.1％と続いている。（図表３－11）

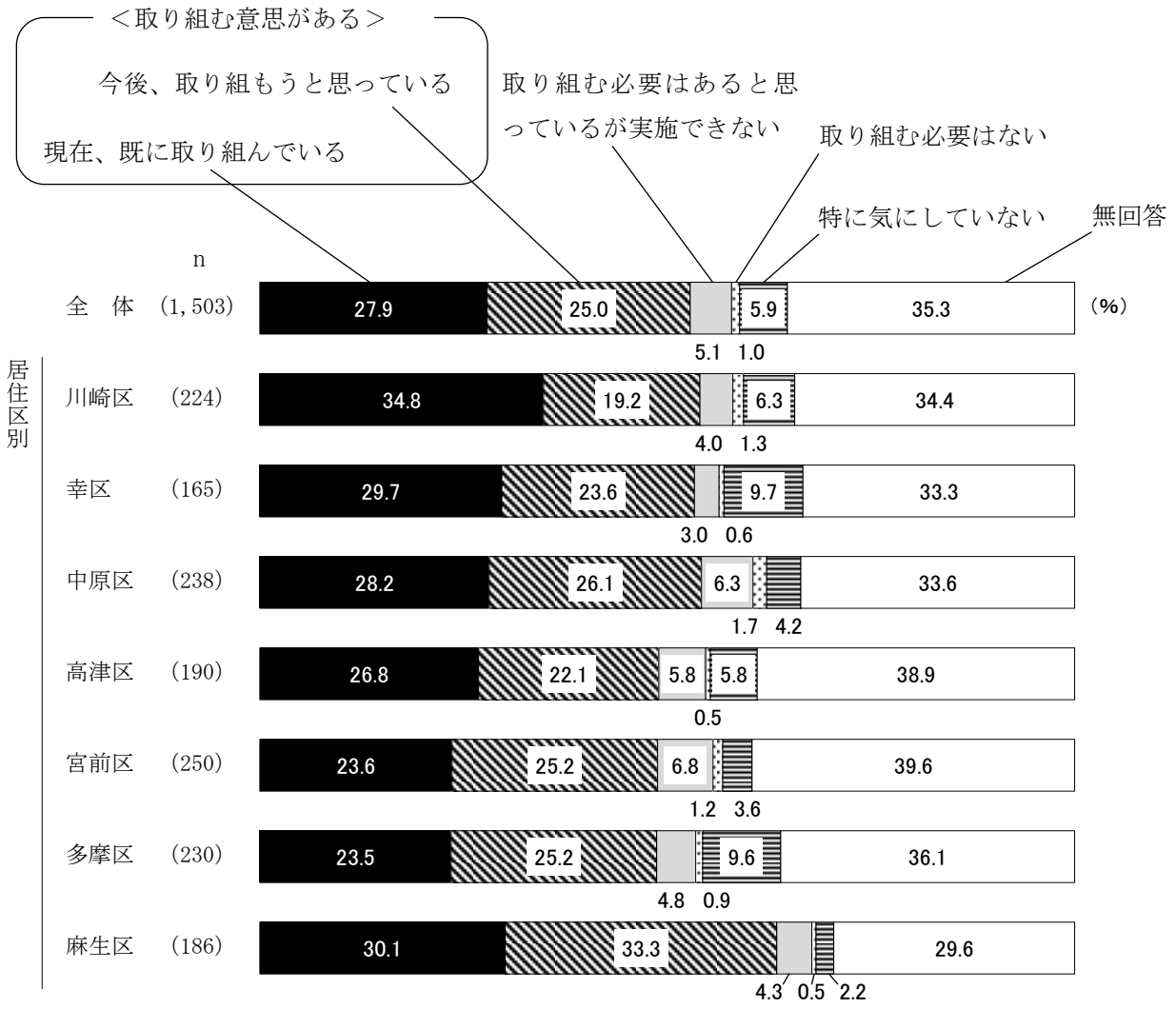
（第１回アンケート）

図表３－12　ミックスペーパー分別収集の実施状況・実施予定（居住区別）
＜ミックスペーパーは朝８時までに出す＞



居住区別では、「現在、既に取り組んでいる」は、幸区が 18.8％と最も多くなっている。次いで、川崎区の 15.6％、中原区の 13.9％と続いている。「現在、既に取り組んでいる」と「今後、取り組もうと思っている」をあわせた＜取り組む意思がある＞は、麻生区が 48.9％と最も多くなっている。次いで、中原区の 47.5％、高津区の 43.2％と続いている。（図表３－12）

図表３－13　ミックスペーパー分別収集の実施状況・実施予定（居住区別）
＜新聞、雑誌、ダンボールはミックスペーパーと分けて資源集団回収に出す＞



居住区別では、「現在、既に取り組んでいる」は、川崎区が 34.8％と最も多くなっている。次いで、麻生区の 30.1％、幸区の 29.7％と続いている。「現在、既に取り組んでいる」と「今後、取り組もうと思っている」をあわせた＜取り組む意思がある＞は、麻生区が 63.4％と最も多くなっている。次いで、中原区の 54.3％、川崎区の 54.0％と続いている。（図表３－13）

（第１回アンケート）

３－６　ミックスペーパー分別収集の取り組みへの阻害要因

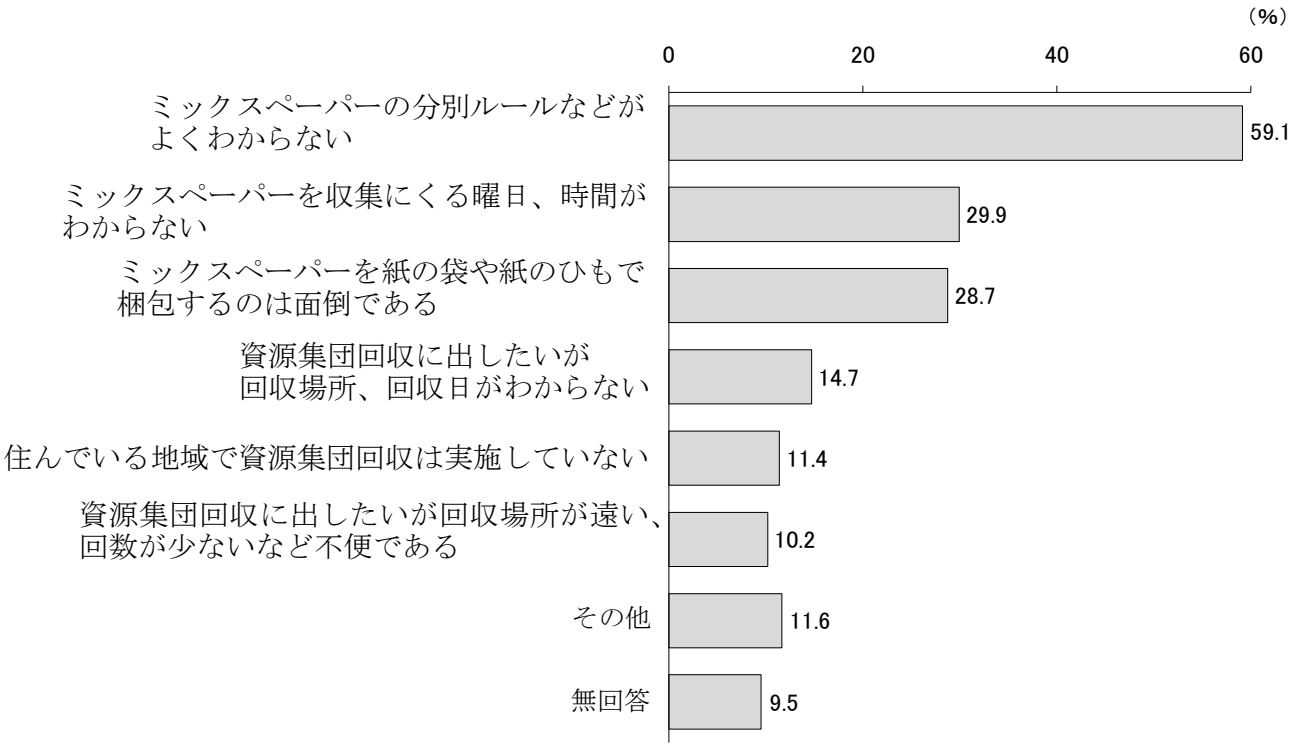
◎「ミックスペーパーの分別ルールなどがよくわからない」が５９．１％

（問 20 で「取り組む必要はあると思っているが実施できない」、「取り組む必要はない」、「特に気にしていない」と答えた方にうかがいます。）

問 21　あなたが取り組むにあたり阻害する要因は、何であると思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

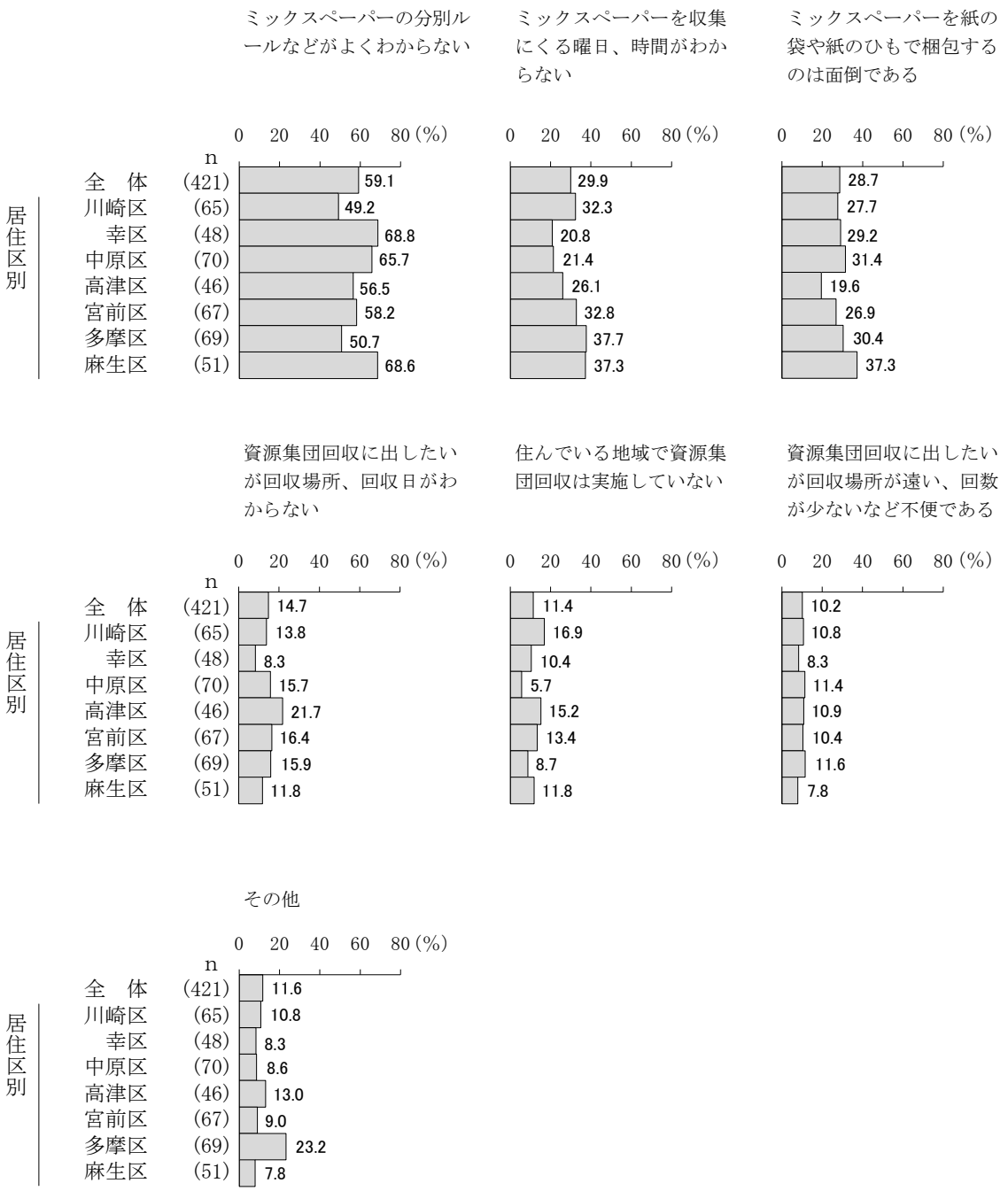
図表３－14　ミックスペーパー分別収集の取り組みへの阻害要因

（複数回答）ｎ＝（421）



ミックスペーパー分別収集の取り組みへの阻害要因は、「ミックスペーパーの分別ルールなどがよくわからない」の 59.1%が最も多くなっている。次いで、「ミックスペーパーを収集にくる曜日、時間がわからない」が 29.9%、「ミックスペーパーを紙の袋や紙のひもで梱包するのは面倒である」が 28.7%となっている。（図表３－14）

図表３－15　ミックスペーパー分別収集の取り組みへの阻害要因（居住区別）



居住区別では、「ミックスペーパーの分別ルールなどがよくわからない」は、幸区が 68.8%と最も多くなっている。次いで、麻生区の 68.6%、中原区の 65.7%と続いている。「ミックスペーパーを収集にくる曜日、時間がわからない」は、多摩区が 37.7%と最も多くなっている。次いで、麻生区の 37.3%、川崎区の 32.3%と続いている。「ミックスペーパーを紙の袋や紙のひもで梱包するのは面倒である」は、麻生区が 37.3%と最も多くなっている。次いで、中原区の 31.4%、多摩区の 30.4%と続いている。（図表３－15）

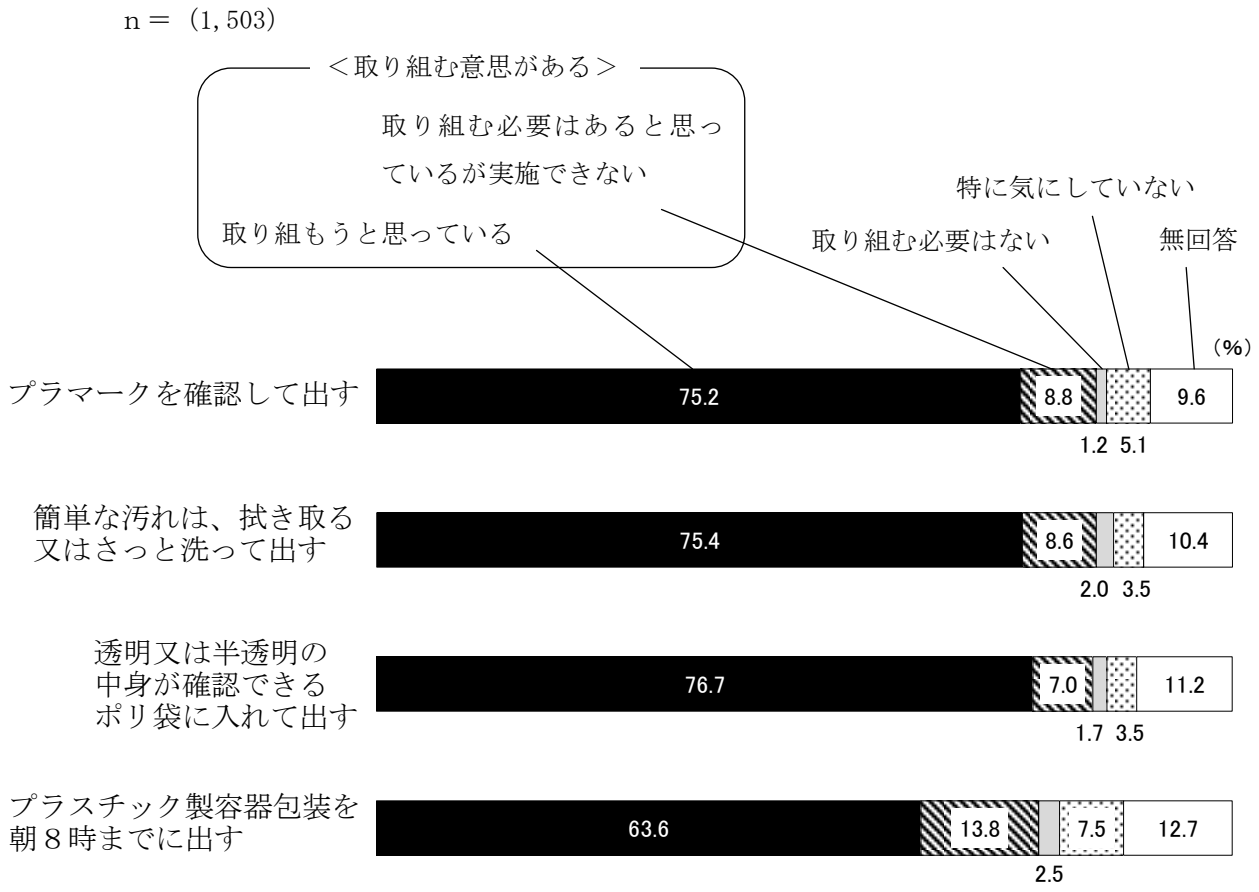
（第１回アンケート）

３－７　プラスチック製容器包装の分別収集への取り組み予定

◎＜取り組む意思がある＞が最も低い項目は、「プラスチック製容器包装を朝８時までに出す」の７７．４％

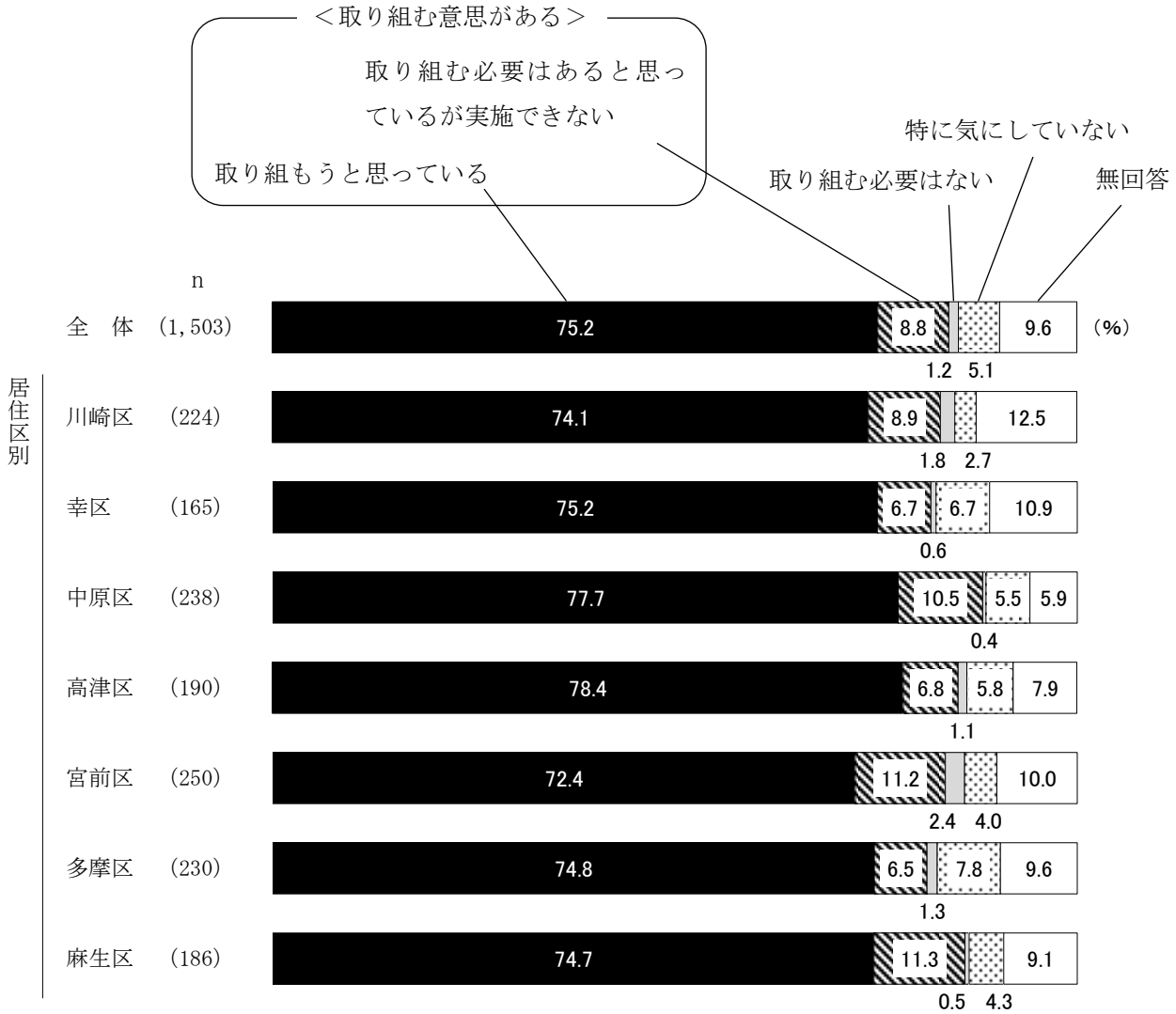
問 22　市では、焼却ごみ量の更なる減量化や資源化を図るため、プラスチック製容器包装の分別収集を開始します。分別収集が開始された場合、あなたは分別排出にどのように取り組むと思いますか。（○はそれぞれ１つずつ）

図表３－16　プラスチック製容器包装の分別収集への取り組み予定



プラスチック製容器包装の分別収集への取り組み予定は、「取り組もうと思っている」と「取り組む必要はあると思っているが実施できない」をあわせた＜取り組む意思がある＞が少ないのは、「プラスチック製容器包装を朝８時までに出す」の 77.4%となっている。（図表３－16）

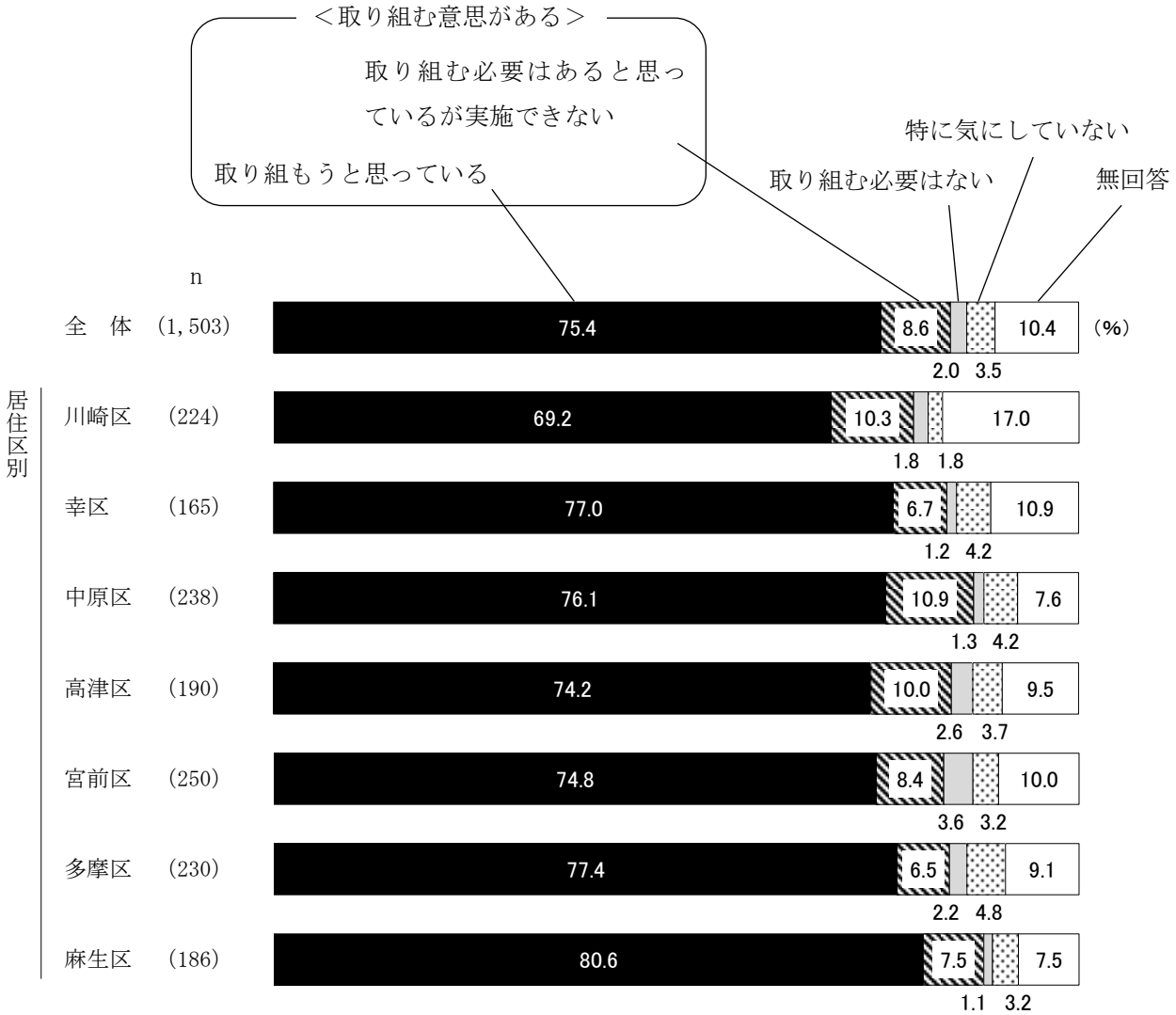
図表３－17　プラスチック製容器包装の分別収集への取り組み予定（居住区別）
＜プラマークを確認して出す＞



居住区別では、「取り組もうと思っている」と「取り組む必要はあると思っているが実施できない」をあわせた＜取り組む意思がある＞は、中原区が 88.2％と最も多くなっている。次いで、麻生区の 86.0％、高津区の 85.2％と続いている。（図表３－17）

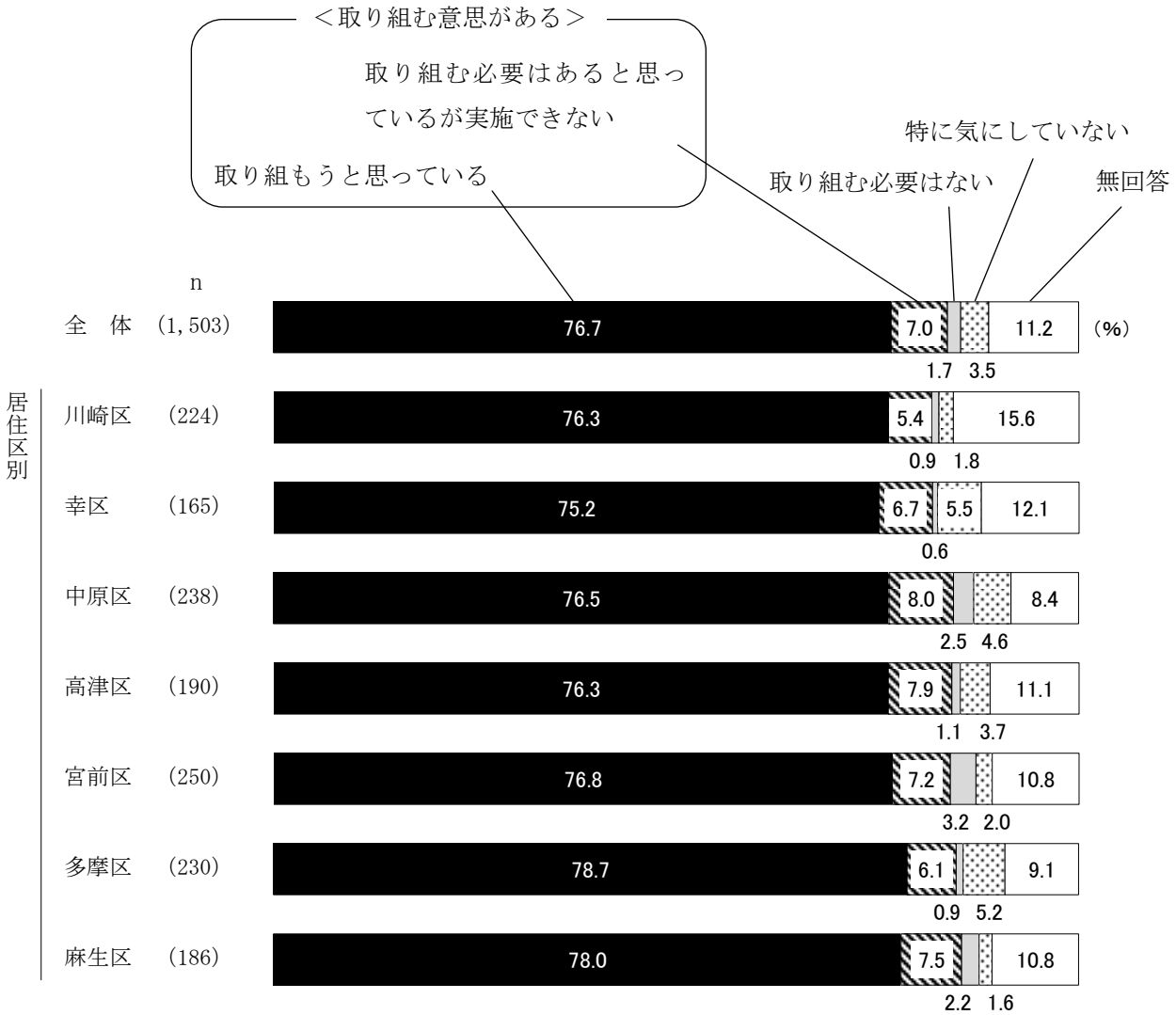
（第１回アンケート）

図表３－18　プラスチック製容器包装の分別収集への取り組み予定（居住区別）
＜簡単な汚れは、拭き取る又はさっと洗って出す＞



居住区別では、「取り組もうと思っている」と「取り組む必要はあると思っているが実施できない」をあわせた＜取り組む意思がある＞は、麻生区が 88.1％と最も多くなっている。次いで、中原区の 87.0％、高津区の 84.2％と続いている。（図表３－18）

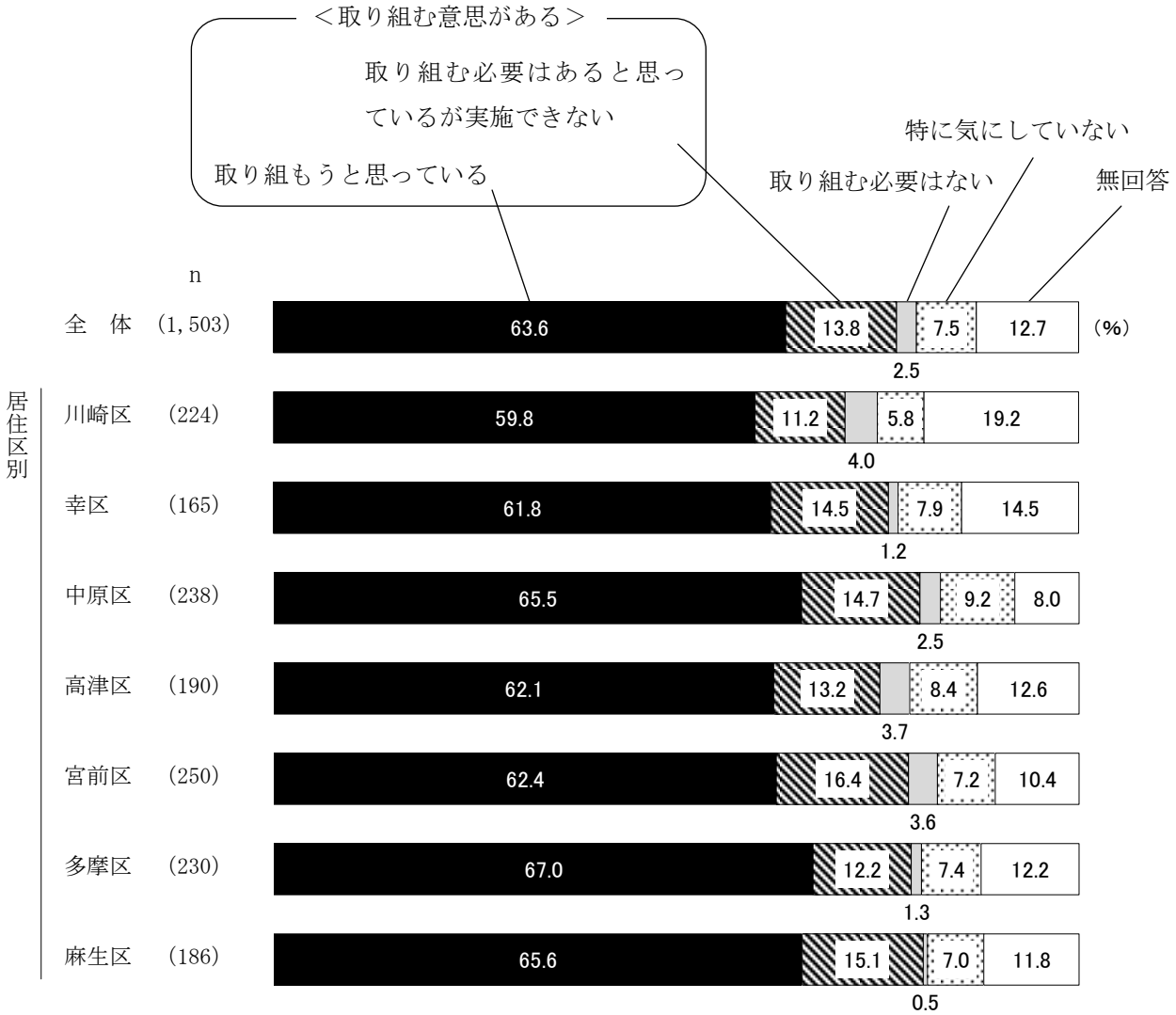
図表３－19　プラスチック製容器包装の分別収集への取り組み予定（居住区別）
＜透明又は半透明の中身が確認できるポリ袋に入れて出す＞



居住区別では、「取り組もうと思っている」と「取り組む必要はあると思っているが実施できない」をあわせた＜取り組む意思がある＞は、麻生区が 85.5％と最も多くなっている。次いで、多摩区の 84.8％、中原区の 84.5％と続いている。（図表３－19）

（第１回アンケート）

図表３－20　プラスチック製容器包装の分別収集への取り組み予定（居住区別）
＜プラスチック製容器包装を朝８時までに出す＞



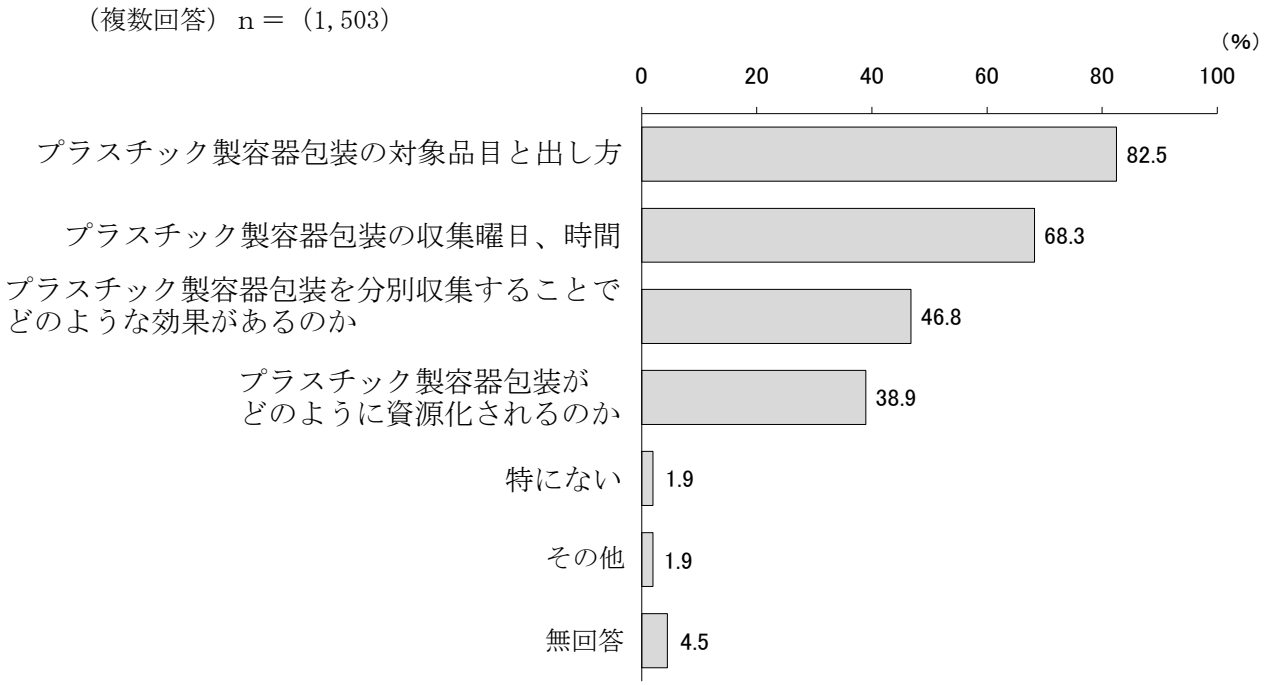
居住区別では、「取り組もうと思っている」と「取り組む必要はあると思っているが実施できない」をあわせた＜取り組む意思がある＞は、麻生区が 80.7％と最も多くなっている。次いで、中原区の 80.2％、多摩区の 79.2％と続いている。（図表３－20）

３－８　プラスチック製容器包装の分別収集において必要とされる情報

◎「プラスチック製容器包装の対象品目と出し方」が８２．５％

問 23　プラスチック製容器包装の分別収集が開始された場合、あなたが取り組むにあたり、どのような情報が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

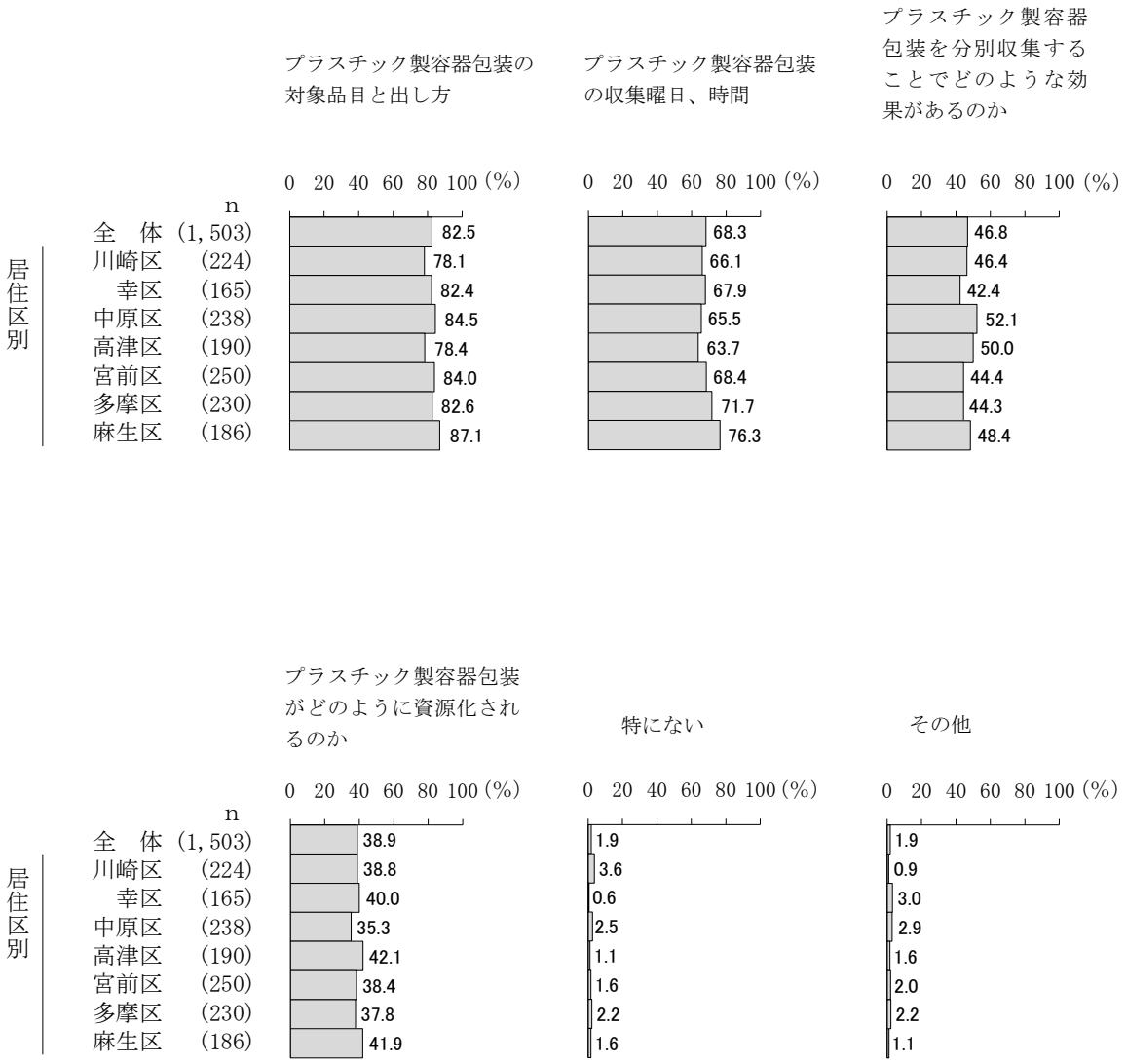
図表３－21　プラスチック製容器包装の分別収集において必要とされる情報



プラスチック製容器包装の分別収集において必要とされる情報は、「プラスチック製容器包装の対象品目と出し方」の 82.5%が最も多くなっている。次いで、「プラスチック製容器包装の収集曜日、時間」が 68.3%、「プラスチック製容器包装を分別収集することでどのような効果があるのか」が 46.8%となっている。（図表３－21）

（第１回アンケート）

図表３－22　プラスチック製容器包装の分別収集において必要とされる情報（居住区別）



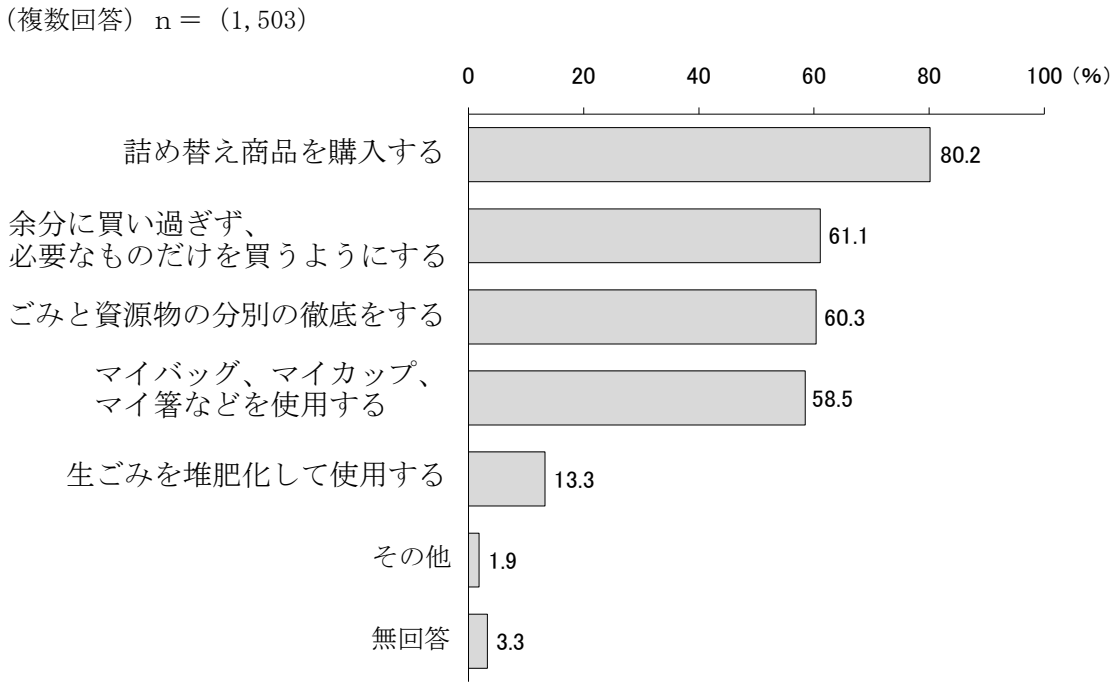
居住区別では、「プラスチック製容器包装の対象品目と出し方」は、麻生区が 87.1％と最も多くなっている。次いで、中原区の 84.5％、宮前区の 84.0％と続いている。「プラスチック製容器包装の収集曜日、時間」は、麻生区が 76.3％と最も多くなっている。次いで、多摩区の 71.7％、宮前区の 68.4％と続いている。「プラスチック製容器包装を分別収集することでどのような効果があるのか」は、中原区が 52.1％と最も多くなっている。次いで、高津区の 50.0％、麻生区の 48.4％と続いている。（図表３－22）

３－９　ごみ減量化に協力できる項目

◎「詰め替え商品を購入する」が８０．２％

問 24　あなたがごみの減量化に協力できることは何があると思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

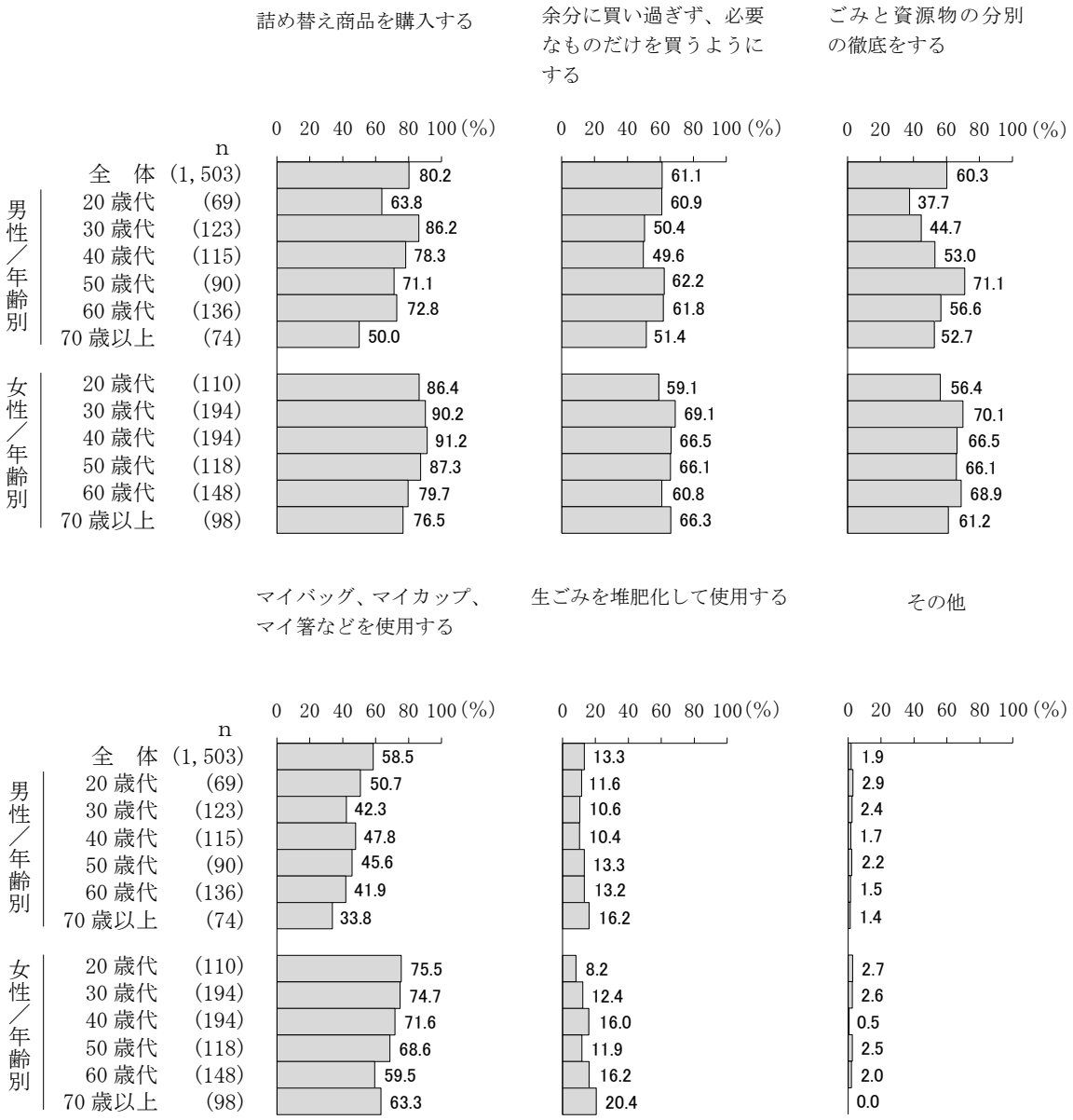
図表３－23　ごみ減量化に協力できる項目



ごみ減量化に協力できる項目は、「詰め替え商品を購入する」の 80.2%が最も多くなっている。次いで、「余分に買い過ぎず、必要なものだけを買うようにする」が 61.1%、「ごみと資源物の分別の徹底をする」が 60.3%となっている。（図表３－23）

（第１回アンケート）

図表３－24　ごみ減量化に協力できる項目（性／年齢別）



性／年齢別では、「詰め替え商品を購入する」は、男性では 30 歳代から 70 歳以上でおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「ごみと資源物の分別の徹底をする」は、男性では 20 歳代が 37.7%で最も少なくなっており、50 歳代が 71.1%で最も多くなっている。女性では５割台半ばから７割台前半となっている。（図表３－24）

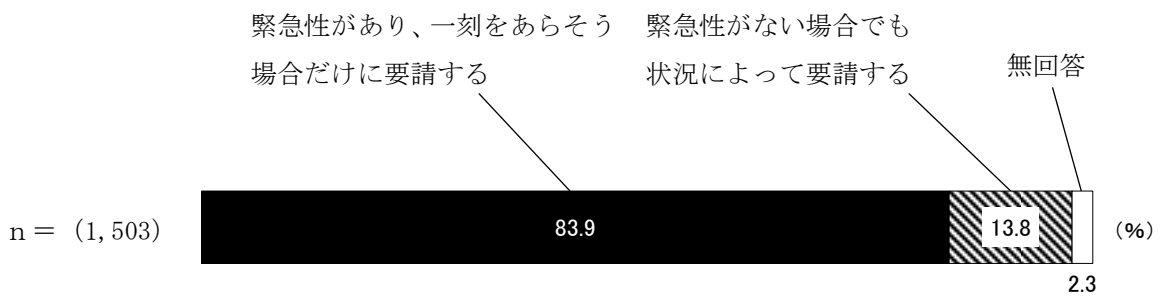
４　救急車の利用について

４－１　救急車要請における緊急性についての意識状況

◎「緊急性があり、一刻をあらそう場合だけに要請する」が８３．９％

問 25　あなたは、救急車はどのようなときに要請するべきものだと考えますか。（○は１つだけ）

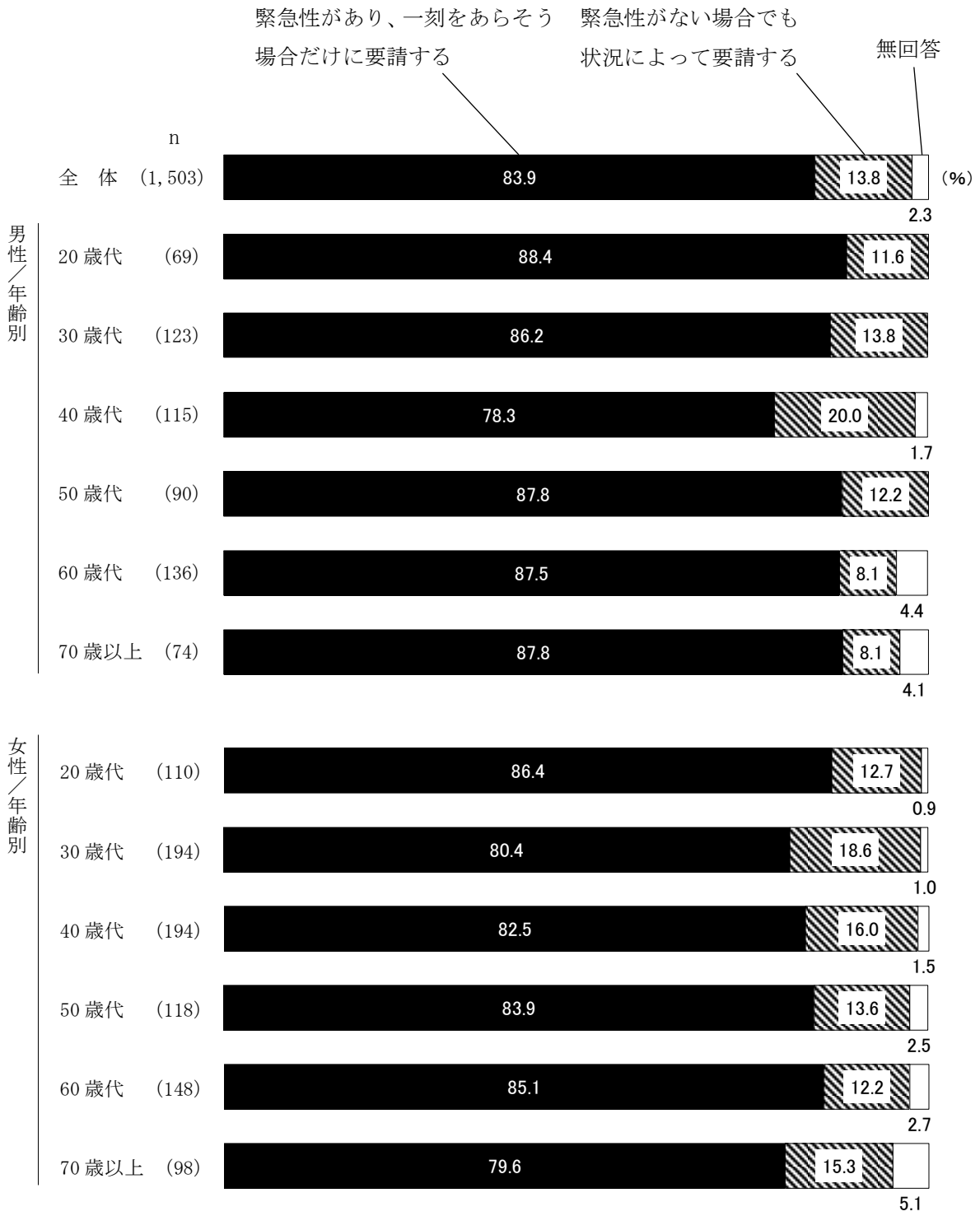
図表４－１　救急車要請における緊急性についての意識状況



救急車要請における緊急性についての意識状況は、「緊急性があり、一刻をあらそう場合だけに要請する」が 83.9%、「緊急性がない場合でも状況によって要請する」が 13.8%となっている。（図表４－１）

（第１回アンケート）

図表４－２　救急車要請における緊急性についての意識状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「緊急性があり、一刻をあらそう場合だけに要請する」は、男性では 40 歳代が 78.3%で最も少なくなっており、他の年代では８割台半ばから８割台後半となっている。女性では７割台後半から８割台半ばとなっている。（図表４－２）

４－２　緊急性がない場合に救急車を利用する理由

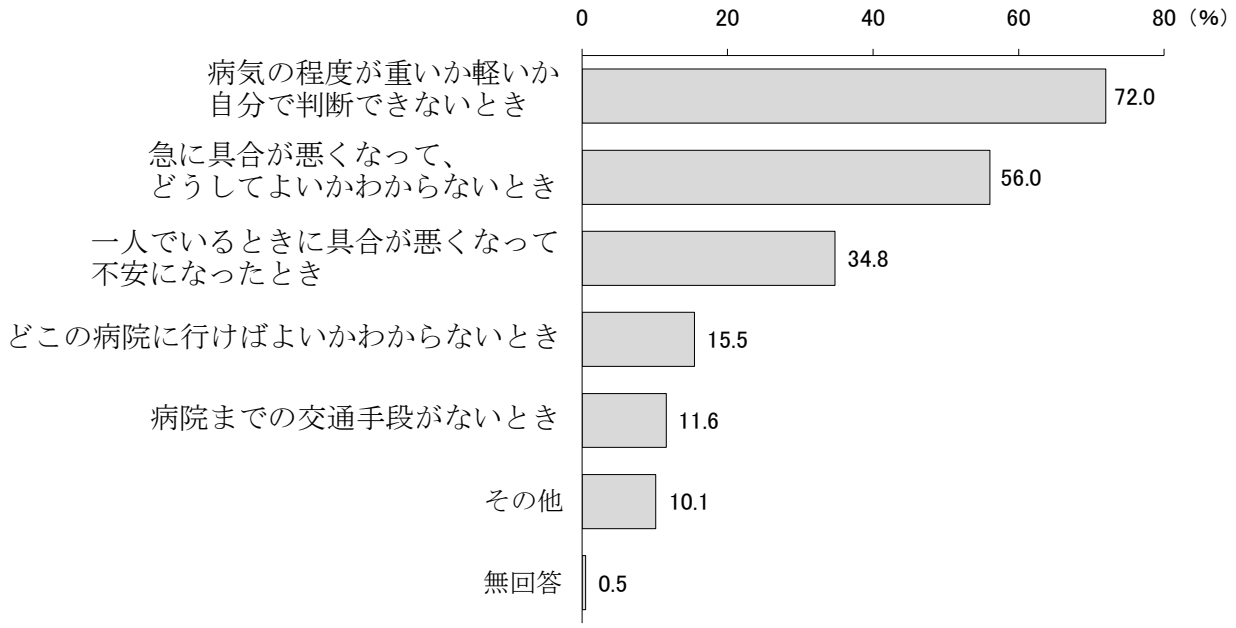
◎「病気の程度が重いか軽いか自分で判断できないとき」が７２．０％

（問 25 で「２」と答えた方にうかがいます。）

問 26　あなたは緊急性がない場合に、救急車を利用する理由にはどのようなことがあると考えますか。（あてはまるものすべてに○）

図表４－３　緊急性がない場合に救急車を利用する理由

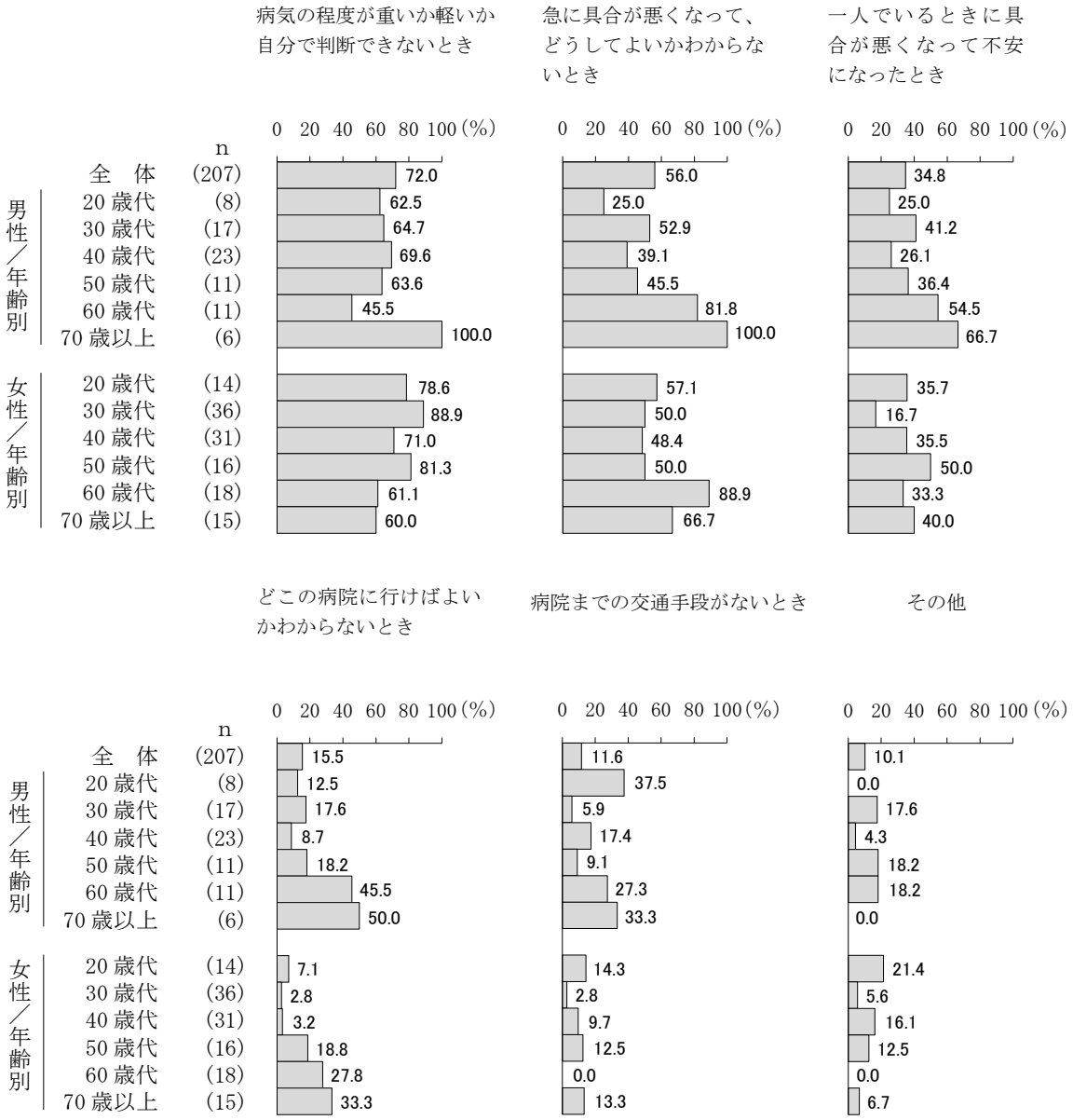
（複数回答）ｎ＝（207）



緊急性がない場合に救急車を利用する理由は、「病気の程度が重いか軽いか自分で判断できないとき」の 72.0%が最も多くなっている。次いで、「急に具合が悪くなって、どうしてよいかわからないとき」が 56.0%、「一人でいるときに具合が悪くなって不安になったとき」が 34.8%となっている。（図表４－３）

（第１回アンケート）

図表４－４　緊急性がない場合に救急車を利用する理由（性／年齢別）



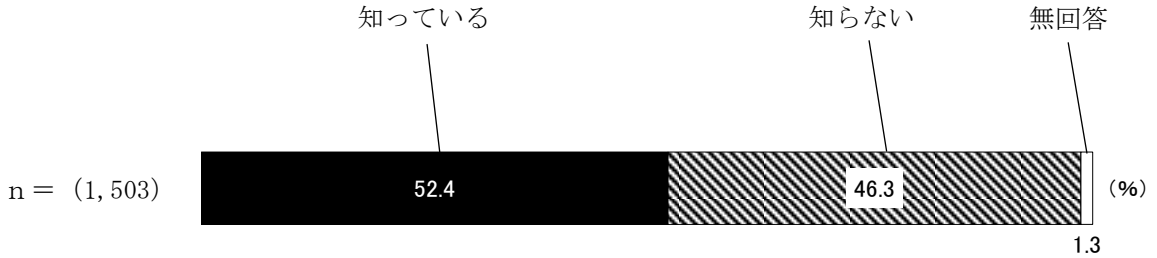
性／年齢別では、「病気の程度が重いか軽いか自分で判断できないとき」と「急に具合が悪くなって、どうしてよいかわからないとき」は、男性では 70 歳以上で全員が利用すると回答している。「一人でいるときに具合が悪くなって不安になったとき」も６割台半ばと最も多くなっている。（図表４－４）

４－３　救急車利用の約６割が入院不要の軽症者であることの認知状況

◎「知っている」は５２．４％

問 27　あなたは、救急車で搬送される人数のうち、約６割が入院を必要としない軽症者である実態を知っていますか。（○は１つだけ）

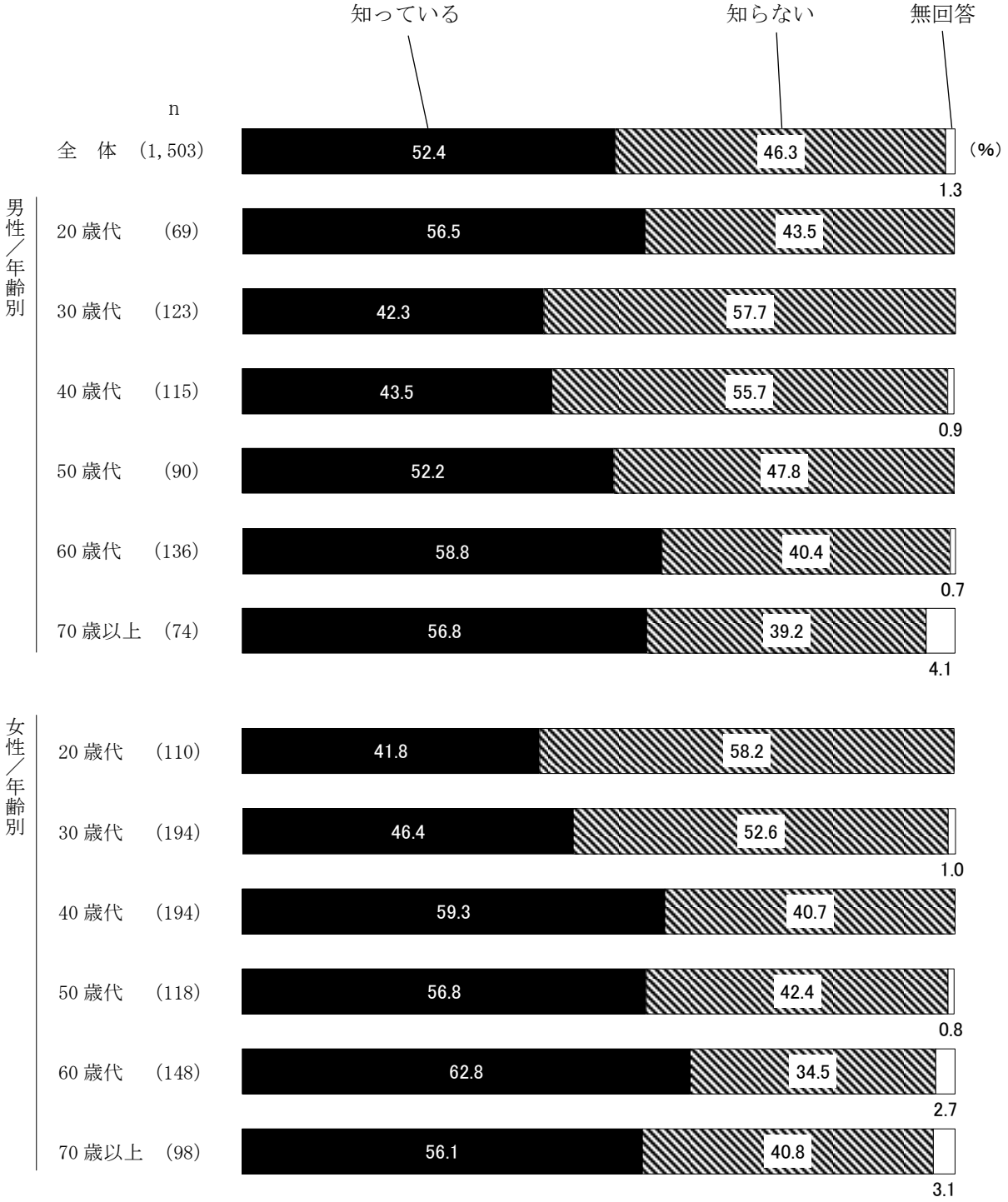
図表４－５　救急車利用の約６割が入院不要の軽症者であることの認知状況



救急車利用の約６割が入院不要の軽症者であることの認知状況は、「知っている」が 52.4%、「知らない」が 46.3%となっている。（図表４－５）

（第１回アンケート）

図表４－６　救急車利用の約６割が入院不要の軽症者であることの認知状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「知っている」は、男性では 30 歳代から 40 歳代までが４割台前半から４割台半ばと少なくなっている。女性では 20 歳代から 30 歳代までが４割台前半から４割台半ばと少なくなっている。（図表４－６）

４－４　川崎市救急医療情報センターの認知状況

◎「知っている」は３８．６％

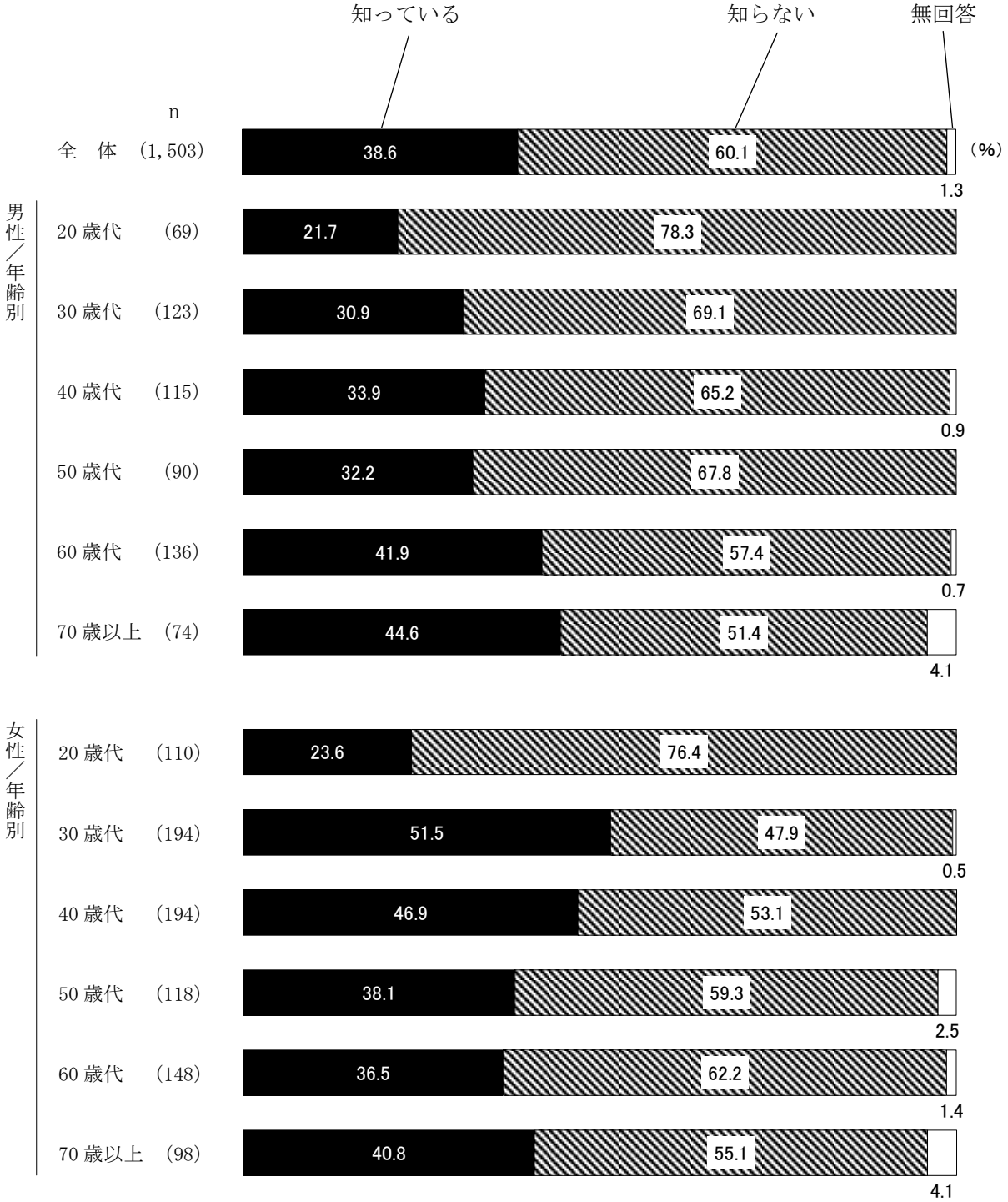
問 28　あなたは、※川崎市救急医療情報センター（０４４－２２２－１９１９）で急な病気や怪我をされた方に対し、３６５日２４時間体制で、医療機関をオペレーターが案内していることを知っていますか。（○は１つだけ）

図表４－７　川崎市救急医療情報センターの認知状況

川崎市救急医療情報センターの認知状況は、「知っている」が 38.6%、「知らない」が 60.1%となっている。（図表４－７）

（第１回アンケート）

図表４－８　川崎市救急医療情報センターの認知状況（性／年齢別）



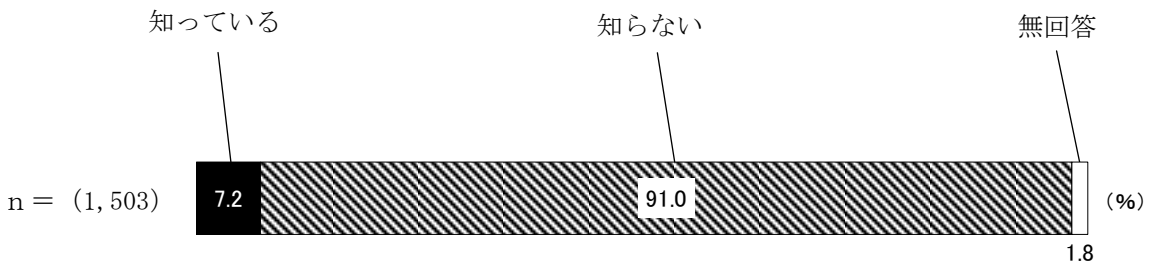
性／年齢別では、「知っている」は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では 20 歳代が 23.6％で最も少なくなっており、30 歳代から 60 歳代で年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。（図表４－８）

４－５　サポート救急制度の認知状況

◎「知っている」は7．２％

問 29　あなたは、川崎市救急医療情報センター（０４４－２２２－１９１９）において、医療機関案内業務に加え、病院へ行くための交通手段がない方に対し、有料のタクシーや民間救急車を案内又は手配するサポート救急制度を平成２０年５月から開始していますが、この制度のことを知っていますか。（○は１つだけ）

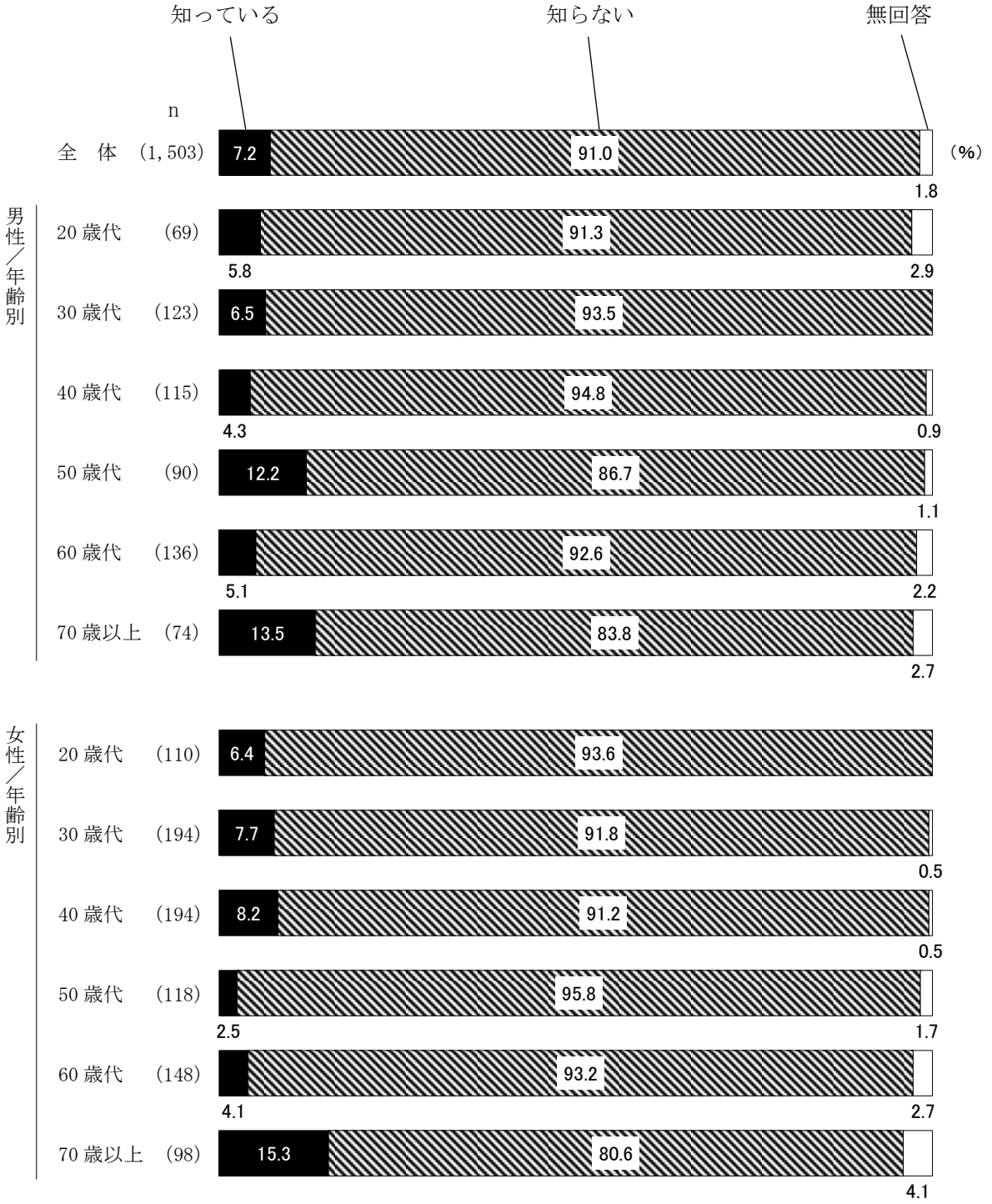
図表４－９　サポート救急制度の認知状況



サポート救急制度の認知状況は、「知っている」が 7.2%、「知らない」が 91.0%となっている。（図表４－９）

（第１回アンケート）

図表４－10　サポート救急制度の認知状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「知っている」は、男性では 70 歳以上が 13.5%、女性も 70 歳以上が 15.3%と最も多くなっている。「知らない」は、男性では 40 歳代が 94.8%、女性では 50 歳代が 95.8%と最も多くなっている。（図表４－10）

４－６　サポート救急制度を知った手段

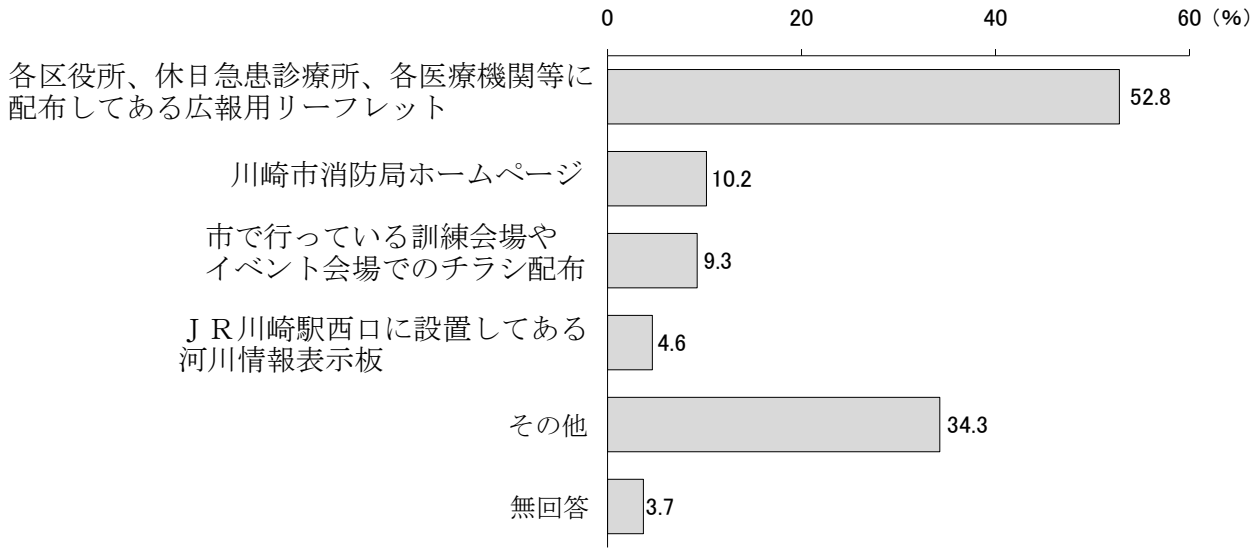
◎「各区役所、休日急患診療所、各医療機関等に配布してある広報用リーフレット」が５２．８％

（問 29 で「１」と答えた方にうかがいます。）

問 30　あなたは、どんな手段でサポート救急制度を知りましたか。（あてはまるものすべてに○）

図表４－11　サポート救急制度を知った手段

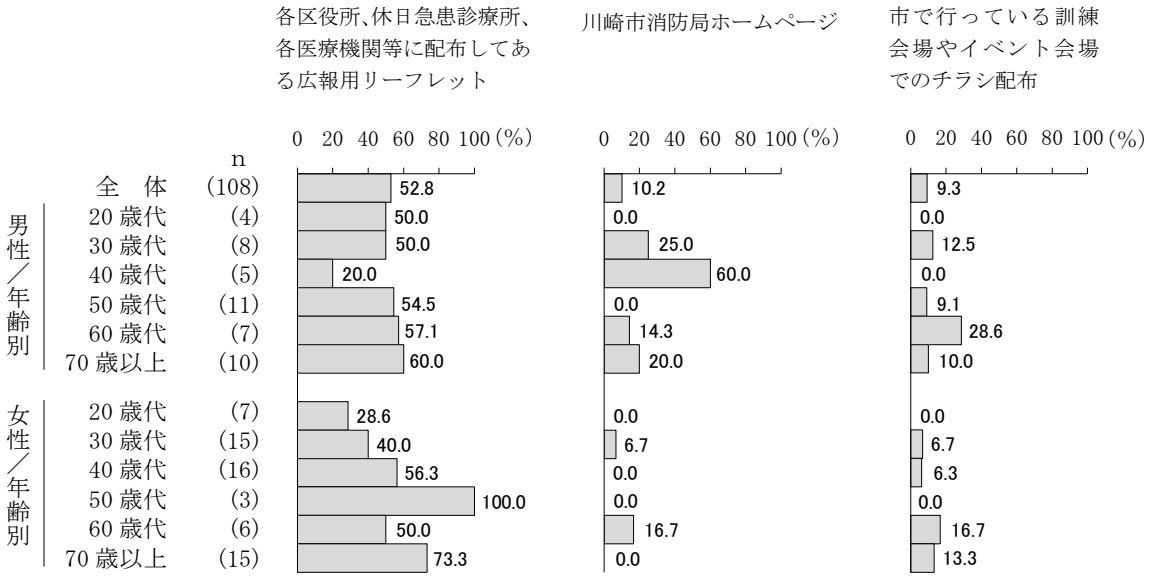
（複数回答）ｎ＝（108）

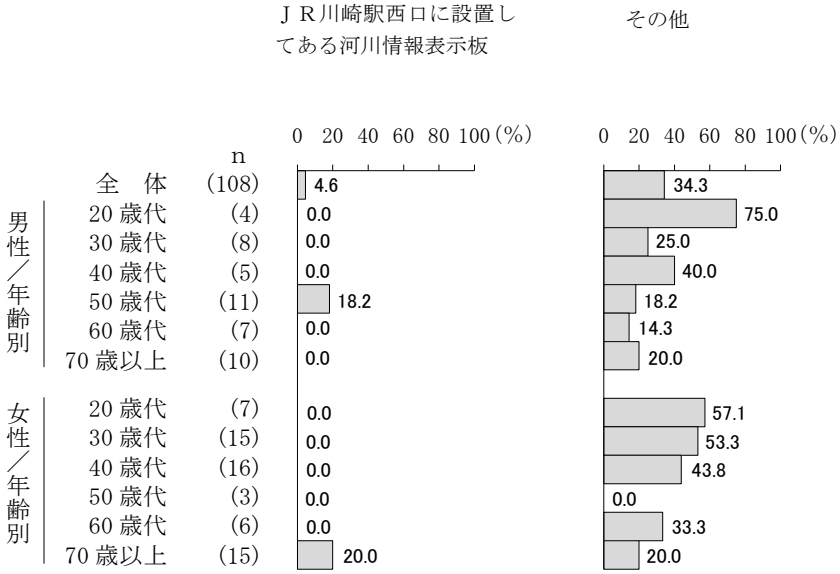


サポート救急制度を知った手段は、「各区役所、休日急患診療所、各医療機関等に配布してある広報用リーフレット」の 52.8%が最も多くなっている。次いで、「川崎市消防局ホームページ」が 10.2%、「市で行っている訓練会場やイベント会場でのチラシ配布」が 9.3%となっている。（図表４－11）

（第１回アンケート）

図表４－12　サポート救急制度を知った手段（性／年齢別）





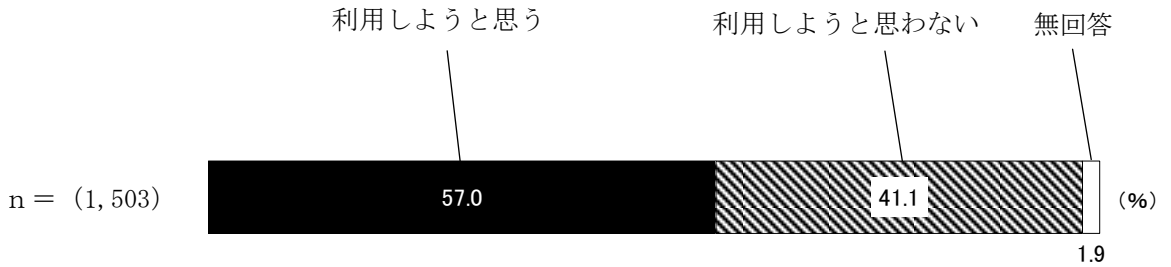
性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。（図表４－12）

４－７　緊急性が低い場合にサポート救急制度を利用するか

◎「利用しようと思う」が５７．０％

問 31　あなたは、急病や怪我をした場合で、緊急性が高くないと思われる場合にサポート救急制度を利用しようと思いますか。（○は１つだけ）

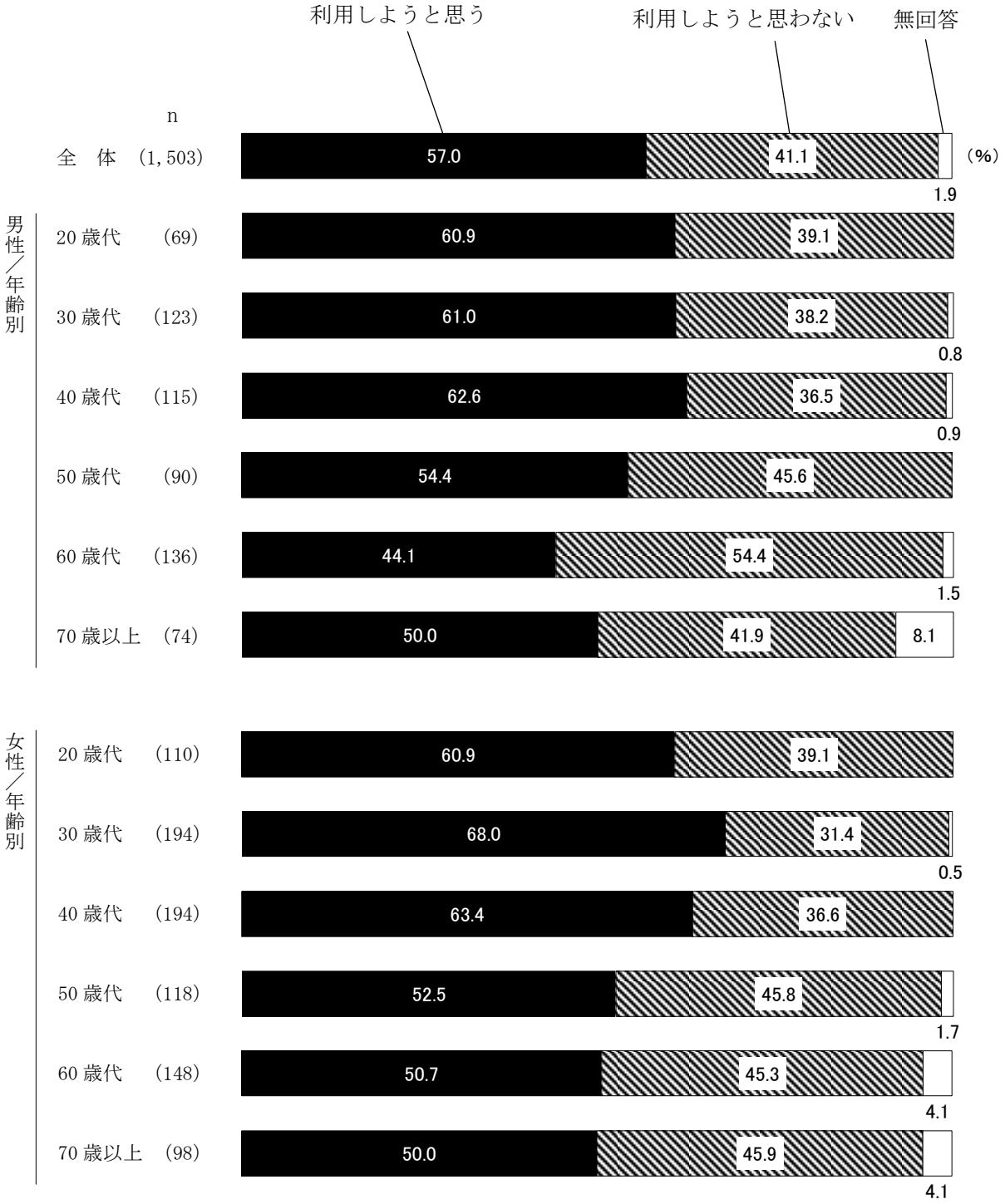
図表４－13　緊急性が低い場合にサポート救急制度を利用するか



緊急性が低い場合にサポート救急制度を利用するかは、「利用しようと思う」が 57.0%、「利用しようと思わない」が 41.1%となっている。（図表４－13）

（第１回アンケート）

図表４－14　緊急性が低い場合にサポート救急制度を利用するか（性／年齢別）



性／年齢別では、「利用しようと思う」は、男性では 60 歳代が 44.1％と最も少なくなっており、他の年代では５割から６割台半ばとなっている。女性では 30 歳代から 70 歳以上で年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。（図表４－14）

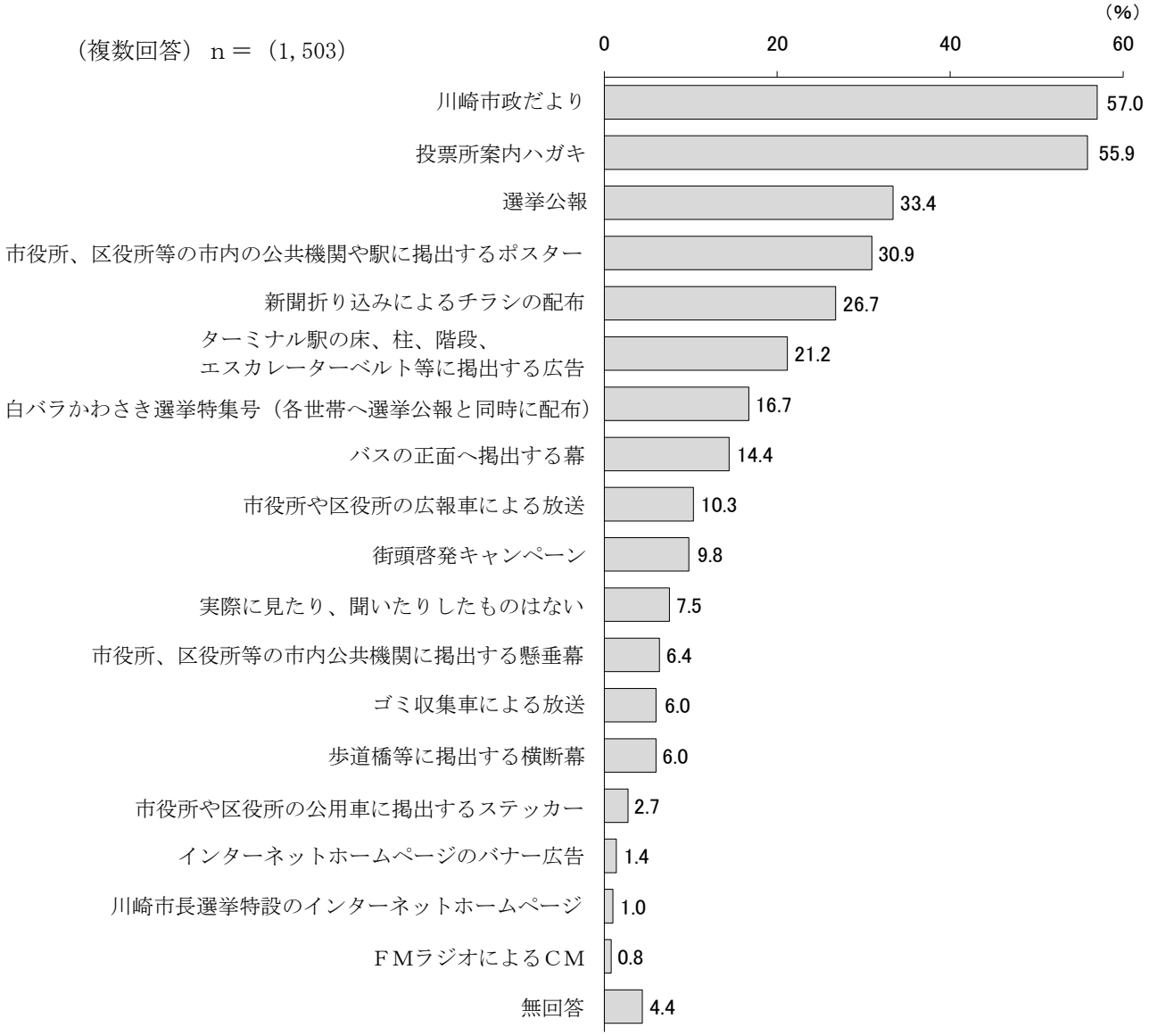
５　選挙について

５－１　情報源として実際に見たり聞いたりしたもの

◎「川崎市政だより」が５７．０％

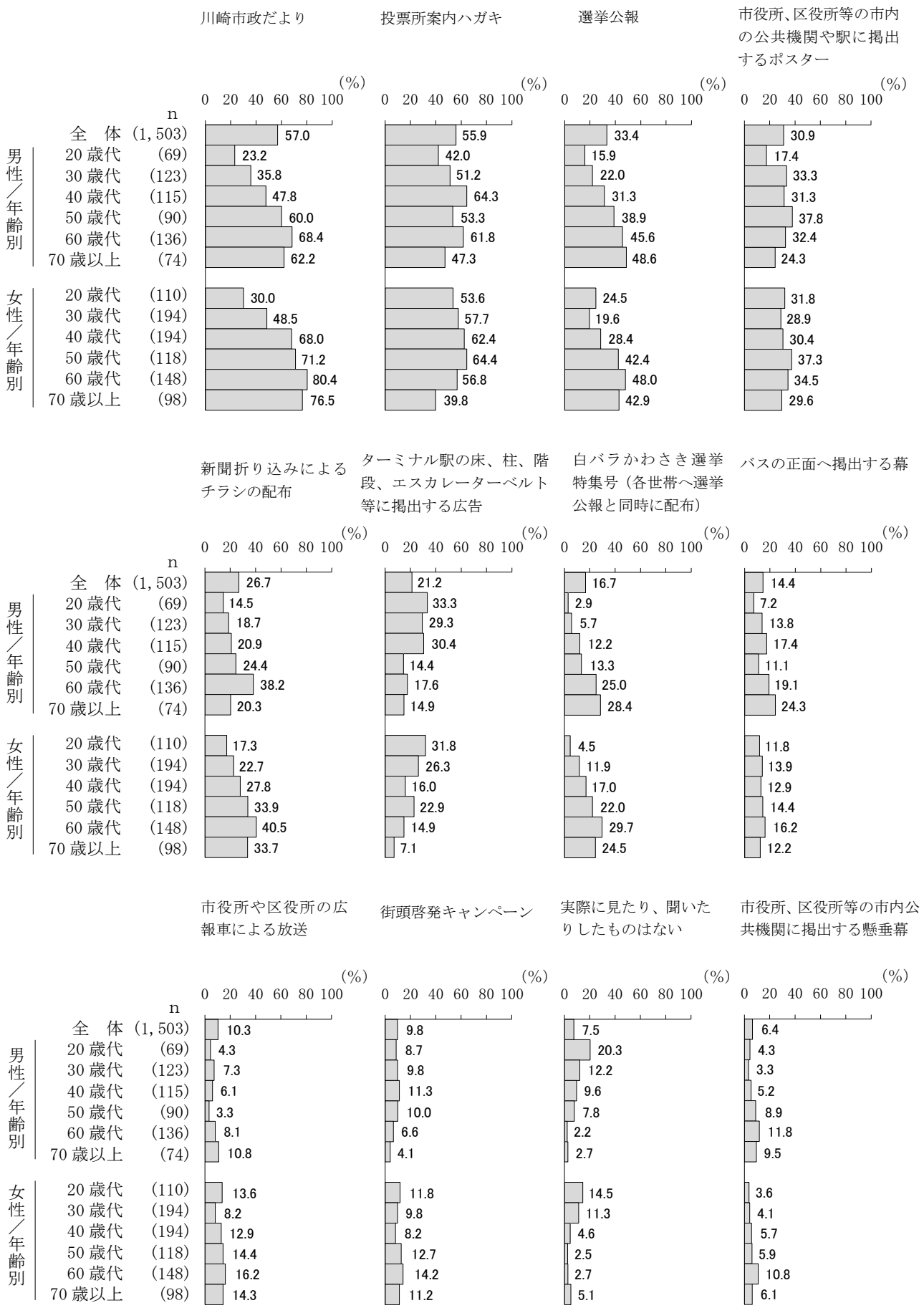
問 32　昨年の１０月に川崎市長選挙が行われましたが、その際に、市からの選挙についての情報源として実際に見たり、聞いたりしたものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

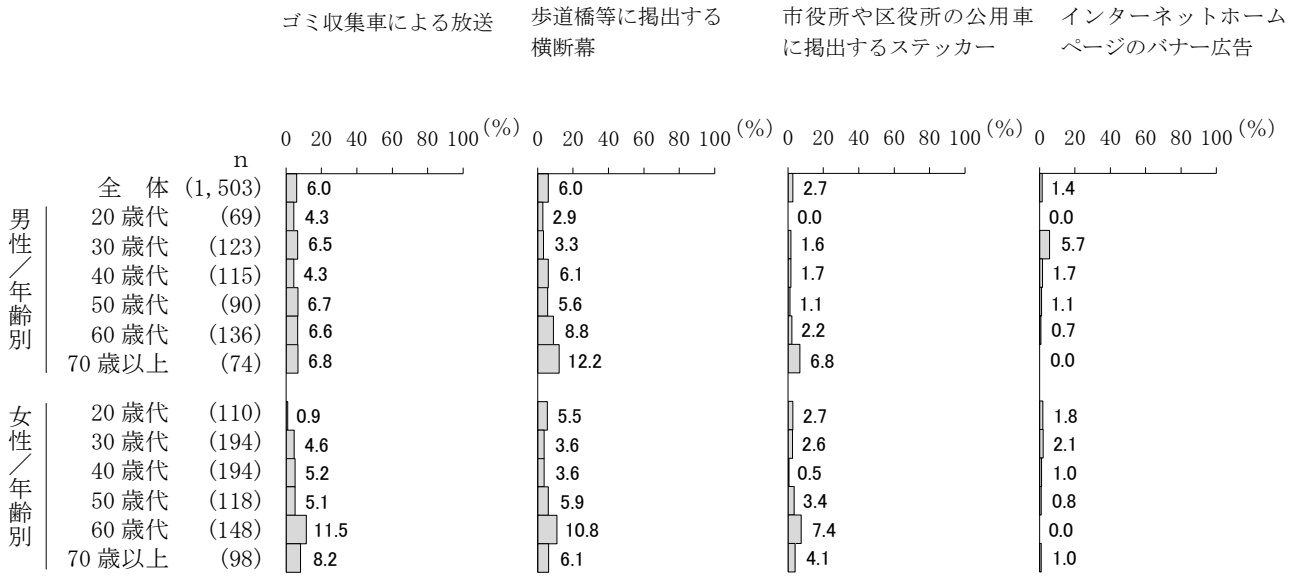
図表５－１　情報源として実際に見たり聞いたりしたもの

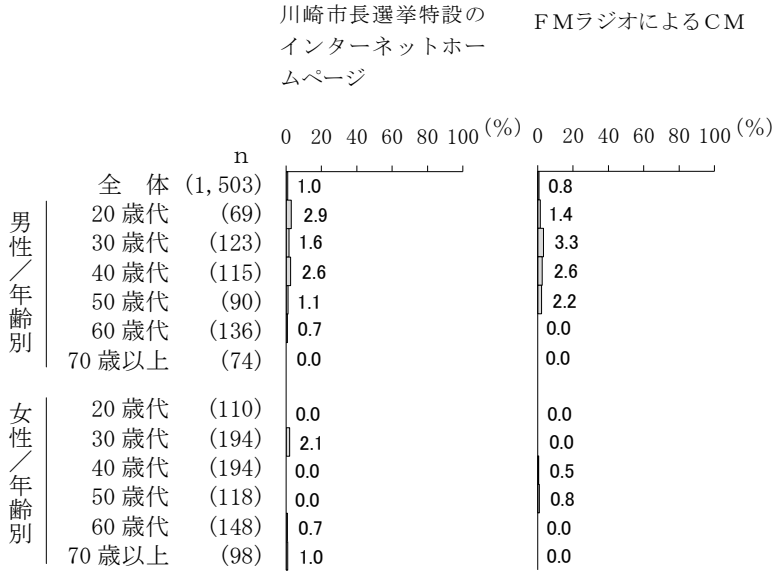


情報源として実際に見たり聞いたりしたものは、「川崎市政だより」の 57.0%が最も多くなっている。次いで、「投票所案内ハガキ」が 55.9%、「選挙公報」が 33.4%となっている。（図表５－１）

図表５－２　情報源として実際に見たり聞いたりしたもの（性／年齢別）







性／年齢別では、「川崎市政だより」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「投票所案内ハガキ」は、男性では 40 歳代と 60 歳代が６割台前半から６割台半ばと多くなっており、他の年代では４割台前半から５割台半ばとなっている。女性では 70 歳以上が 39.8％と最も少なくなっており、他の年代では５割台半ばから６割台半ばとなっている。「選挙公報」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。（図表５－２）

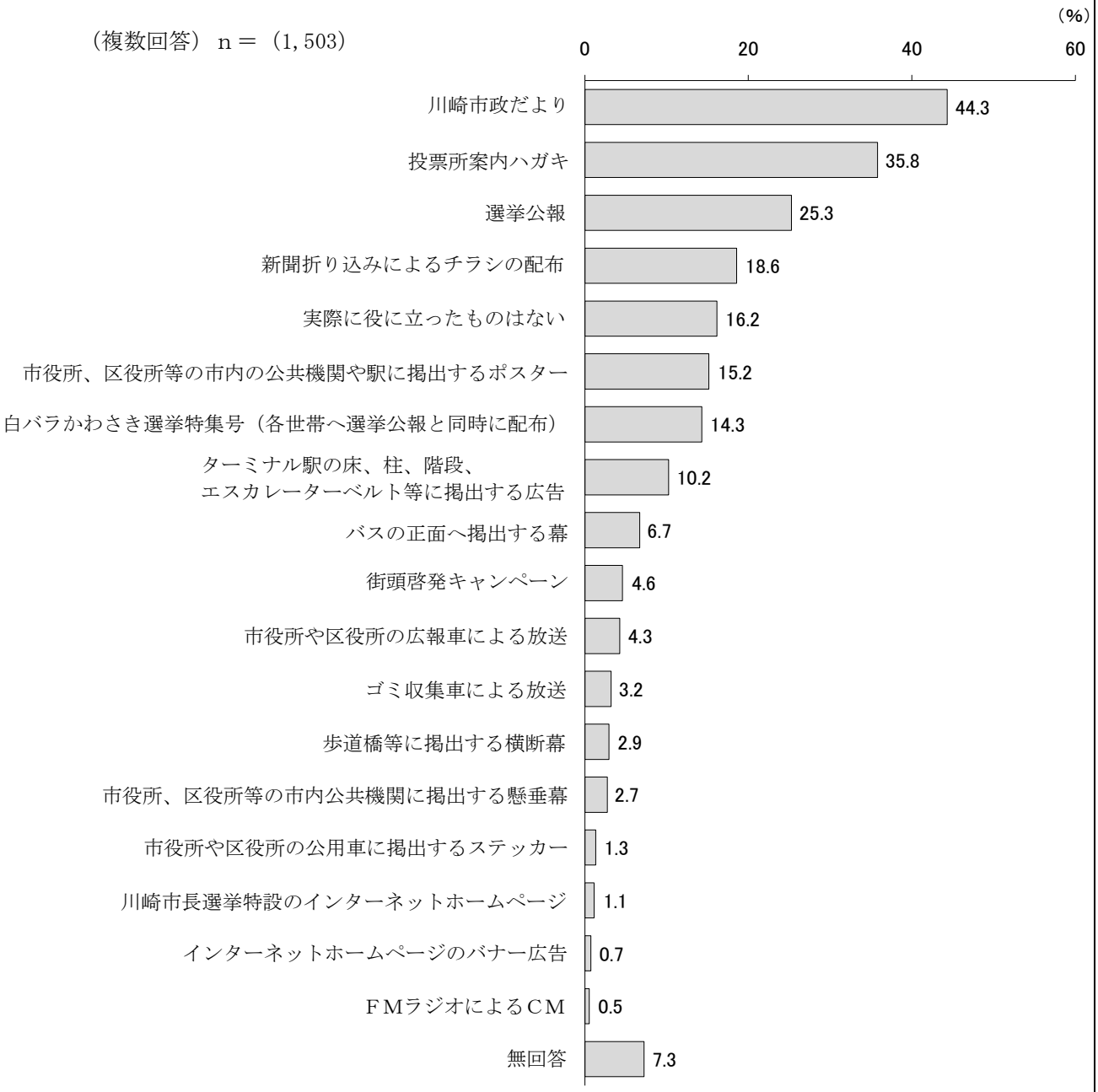
（第１回アンケート）

５－２　情報源として投票する際に役に立ったもの

◎「川崎市政だより」が４４．３％

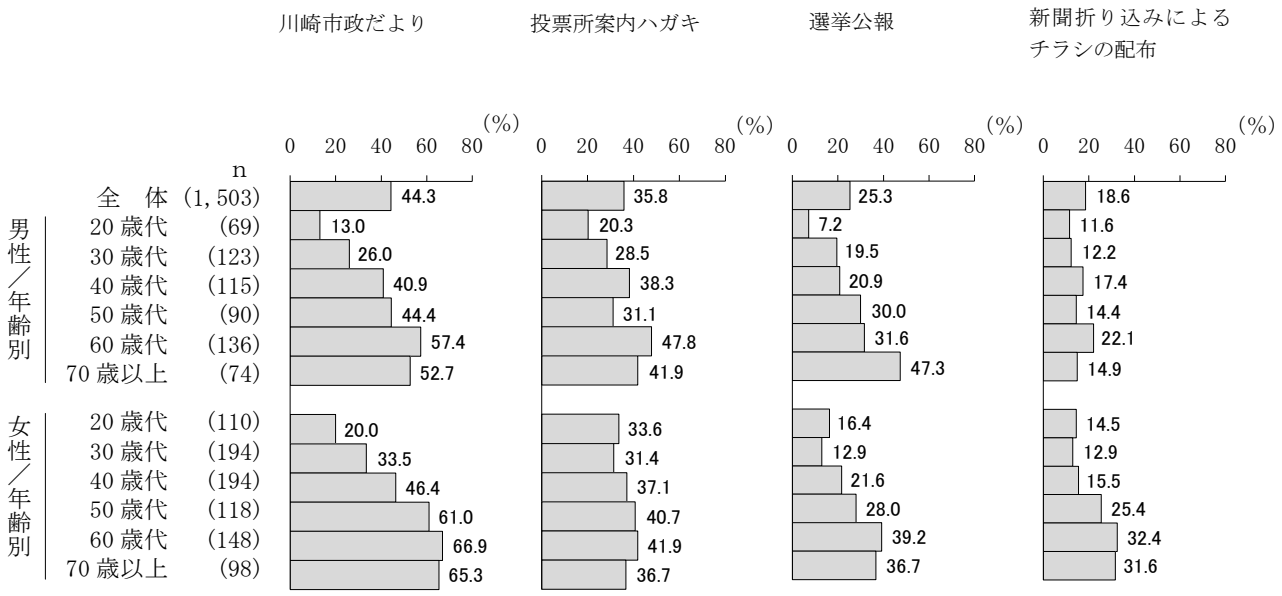
問 33　昨年の１０月に川崎市長選挙が行われましたが、その際に、市からの選挙についての情報源として投票する際に役に立ったものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

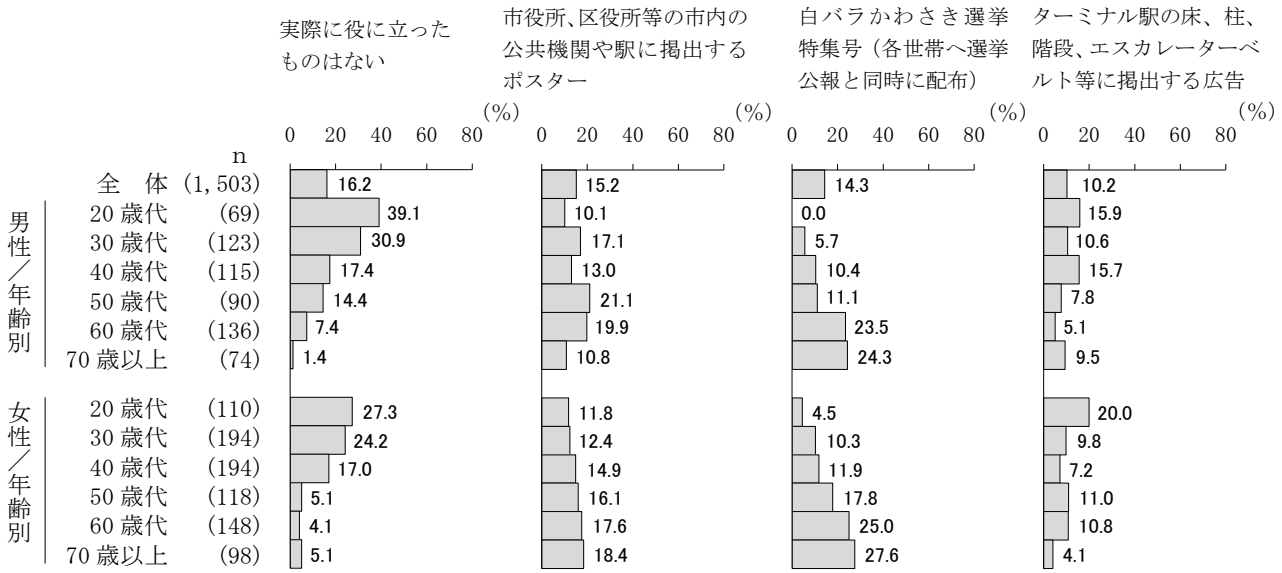
図表５－３　情報源として投票する際に役に立ったもの

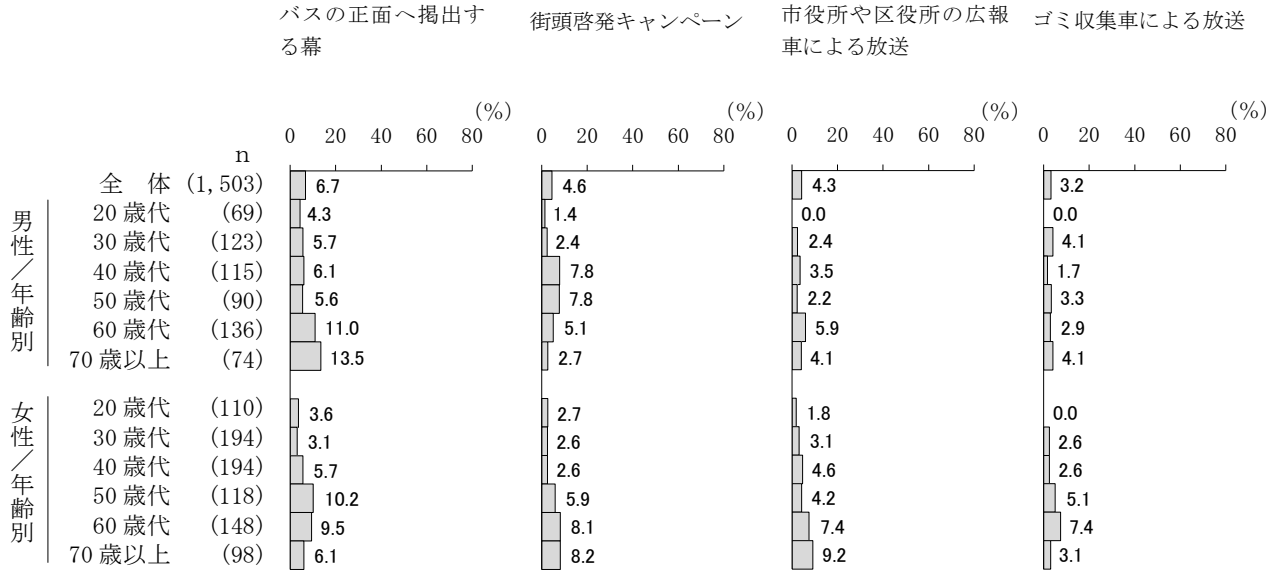


昨年 10 月の川崎市長選挙において、投票に役に立った市からの情報源は、「川崎市政だより」の 44.3%が最も多くなっている。次いで、「投票所案内ハガキ」が 35.8%、「選挙公報」が 25.3%となっている。（図表５－３）

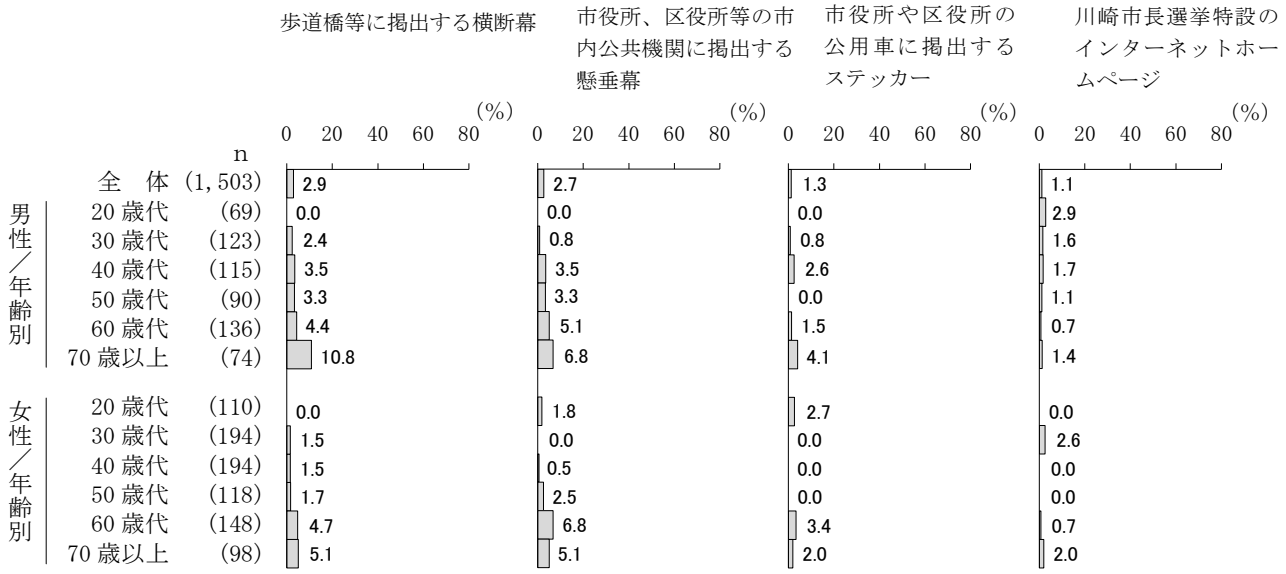
図表５－４　情報源として投票する際に役に立ったもの（性／年齢別）

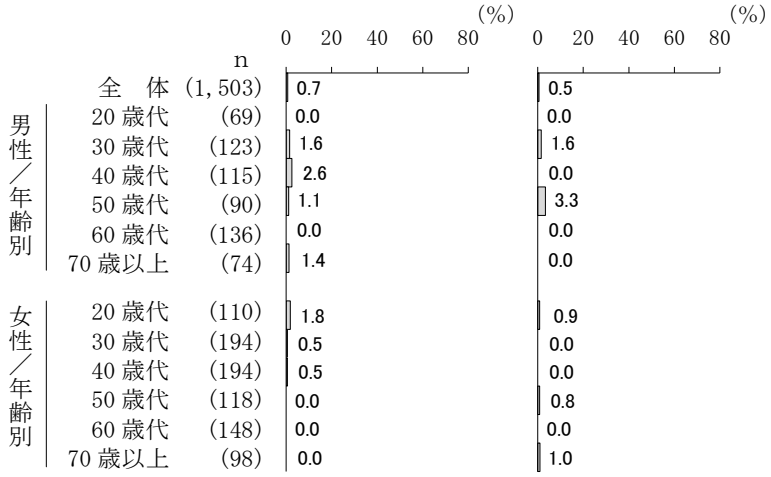






（第１回アンケート）





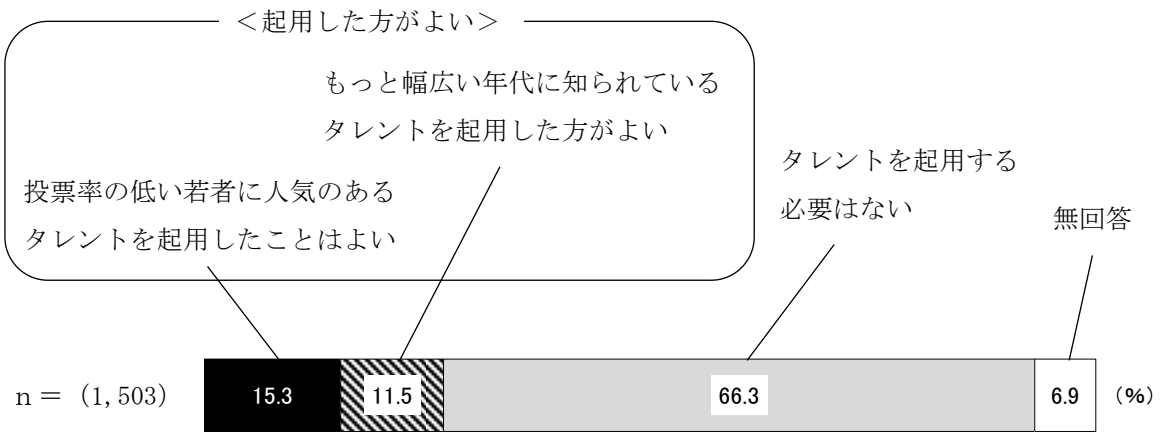
性／年齢別では、「川崎市政だより」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「投票所案内ハガキ」は、男性では 20 歳代が 20.3％と最も少なくなっており、60 歳代が 47.8％と最も多くなっている。女性では３割台前半から４割台前半となっている。「選挙公報」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。（図表５－４）

５－３　タレント起用について

◎＜起用した方がよい＞は２６．８％

問 34　昨年の１０月の川崎市長選挙の啓発イメージキャラクターとして若者に人気のあるタレントを起用しましたが、このことについてどう思いますか。（○は１つだけ）

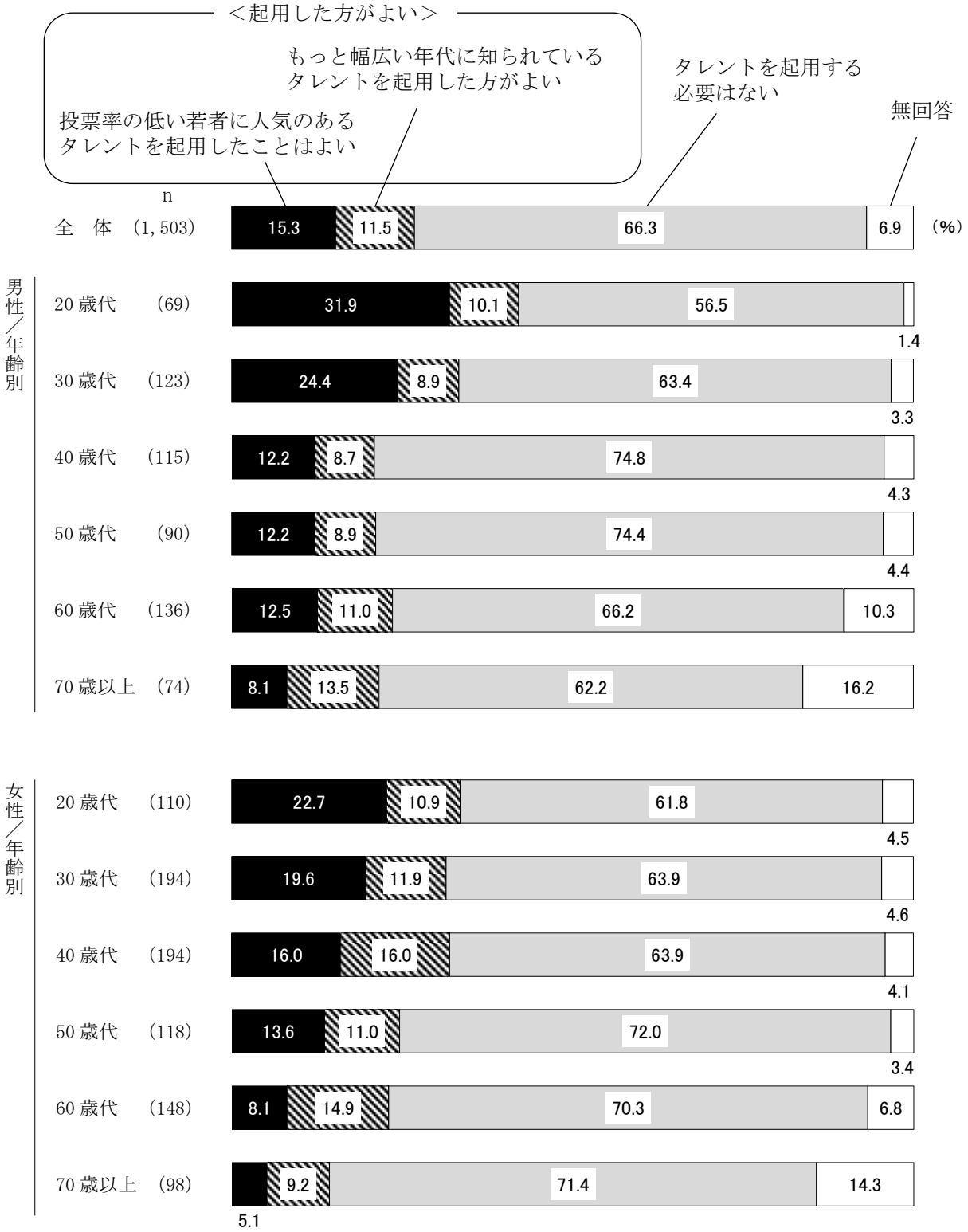
図表５－５　タレント起用について



昨年 10 月の川崎市長選挙において、啓発イメージキャラクターとして若者に人気のあるタレントを起用したことについては、「投票率の低い若者に人気のあるタレントを起用したことはよい」（15.3%）と「もっと幅広い年代に知られているタレントを起用した方がよい」（11.5%）をあわせた＜起用した方がよい＞が 26.8%となっている。一方、「タレントを起用する必要はない」は、66.3%となっている。（図表５－５）

（第１回アンケート）

図表５－６　タレント起用について（性／年齢別）



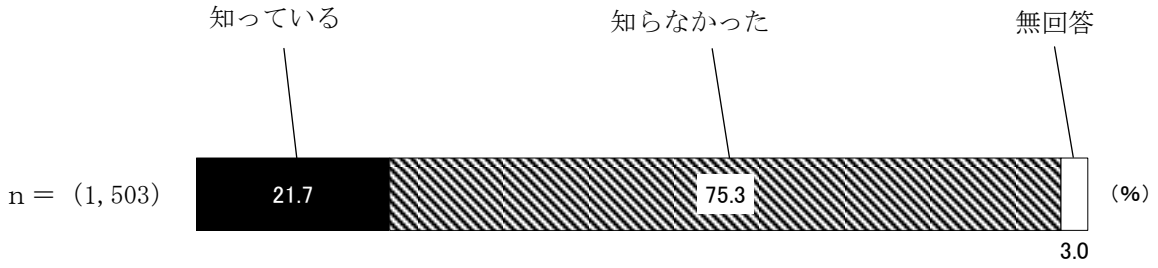
性／年齢別では、「投票率の低い若者に人気のあるタレントを起用したことはよい」と「もっと幅広い年代に知られているタレントを起用した方がよい」をあわせた＜起用した方がよい＞は、男性では 20 歳代が 42.0%で最も多くなっており、40 歳代から 70 歳以上で２割台前半から２割台半ばとなっている。女性では年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。（図表５－６）

５－４　来春の川崎市議会議員選挙等の認知状況

◎「知っている」が２１．７％

問 35　あなたは、来年の春に川崎市議会議員選挙等が行われることを知っていましたか。
（○は１つだけ）

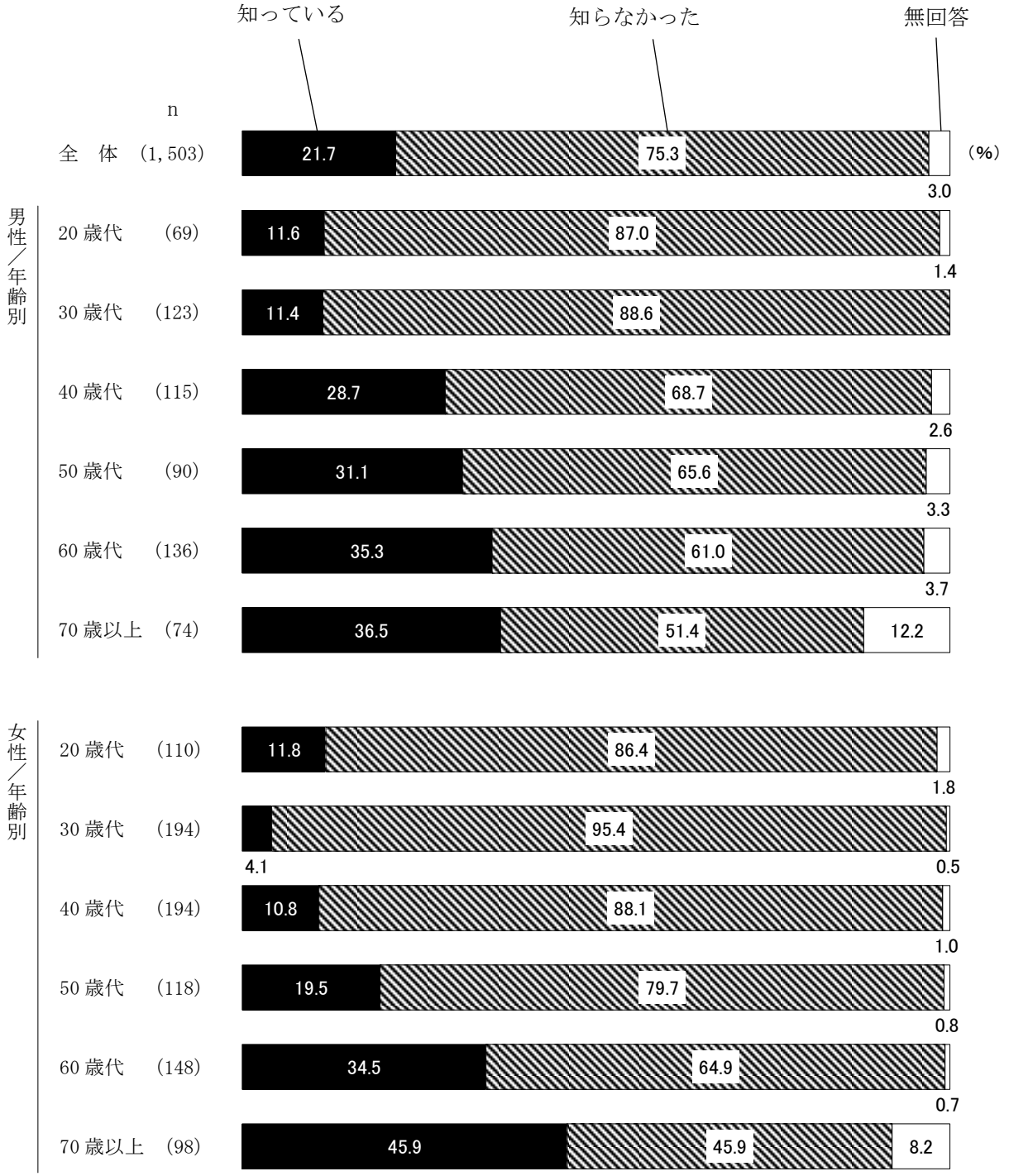
図表５－７　来春の川崎市議会議員選挙等の認知状況



来春の川崎市議会議員選挙等の認知状況は、「知っている」が 21.7%、「知らなかった」が 75.3%となっている。（図表５－７）

（第１回アンケート）

図表５－８　来春の川崎市議会議員選挙等の認知状況（性／年齢別）



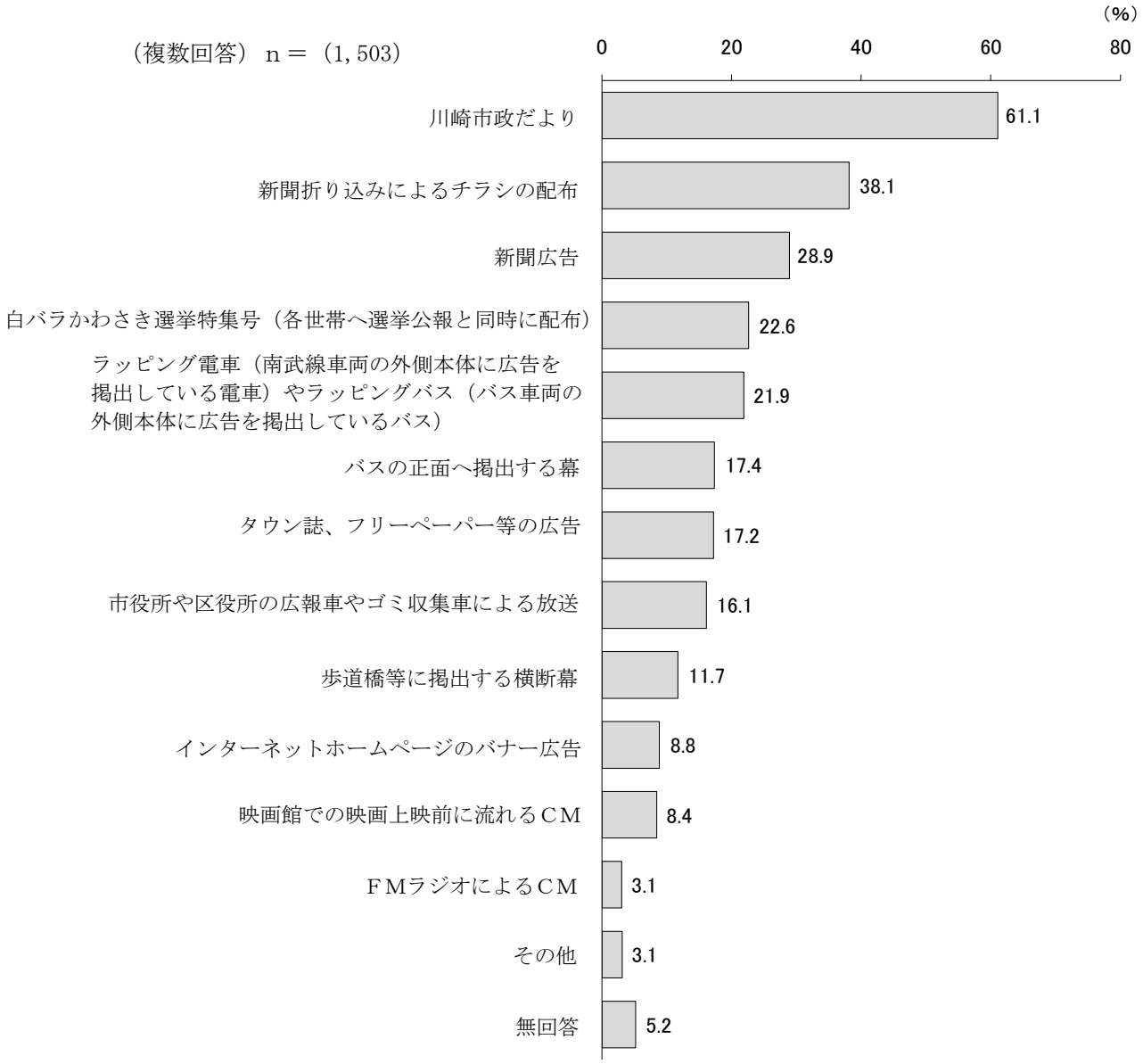
性／年齢別では、「知っている」は、男性では 20 歳代と 30 歳代が１割台前半と少なくなっており、他の年代では年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性では 30 歳代が 4.1％と最も少なくなっており、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。（図表５－８）

５－５　今後の選挙において効果的だと思われる市からの情報源

◎「川崎市政だより」が６１．１％

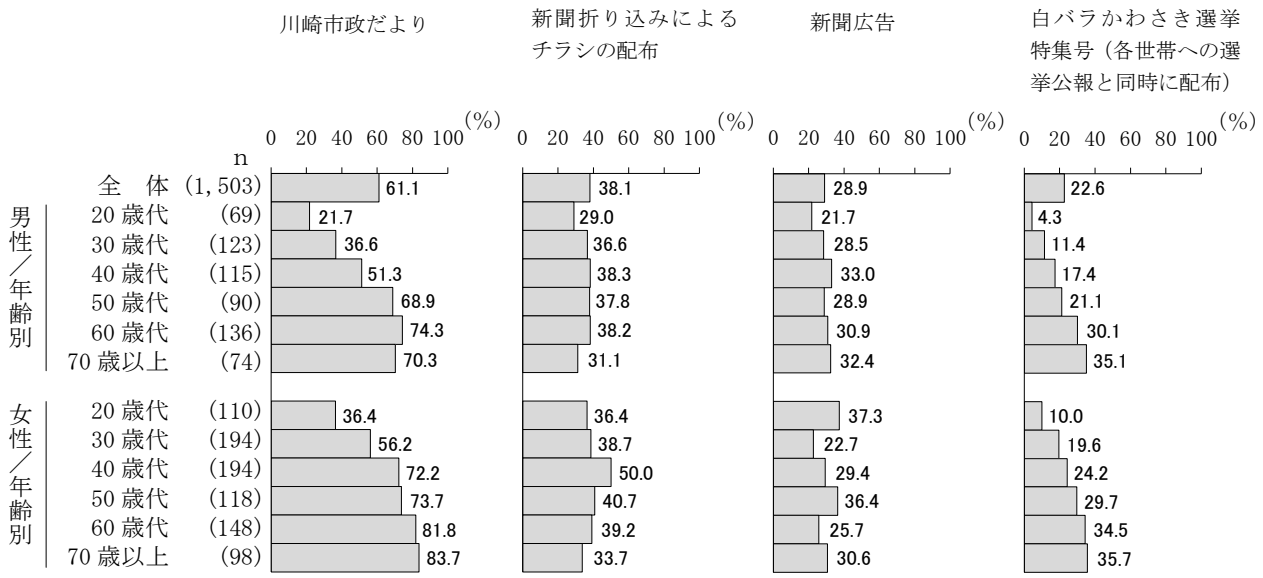
問 36　あなたは、来年の春に行われる川崎市議会議員選挙等に関する市からの情報源として、効果的だと思うものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

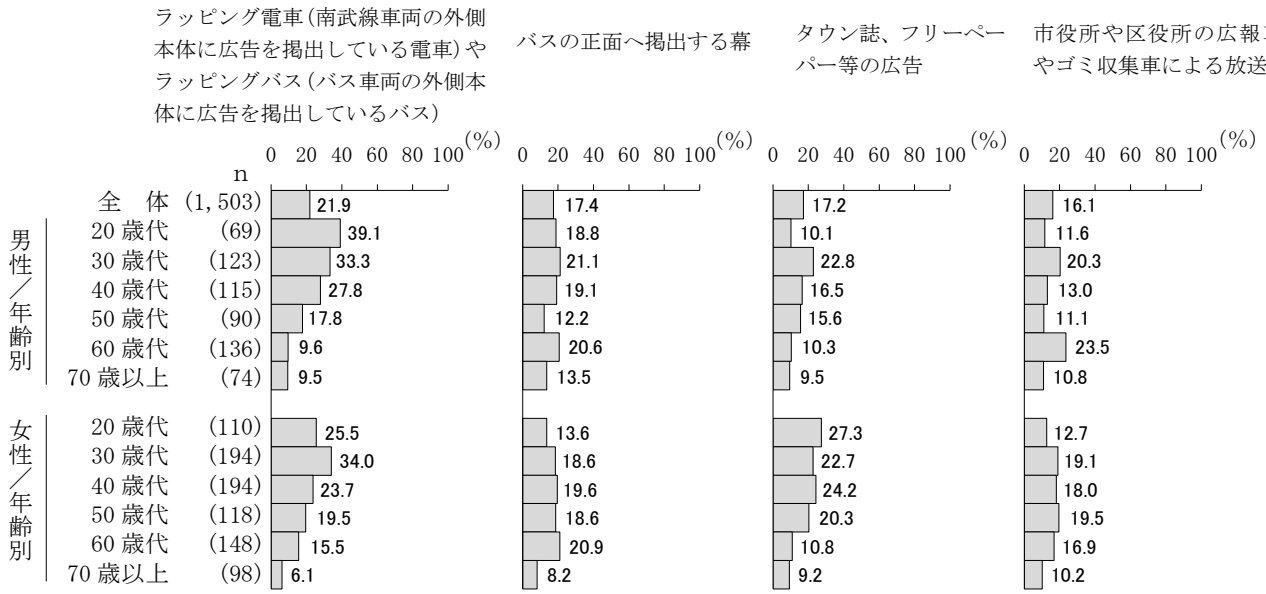
図表５－９　今後の選挙において効果的だと思われる市からの情報源

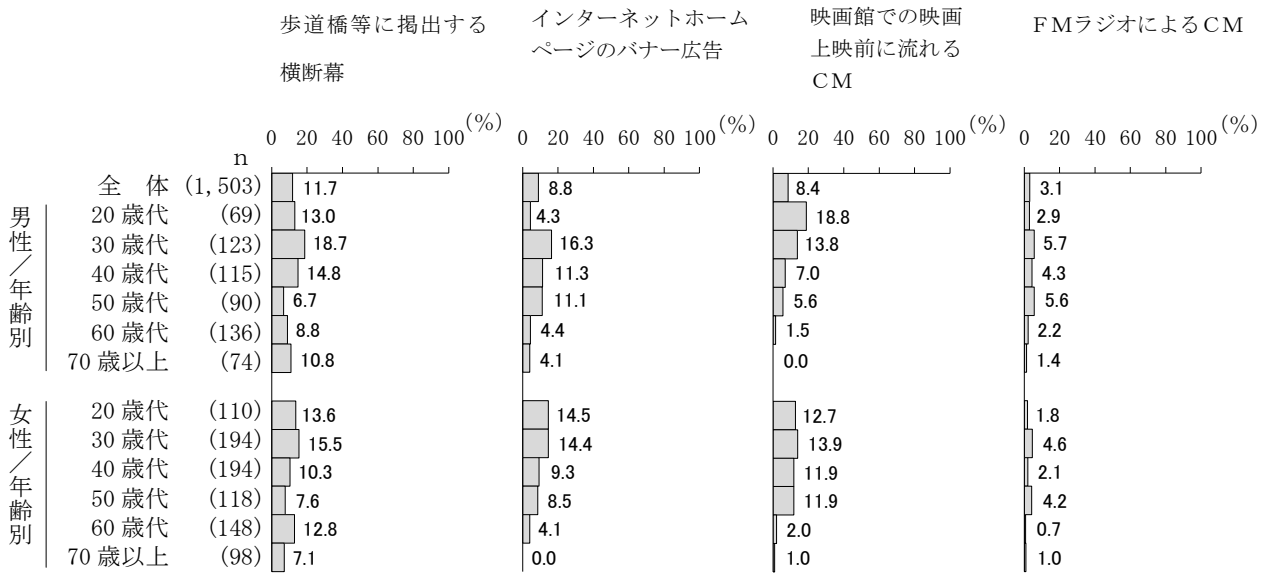


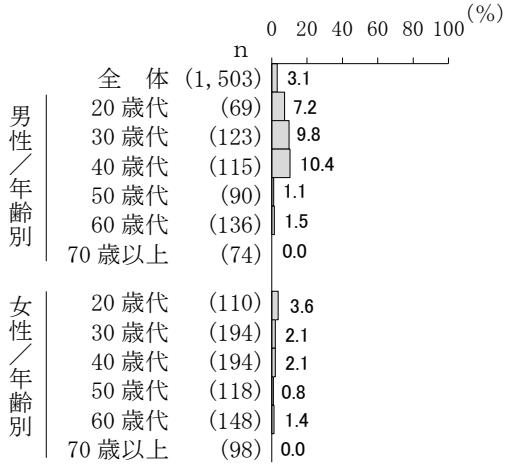
今後の選挙において、効果的だと思われる市からの情報源は、「川崎市政だより」の 61.1%が最も多くなっている。次いで、「新聞折り込みによるチラシの配布」が 38.1%、「新聞広告」が 28.9%となっている。（図表５－９）

図表５－10　今後の選挙において効果的だと思われる市からの情報源（性／年齢別）









性／年齢別では、「川崎市政だより」は、男性では 20 歳代が 21.7％で最も少なくなっており、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性も 20 歳代が 36.4％で最も少なくなっており、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「新聞折り込みによるチラシの配布」は、男性では２割台後半から３割台後半となっている。女性では 40 歳代が 50.0％と最も多くなっており、他の年代では３割台半ばから４割台前半となっている。「新聞広告」は、男性では２割台前半から３割台半ばとなっている。女性では 20 歳代が 37.3％と最も多くなっており、他の年代では２割台半ばから３割台半ばとなっている。（図表５－10）

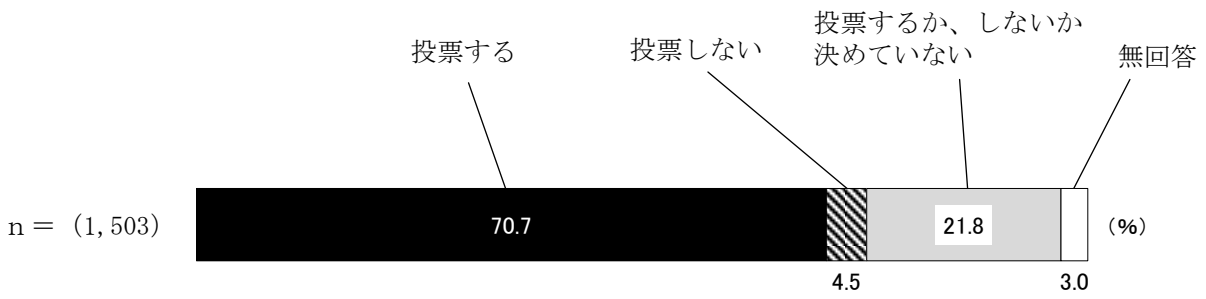
（第１回アンケート）

５－６　来春の川崎市議会議員選挙等の投票についての意識状況

◎「投票する」が７０．７％

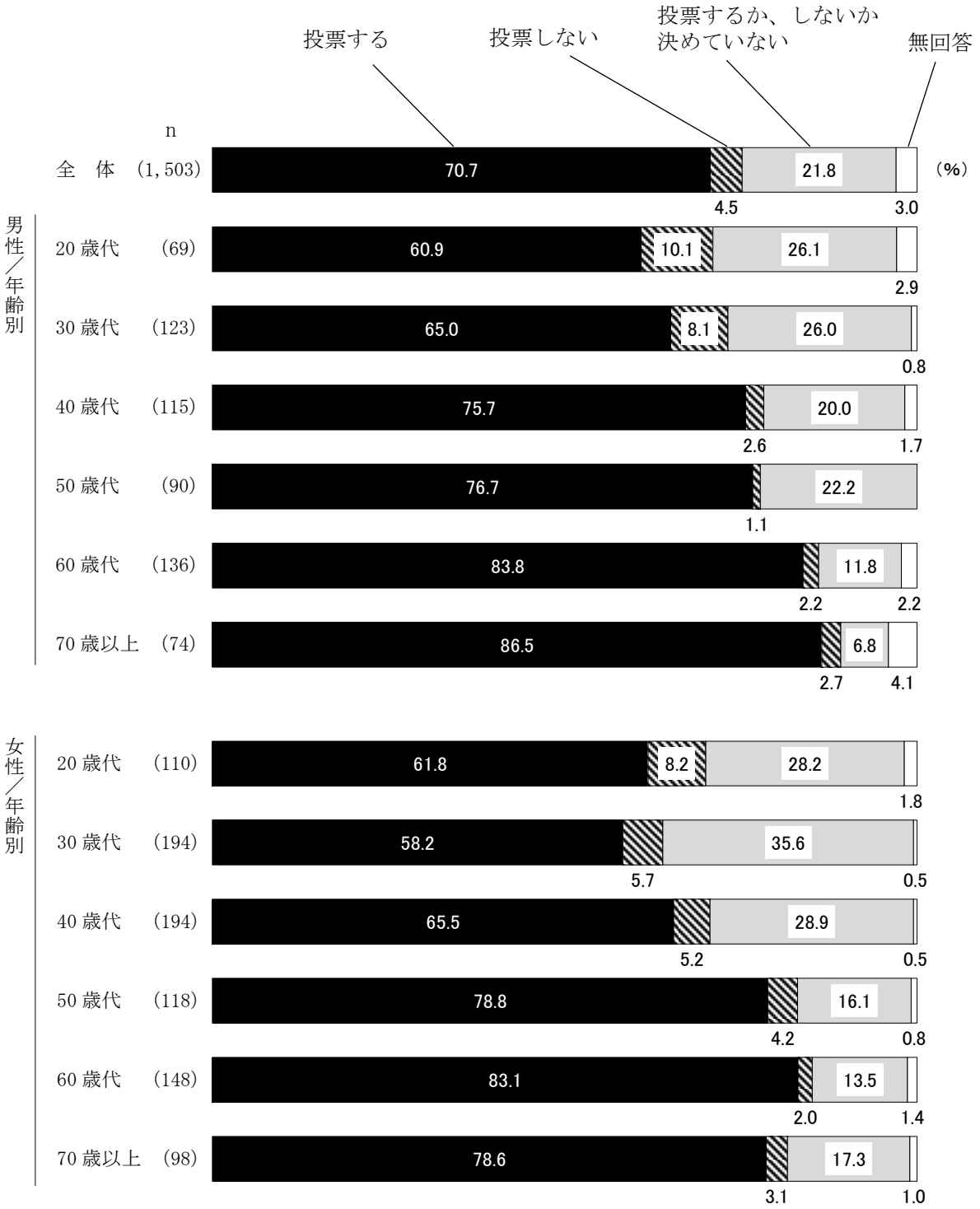
問 37　あなたは、来年の春に行われる川崎市議会議員選挙等の投票に行きますか。（○は１つだけ）

図表５－11　来春の川崎市議会議員選挙等の投票についての意識状況



来春の川崎市議会議員選挙等の投票についての意識状況は、「投票する」が 70.7%、「投票しない」が 4.5%、「投票するか、しないか決めていない」が 21.8%となっている。（図表５－11）

図表５－12　来春の川崎市議会議員選挙等の投票についての意識状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「投票する」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「投票しない」は、男性では 20 歳代が 10.1%、女性も 20 歳代が 8.2%と最も多くなっている。（図表５－12）

（第１回アンケート）

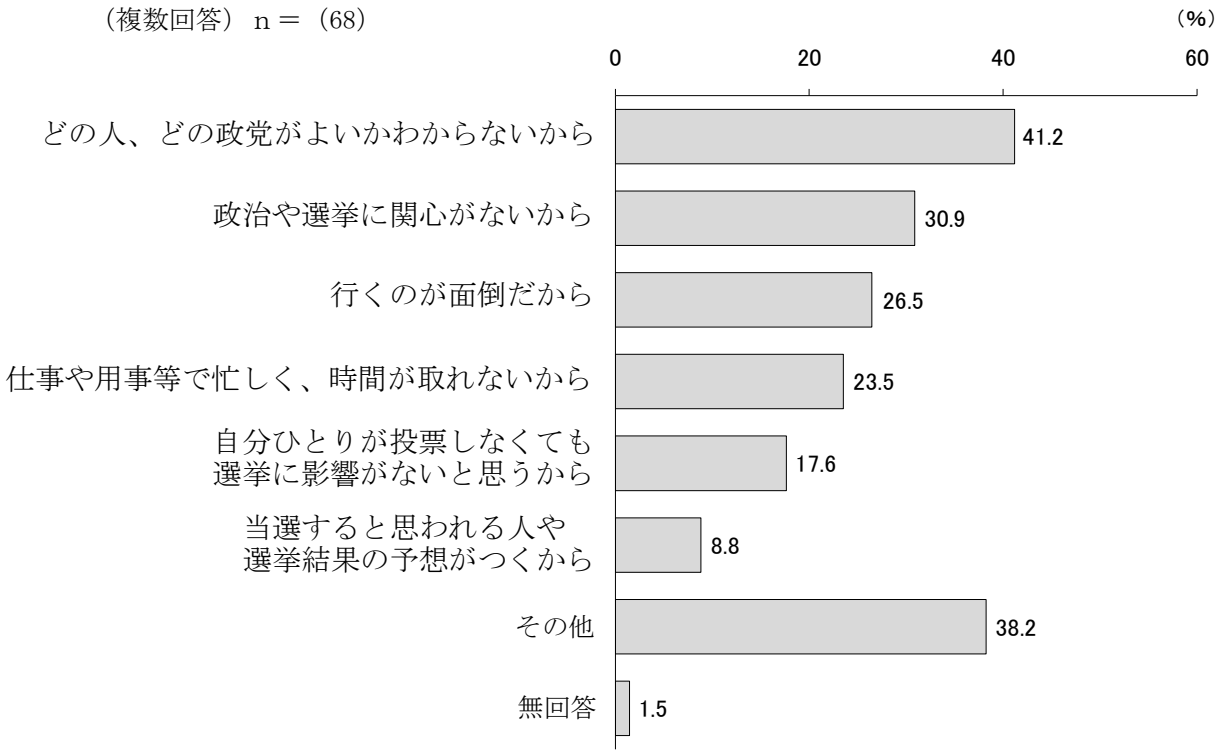
５－７　来春の川崎市議会議員選挙等で投票しない理由

◎「どの人、どの政党がよいかわからないから」が４１．２％

（問 37 で、「２　投票しない」と答えた方にうかがいます。）

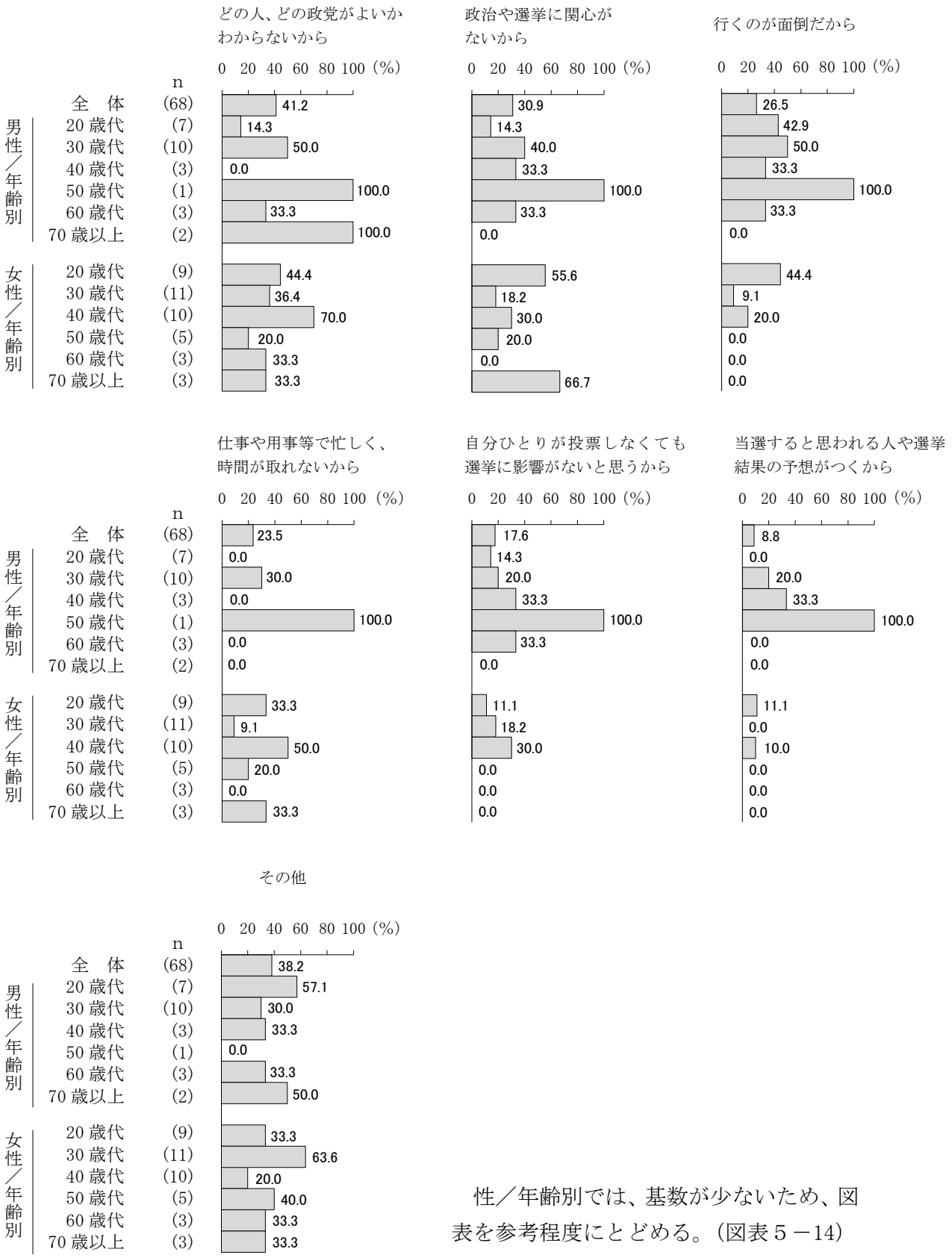
問 38　投票しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表５－13　来春の川崎市議会議員選挙等で投票しない理由



来春の川崎市議会議員選挙等で投票しない理由は、「どの人、どの政党がよいかわからないから」の 41.2%が最も多くなっている。次いで、「政治や選挙に関心がないから」が 30.9%、「行くのが面倒だから」が 26.5%となっている。（図表５－13）

図表５－14　来春の川崎市議会議員選挙等で投票しない理由（性／年齢別）



性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。（図表５－14）

（第１回アンケート）

②　第２回アンケートの結果

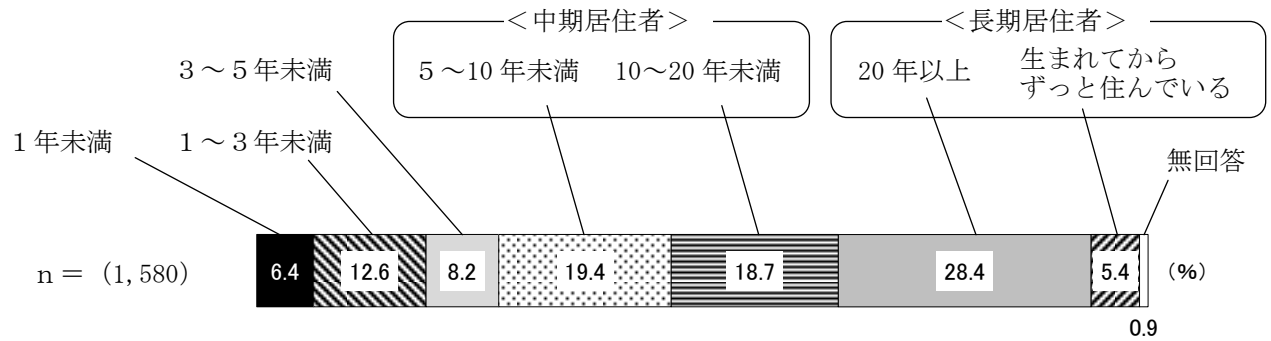
１　定住状況について

１－１　居住年数

◎２０年以上の＜長期居住者＞が３３．８％

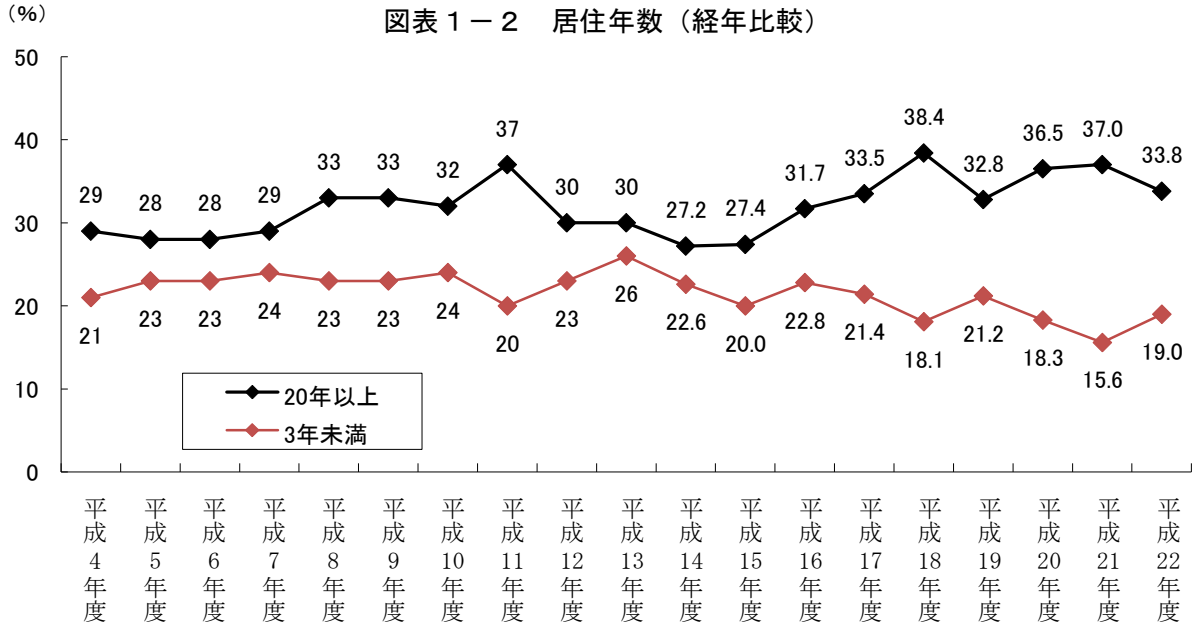
問１　今のところにお住まいになって、何年になりますか。（○は１つだけ）

図表１－１　居住年数



居住年数は、「20 年以上」の 28.4%が最も多く、これに「生まれてからずっと住んでいる」の 5.4%をあわせた＜長期居住者＞は 33.8%となっている。「５～10 年未満」の 19.4%と「10～20 年未満」の 18.7%をあわせた＜中期居住者＞は 38.1%となっている。（図表１－１）

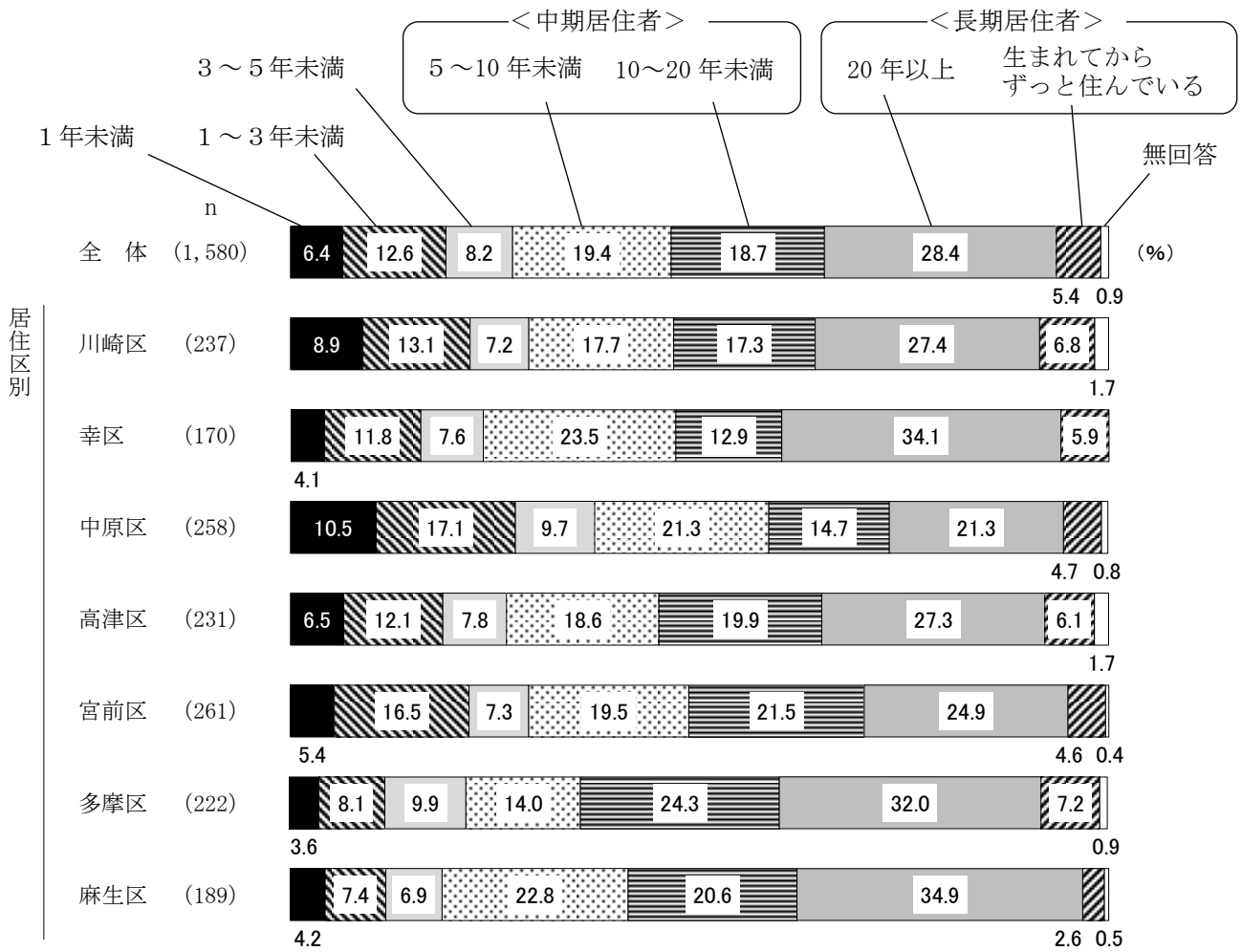
図表１－２　居住年数（経年比較）



過去の推移では、平成 21 年度と比較すると、＜長期居住者＞は、37.0%から 33.8%へ 3.2 ポイント減少している。「3 年未満」は、15.6%から 19.0%へと 3.4 ポイント増加している。「20 年以上」と「3 年未満」の割合の差は、14.8 ポイントで前年から減少している。（図表１－２）

（第２回アンケート）

図表１－３　居住年数（居住区別）



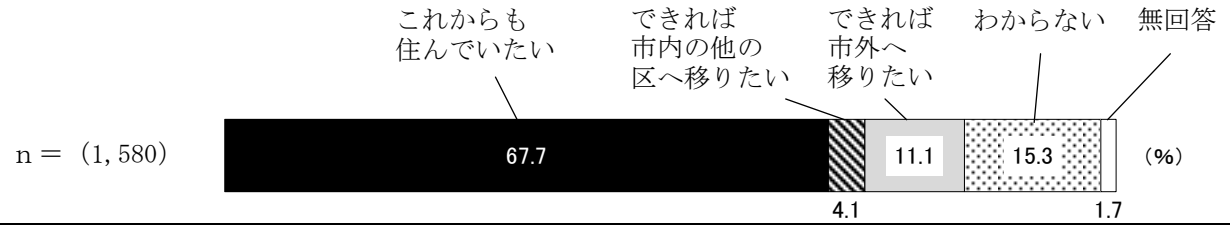
居住区別では、＜長期居住者＞は、幸区が 40.0％で最も多くなっている。次いで、多摩区の 39.2％、麻生区の 37.5％と続いている。「３年未満」は、中原区が 27.6％で最も多くなっている。次いで、川崎区の 22.0％、宮前区の 21.9％と続いている。（図表１－３）

１－２　定住意向

◎「これからも住んでいたい」が６７．７％

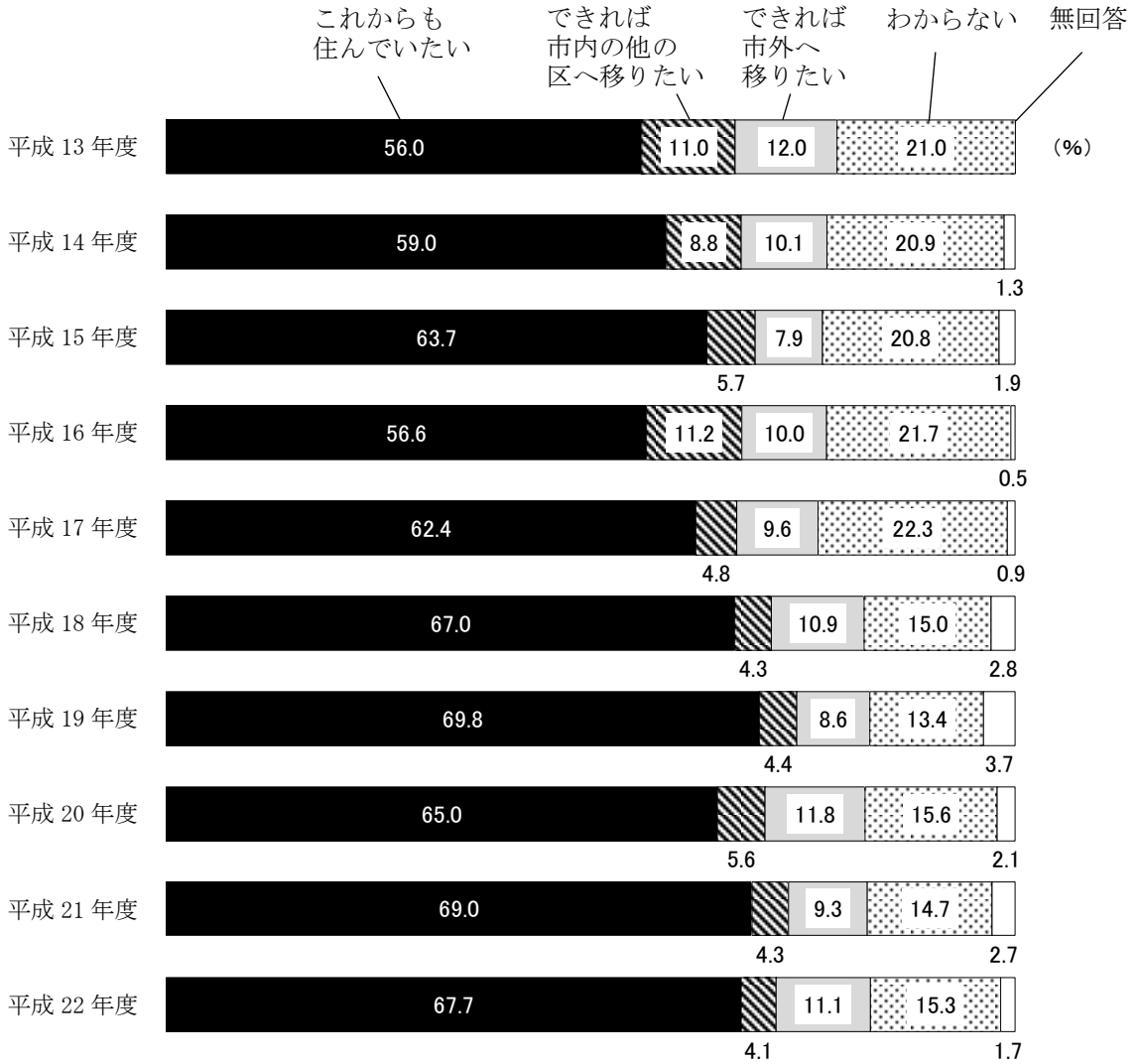
問２　これからも今のところにお住まいになりたいですか。（○は１つだけ）

図表１－４　定住意向



定住意向は、「これからも住んでいたい」は 67.7%、「できれば市外へ移りたい」は 11.1%となっている。（図表１－４）

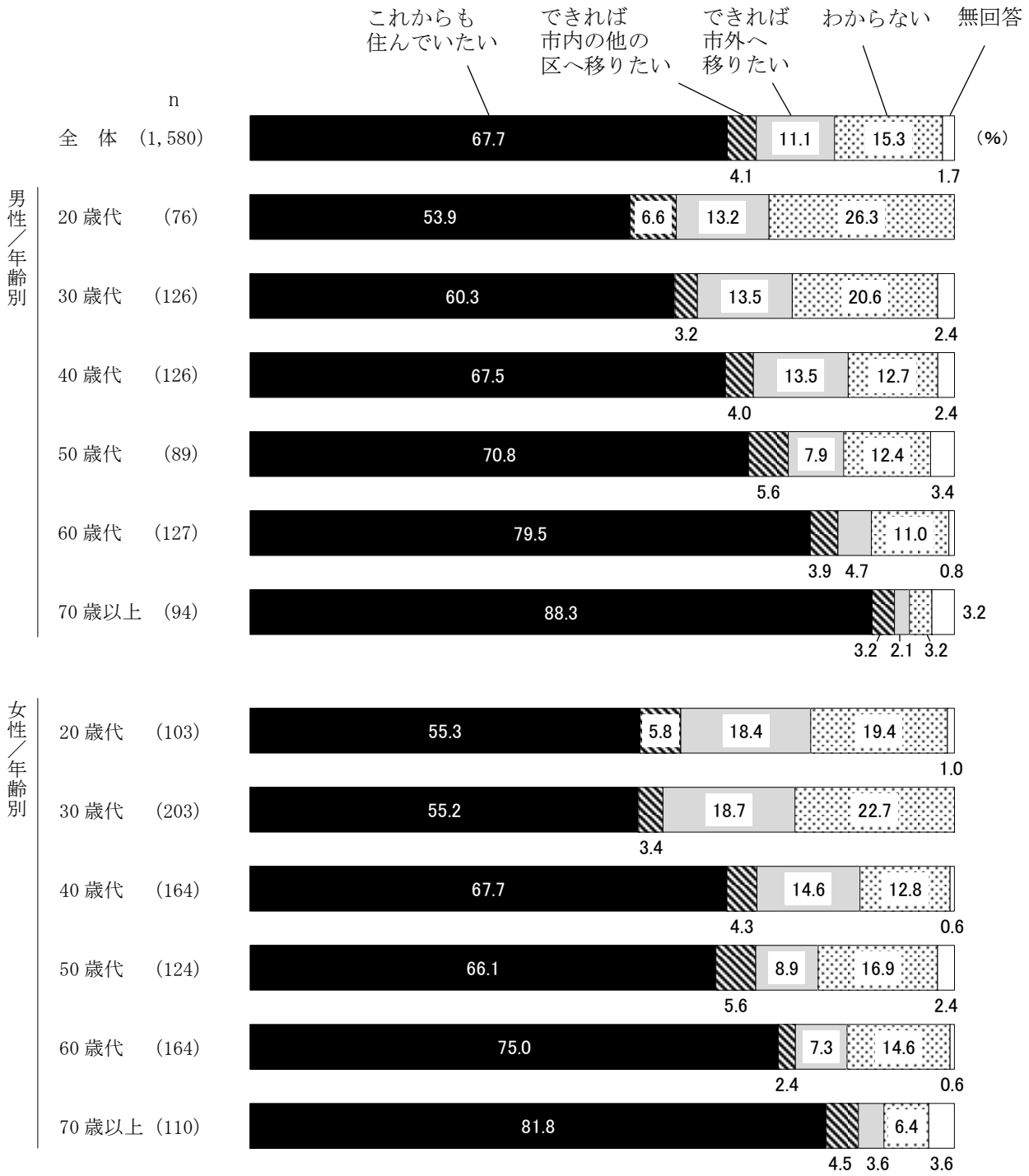
図表１－５　定住意向（経年比較）



「これからも住んでいたい」は、平成 17 年度以降は６割台で推移しており、「できれば市内の他の区へ移りたい」をあわせた平成22年度の市内在住意向は71.8%となっている。（図表１－５）

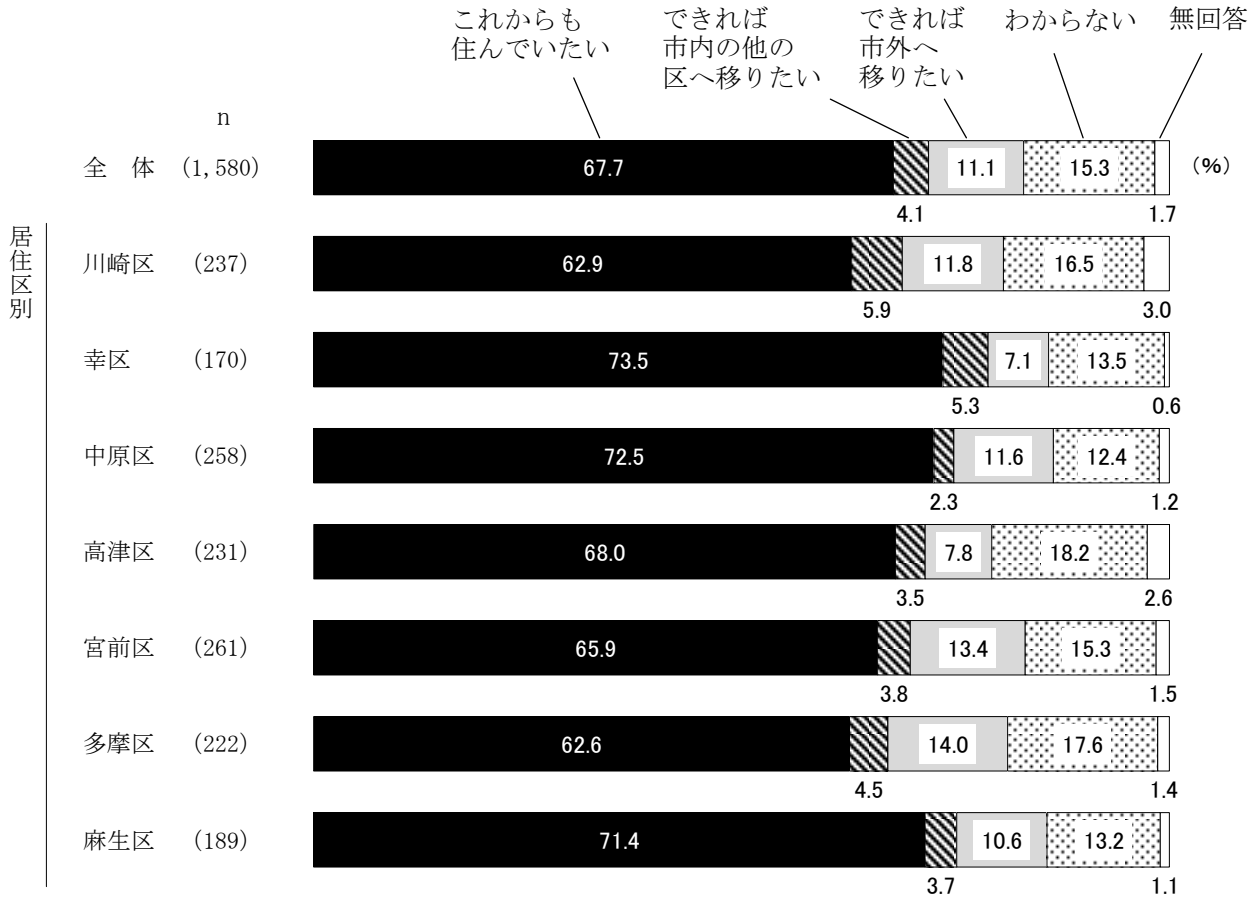
（第２回アンケート）

図表１－６　定住意向（性／年齢別）



性／年齢別では、「これからも住んでいたい」は、男性では年齢が上がるにつれ、女性でもおおむね年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっている。男性では 70 歳以上が 88.3%、女性でも 70 歳以上が 81.8%と最も多くなっている。（図表１－６）

図表１－７　定住意向（居住区別）



居住区別では、「これからも住んでいたい」は、幸区が 73.5％で最も多くなっている。次いで、中原区の 72.5％、麻生区の 71.4％と続いている。（図表１－７）

１－３　転居意向の理由

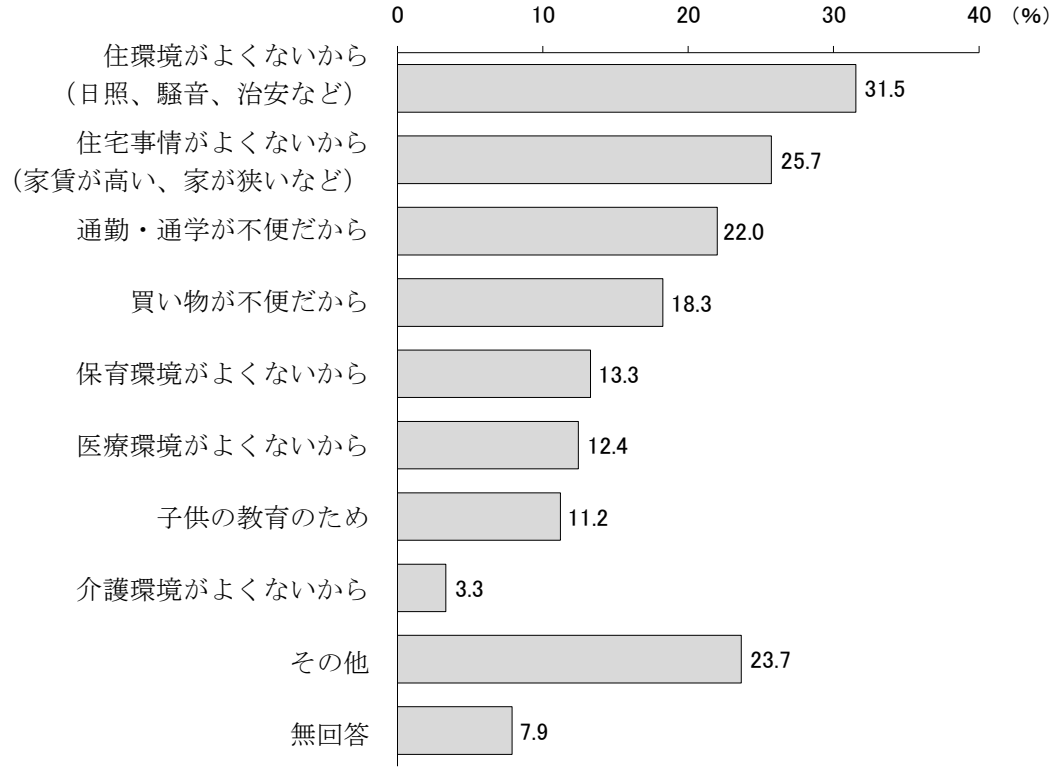
◎「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が３１．５％、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」が２５．７％

（問２で「２　できれば市内の他の区へ移りたい」「３　できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。）

問３　今のところから移りたい、または移る理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

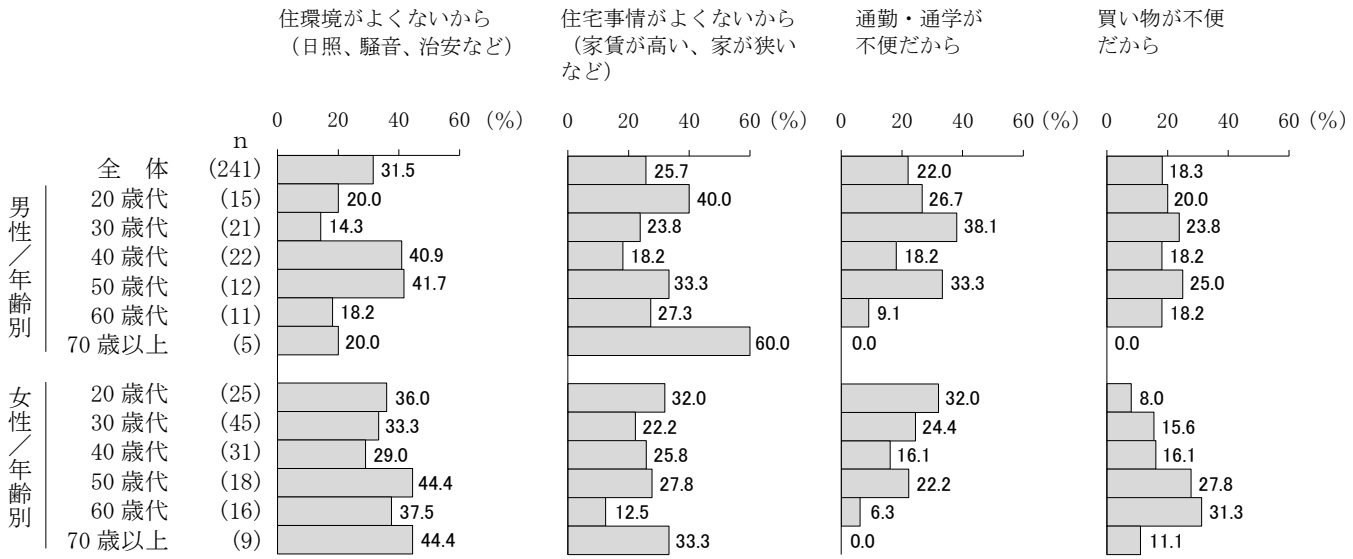
図表１－８　転居意向の理由

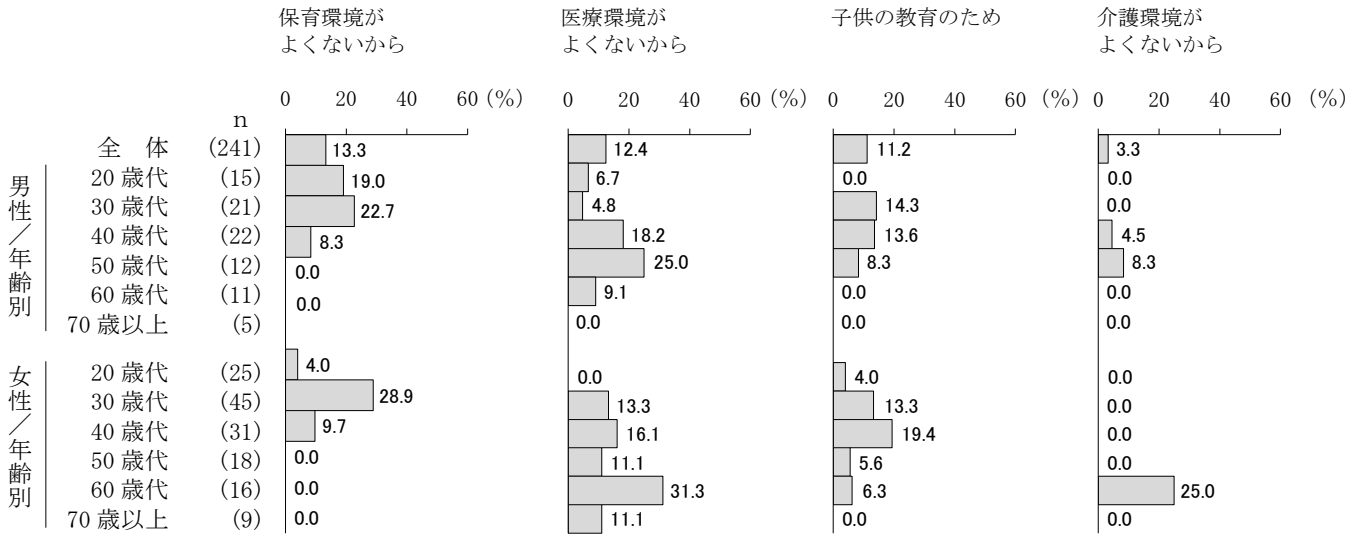
（複数回答）ｎ＝（241）

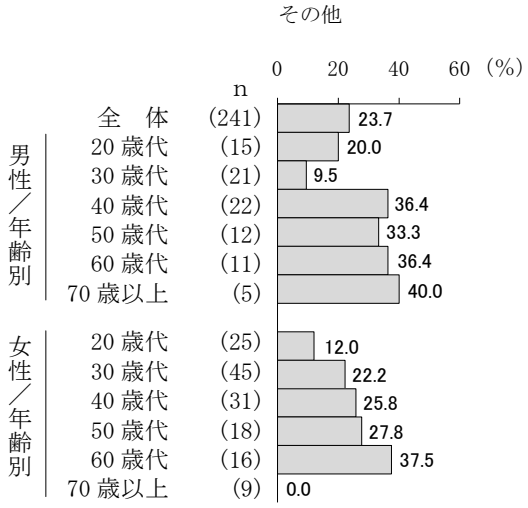


転居意向の理由は、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が 31.5％と最も多くなっている。次いで、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」の 25.7％、「通勤・通学が不便だから」の 22.0％、「買い物が不便だから」の 18.3％、「保育環境がよくないから」の 13.3％と続いている。（図表１－８）

図表１－９　転居意向の理由（性／年齢別）



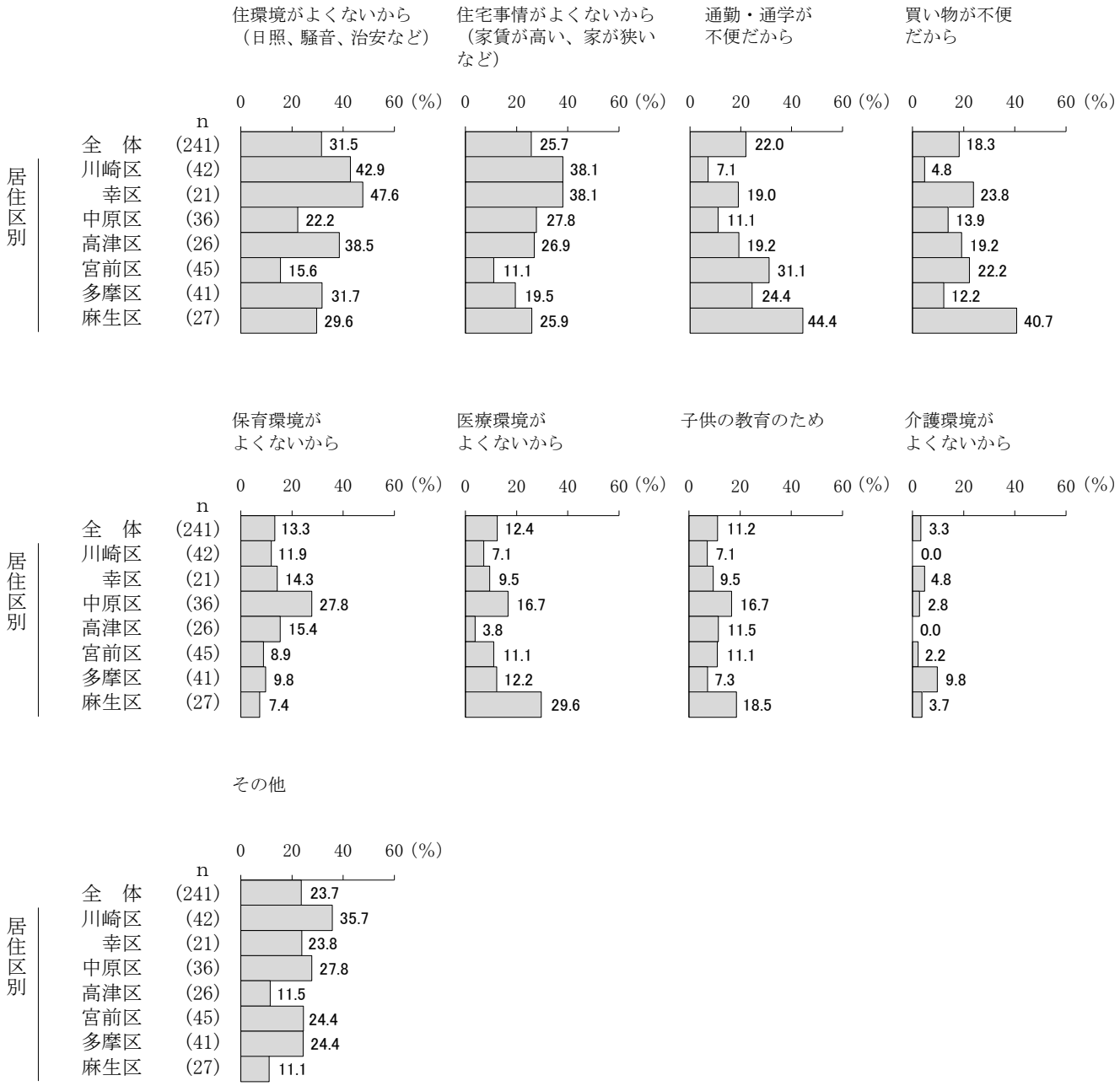




性／年齢別では、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」は、男性では 40 歳代と 50 歳代が４割台前半、女性では 50 歳代と 70 歳代が４割台半ばで多くなっている。「買い物が不便だから」は、男性では全年代を通して１割台後半から２割台半ばとなっており、女性では 20 歳代から 60 歳代で年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「保育環境がよくないから」は、男性では 20 歳代が 19.0%、30 歳代が 22.7%、女性では 30 歳代が 28.9%と多くなっている。（図表１－９）

（第２回アンケート）

図表１－10　転居意向の理由（居住区別）



居住区別では、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」は、幸区が 47.6％と最も多くなっている。次いで、川崎区の 42.9％、高津区の 38.5％と続いている。「通勤・通学が不便だから」、「買い物が不便だから」、「医療環境がよくないから」、「子供の教育のため」は、それぞれ麻生区が最も多くなっている。「保育環境がよくないから」は、中原区が 27.8％と最も多くなっている。（図表１－10）

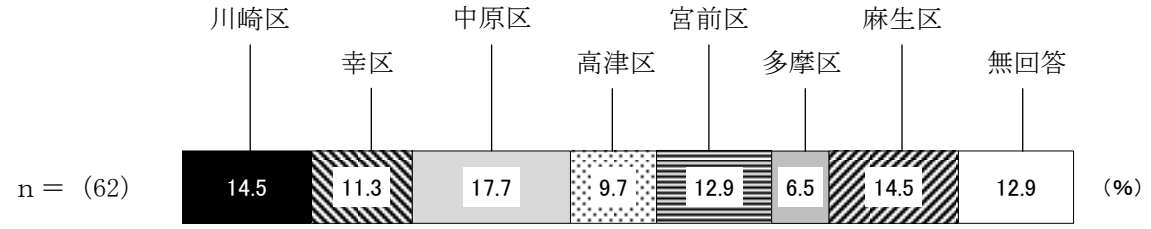
１－４　転居先の希望

◎市内では「中原区」１７．７%、市外では「東京 23 区」４０．６%が多い

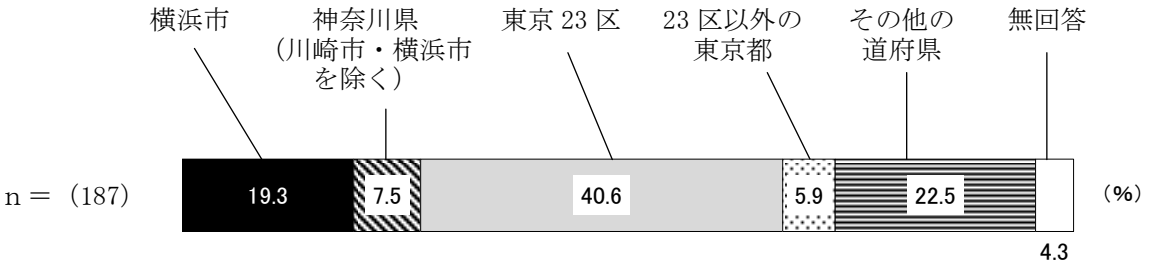
（問２で「２　できれば市内の他の区へ移りたい」「３　できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。）

問４　どこに住みたいと思いますか。（○は１つだけ）

図表１－11　転居先の希望（市内）



図表１－12　転居先の希望（市外）

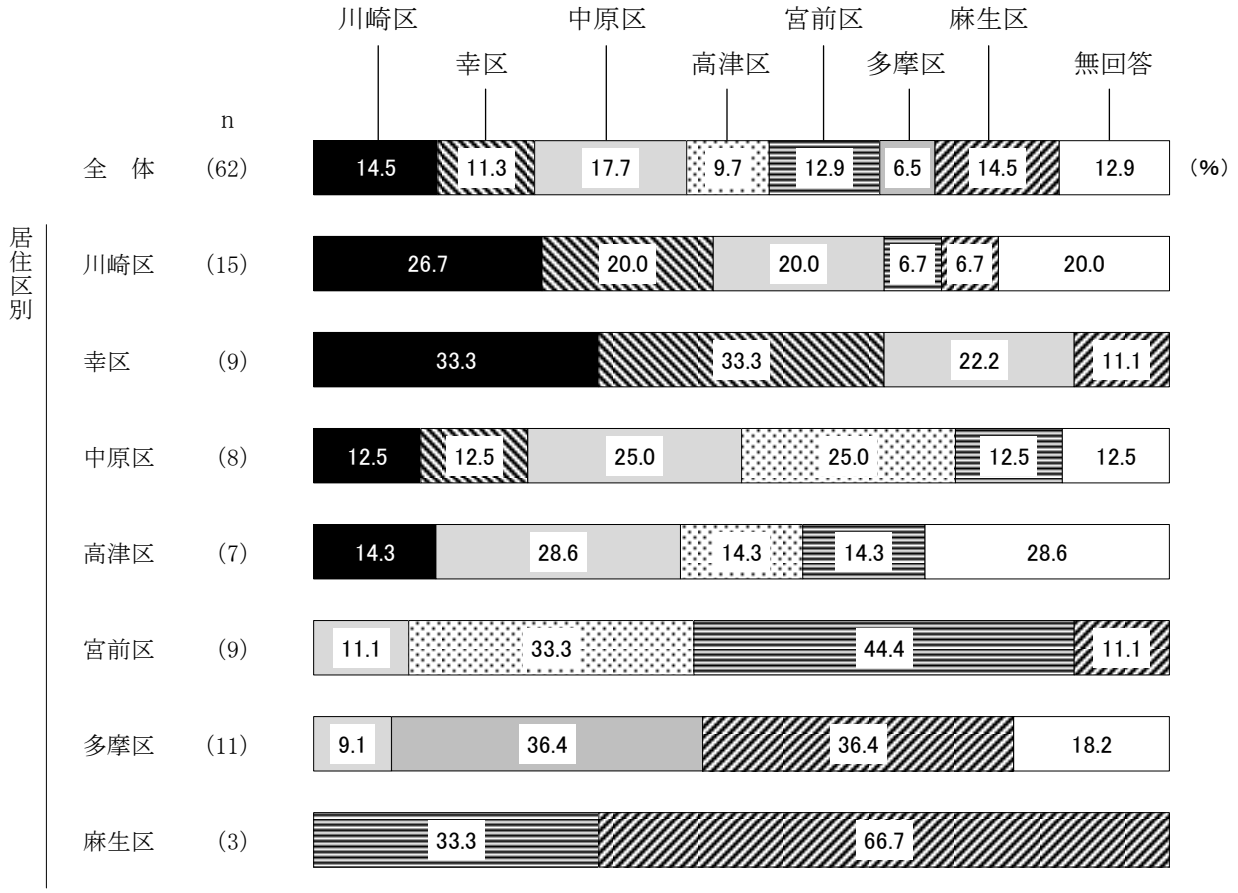


転居先の希望（市内）は、「中原区」の 17.7%が最も多くなっている。次いで、川崎区と麻生区の 14.5%、宮前区の 12.9%、幸区の 11.3%と続いている。（図表１－11）。

転居先の希望（市外）は、「東京 23 区」の 40.6%が最も多くなっている。次いで、「その他の道府県」の 22.5%、「横浜市」の 19.3%、「神奈川県（川崎市・横浜市を除く）」の 7.5%と続いている。（図表１－12）

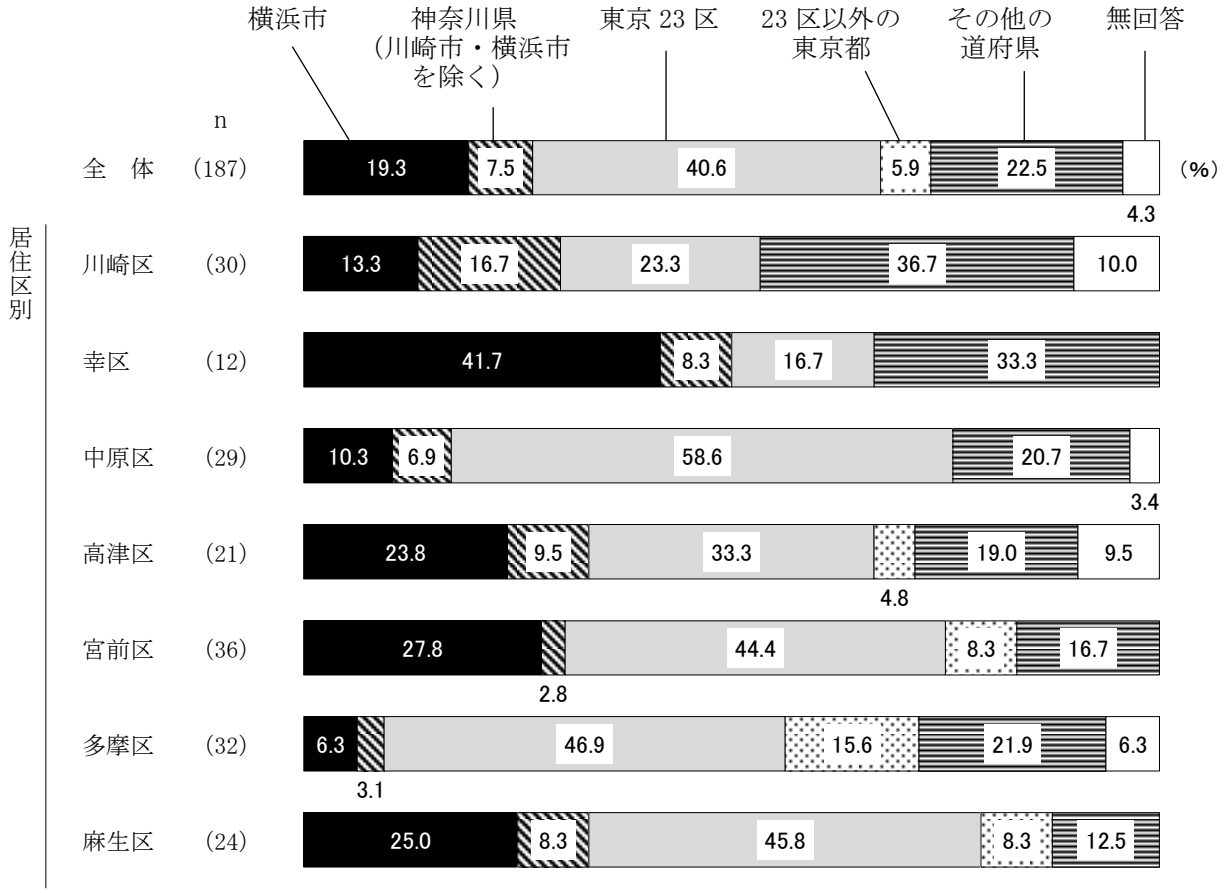
（第２回アンケート）

図表１－13　転居先の希望（市内、居住区別）



※市内、居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。（図表１－13）

図表１－14　転居先の希望（市外、居住区別）



市外、居住区別では、「東京 23 区」は、中原区が 58.6％と最も多くなっている。次いで、多摩区の 46.9％、麻生区の 45.8％と続いている。「その他の道府県」は、川崎区が 36.7％と最も多くなっている。次いで、幸区の 33.3％、多摩区の 21.9％と続いている。「横浜市」は、幸区が 41.7％と最も多くなっている。次いで、宮前区の 27.8％、麻生区の 25.0％と続いている。(図表１－14)

（第２回アンケート）

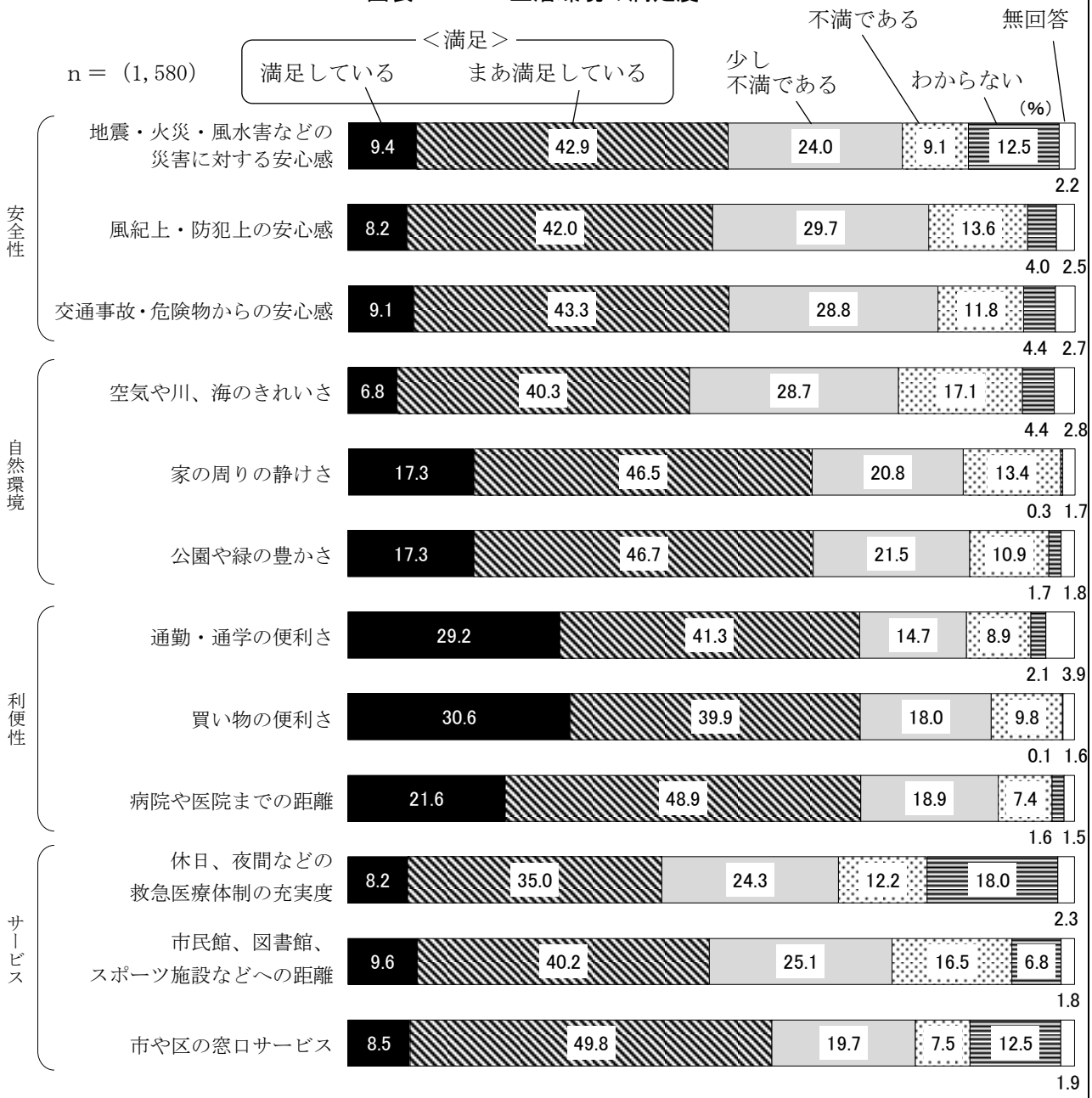
２　生活環境の評価について

２－１　生活環境の満足度

◎＜満足＞が多いのは、「通勤・通学の便利さ」、「買い物の便利さ」、「病院や医院までの距離」の利便性

問５　お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。
次にあげる項目についてどの程度満足していますか。（○はそれぞれ１つずつ）

図表２－１　生活環境の満足度

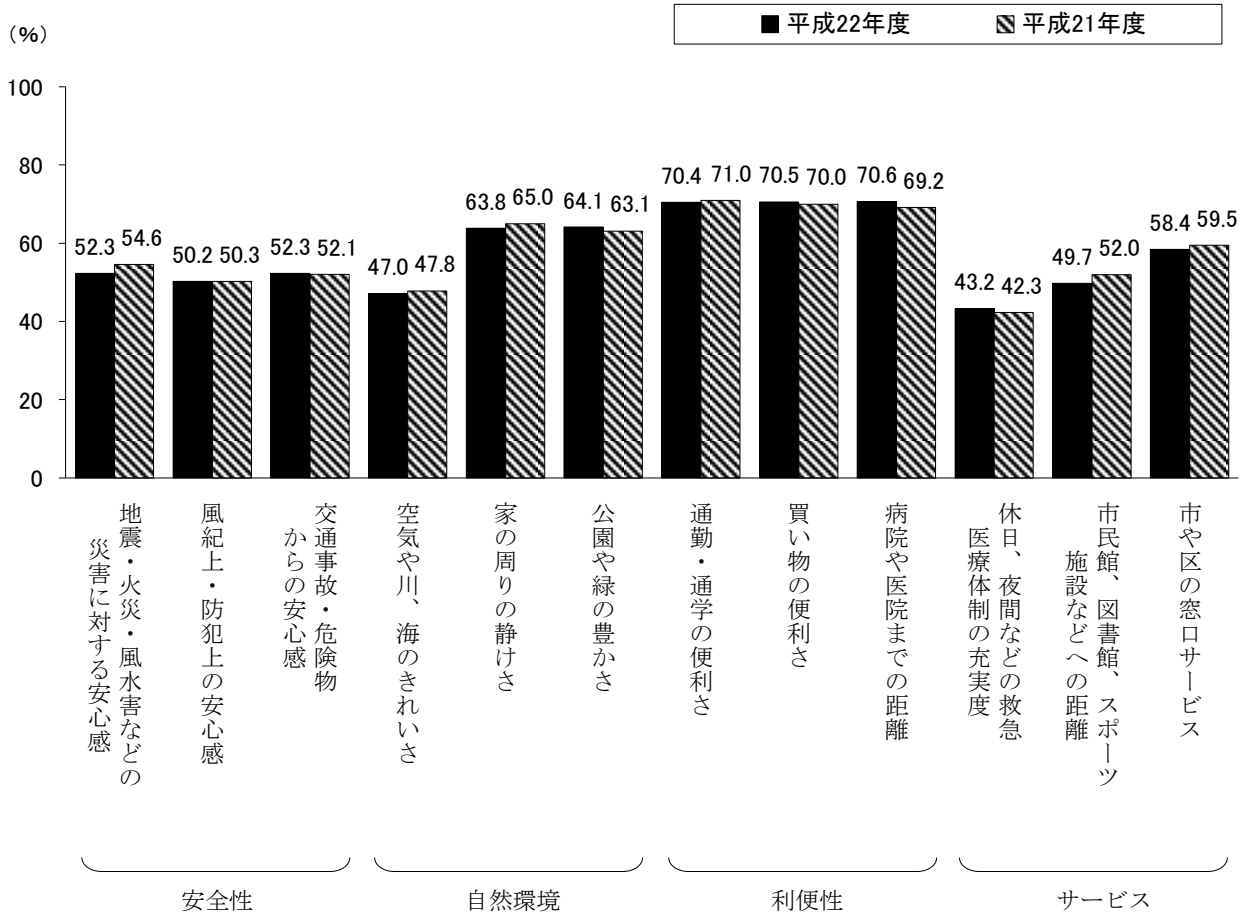


生活環境について、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた＜満足＞は、『利便性』の「通勤・通学の便利さ」、「買い物の便利さ」、「病院や医院までの距離」が多くなっている。一方、＜満足＞が最も少ないのは、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」の 43.2%となっている。（図表２－１）

図表２－２　生活環境の満足度（＜満足＞、経年比較）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示　（%）

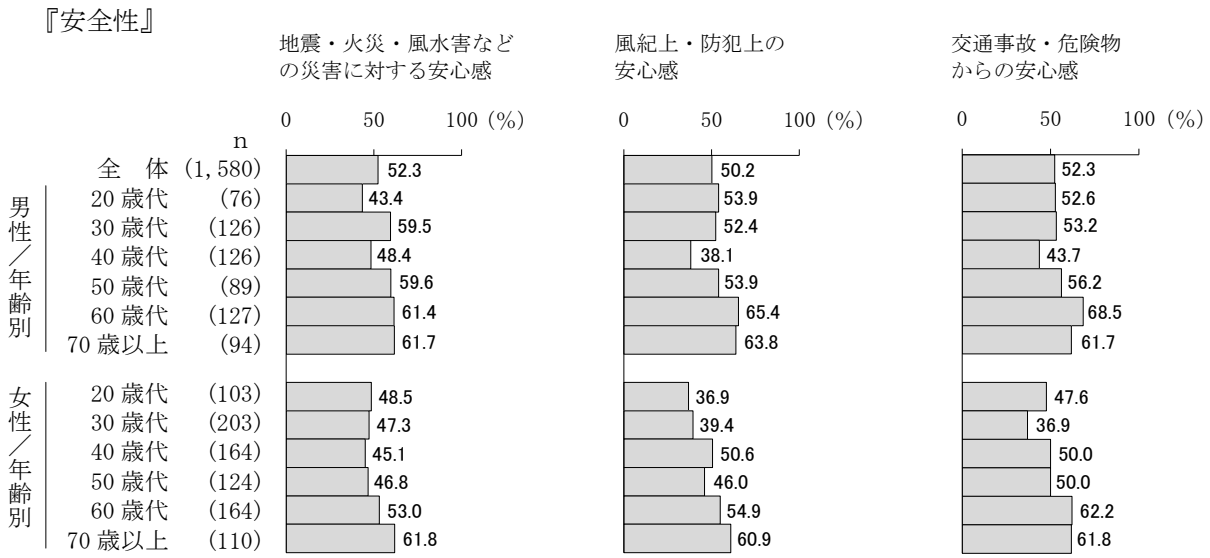
	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
22年度	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4
21年度	54.6	50.3	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.2	42.3	52.0	59.5

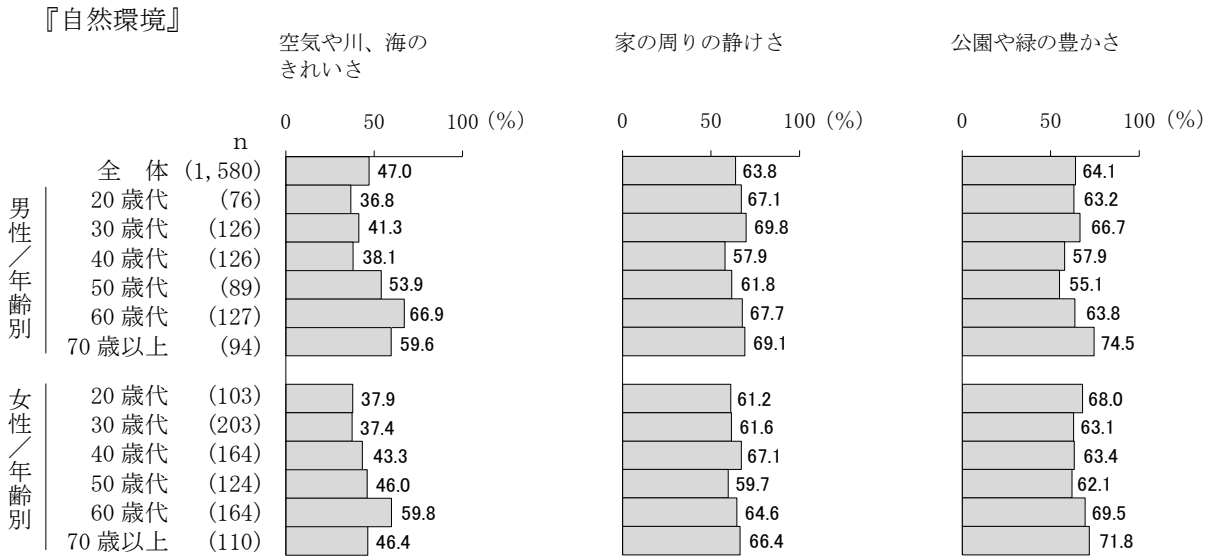


平成 21 年度と比較すると、12 項目中で増加しているものは、「交通事故・危険物からの安心感」の 0.2 ポイント、「公園や緑の豊かさ」の 1.0 ポイント、「買い物の便利さ」の 0.5 ポイント、「病院や医院までの距離」の 1.4 ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」の 0.9 ポイントの５項目となっている。その他の７項目は減少している。（図表２－２）

（第２回アンケート）

図表２－３　生活環境の満足度（＜満足＞、性／年齢別）

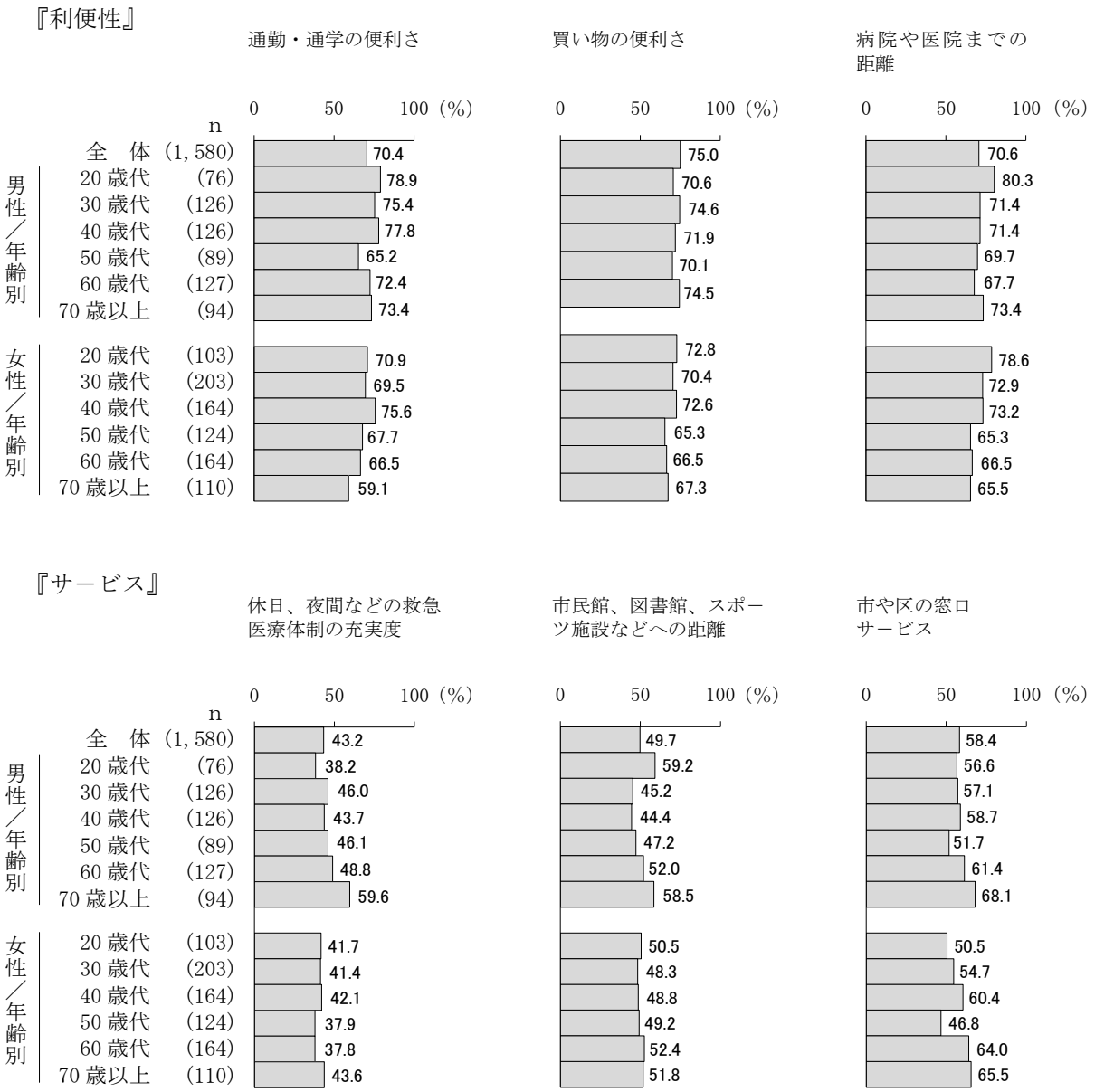




性／年齢別で『安全性』を見ると、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は、男性では 20 歳代が 43.4%、40 歳代が 48.4%、女性では 20 歳代から 50 歳代までが４割台半ばから４割台後半と少なくなっている。「風紀上・防犯上の安心感」は、男性では 40 歳代が 38.1%と少なくなっており、女性ではおおむね年齢が低くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「交通事故・危険物からの安心感」は、男性では 40 歳代が 43.7%、女性では 30 歳代が 36.9%と少なくなっている。

『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は、男女ともに 20 歳代から 60 歳代でおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「家の周りの静けさ」は、男性では５割台後半から６割台後半、女性では５割台後半から６割台半ばとなっている。「公園や緑の豊かさ」は、男性では５割台半ばから７割台半ば、女性では６割台前半から７割台前半となっている。（図表２－３）

図表２－４　生活環境の満足度（＜満足＞、性／年齢別）



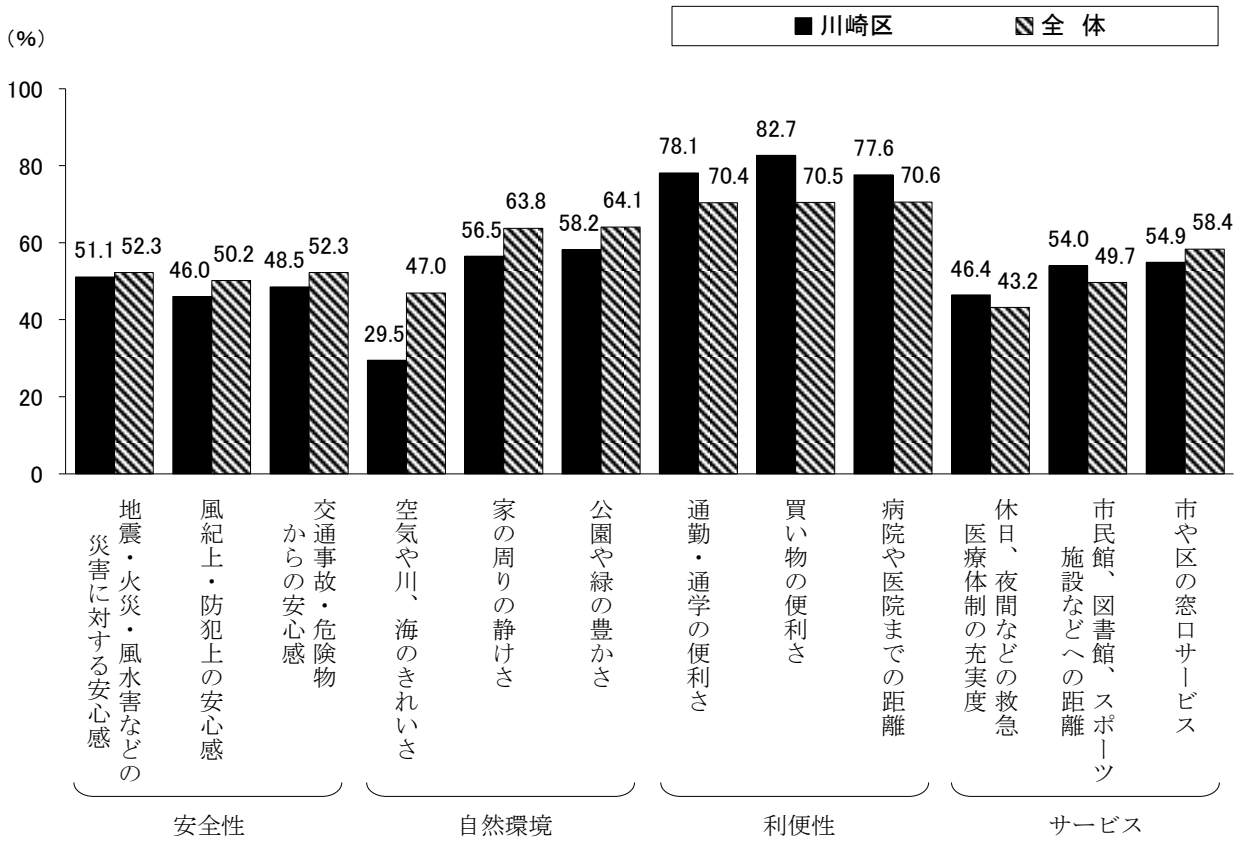
『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は、男性では 50 歳代を除く全年代を通して７割台前半から７割台後半、女性では 70 歳以上を除く全年代を通して６割台半ばから７割台半ばと多くなっている。「買い物の便利さ」は、男性の全ての年代と女性の 20 歳代から 40 歳代までが７割台前半から７割台半ばと多くなっているが、女性の 50 歳代以降で６割台半ばとなっている。「病院や医院までの距離」は、男性では 50 歳代と 60 歳代を除く全年代を通して７割台前半から８割台前半、女性の 20 歳代から 40 歳代までが７割台半ばから７割台後半と多くなっているが、女性の 50 歳代以降で６割台半ばとなっている。

『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は、男性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性は、全年代を通して３割台後半から４割台半ばとなっている。「市や区の窓口のサービス」は、男性では 50 歳代が 51.7%、女性でも 50 歳代が 46.8%と最も少なくなっている。（図表２－４）

図表２－５　生活環境の満足度（＜満足＞、川崎区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示　（%）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
川崎区	51.1	46.0	48.5	29.5	56.5	58.2	78.1	82.7	77.6	46.4	54.0	54.9
全　体	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4

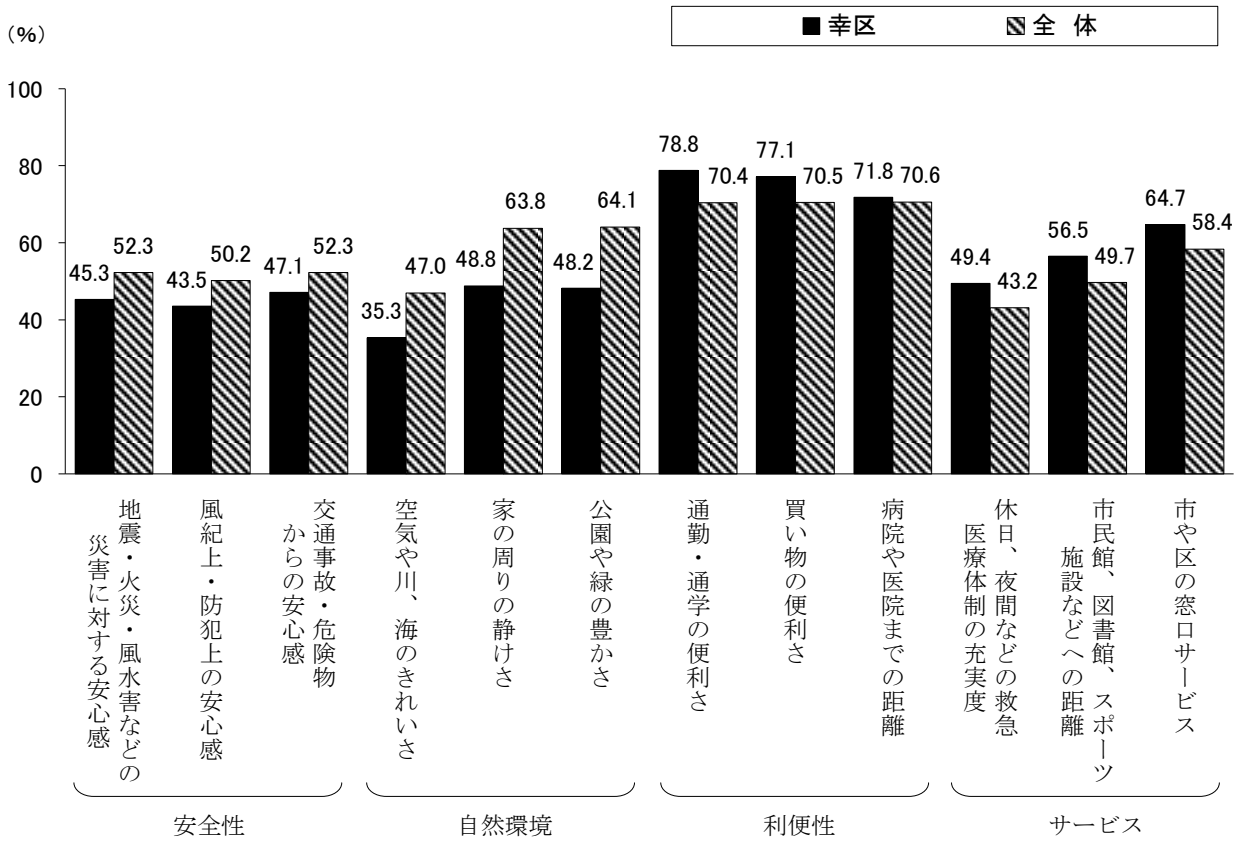


川崎区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は 1.2 ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は 4.2 ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は 3.8 ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は 17.5 ポイント、「家の周りの静けさ」は 7.3 ポイント、「公園や緑の豊かさ」は 5.9 ポイント下回っている。一方、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は 7.7 ポイント、「買い物の便利さ」は 12.2 ポイント、「病院や医院までの距離」は 7.0 ポイント上回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 3.2 ポイントのプラス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 4.3 ポイントのプラス、「市や区の窓口サービス」は 3.5 ポイントのマイナスとなっている。（図表２－５）

図表２－６　生活環境の満足度（＜満足＞、幸区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示　（%）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
幸　区	45.3	43.5	47.1	35.3	48.8	48.2	78.8	77.1	71.8	49.4	56.5	64.7
全　体	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4

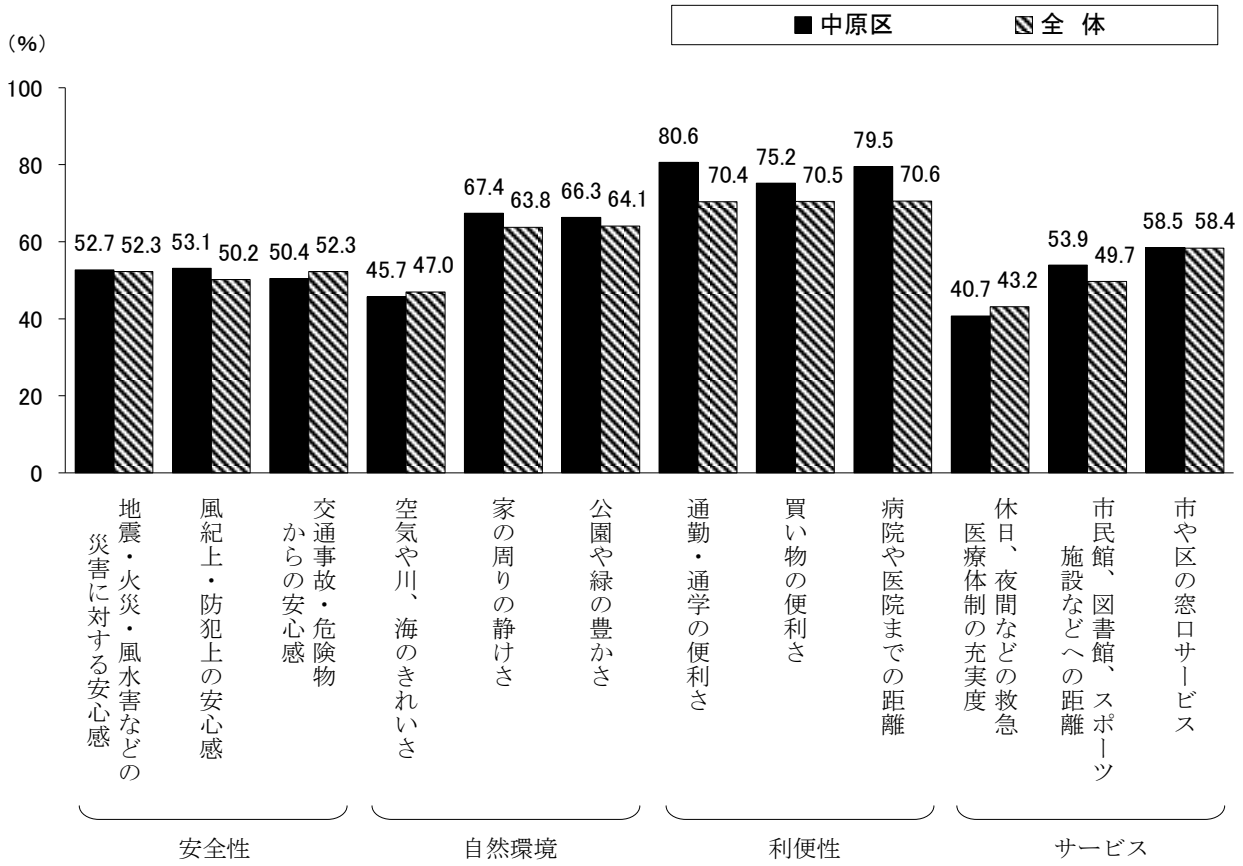


幸区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は 7.0 ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は 6.7 ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は 5.2 ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は 11.7 ポイント、「家の周りの静けさ」は 15.0 ポイント、「公園や緑の豊かさ」は 15.9 ポイント下回っている。一方、『利便性』、『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は 8.4 ポイント、「買い物の便利さ」は 6.6 ポイント、「病院や医院までの距離」は 1.2 ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 6.2 ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 6.8 ポイント、「市や区の窓口サービス」は 6.3 ポイント上回っている。（図表２－６）

図表２－７　生活環境の満足度（＜満足＞、中原区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示　（%）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
中原区	52.7	53.1	50.4	45.7	67.4	66.3	80.6	75.2	79.5	40.7	53.9	58.5
全　体	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4

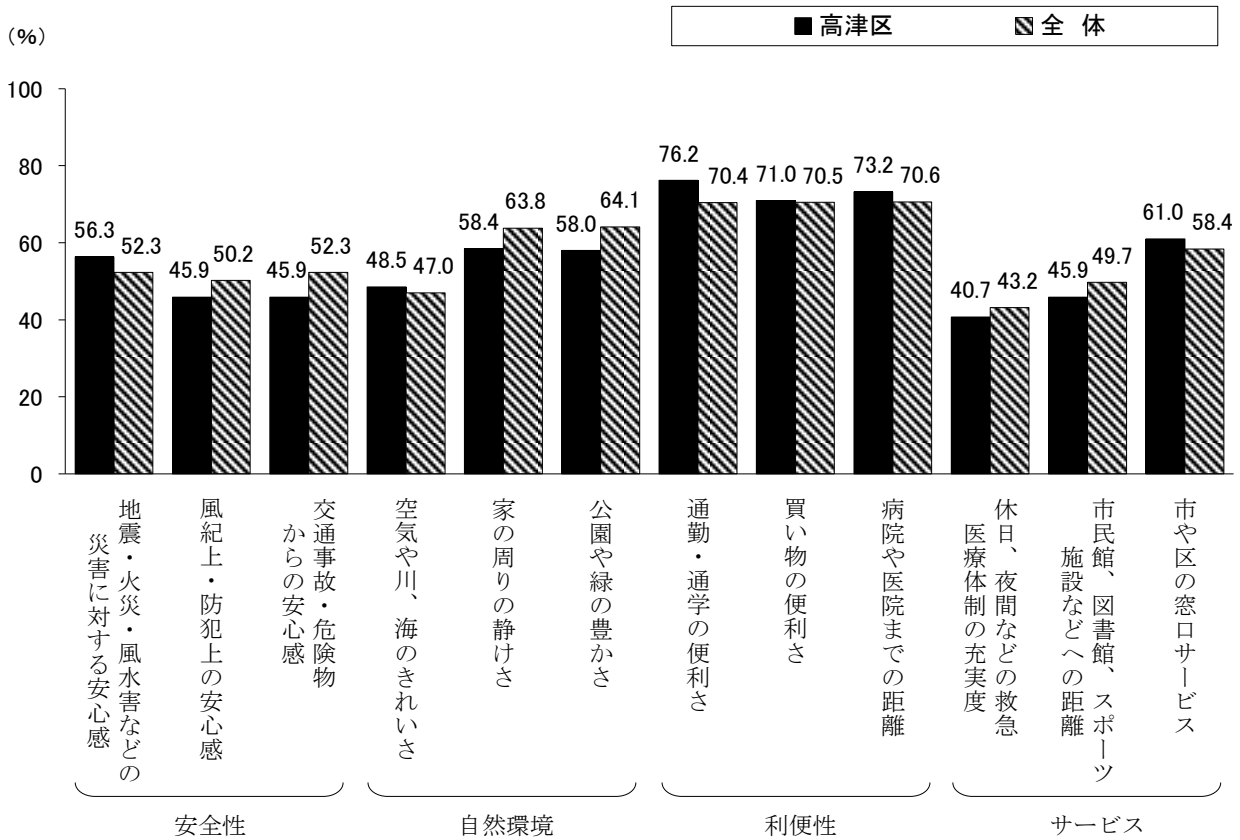


中原区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は 0.4 ポイントのプラス、「風紀上・防犯上の安心感」は 2.9 ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は 1.9 ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は 1.3 ポイントのマイナス、「家の周りの静けさ」は 3.6 ポイントのプラス、「公園や緑の豊かさ」は 2.2 ポイントのプラスとなっている。『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は 10.2 ポイント、「買い物の便利さ」は 4.7 ポイント、「病院や医院までの距離」は 8.9 ポイント上回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 2.5 ポイントのマイナス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 4.2 ポイントのプラス、「市や区の窓口サービス」は 0.1 ポイントのプラスとなっている。（図表２－７）

図表２－８　生活環境の満足度（＜満足＞、高津区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示　（%）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
高津区	56.3	45.9	45.9	48.5	58.4	58.0	76.2	71.0	73.2	40.7	45.9	61.0
全　体	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4

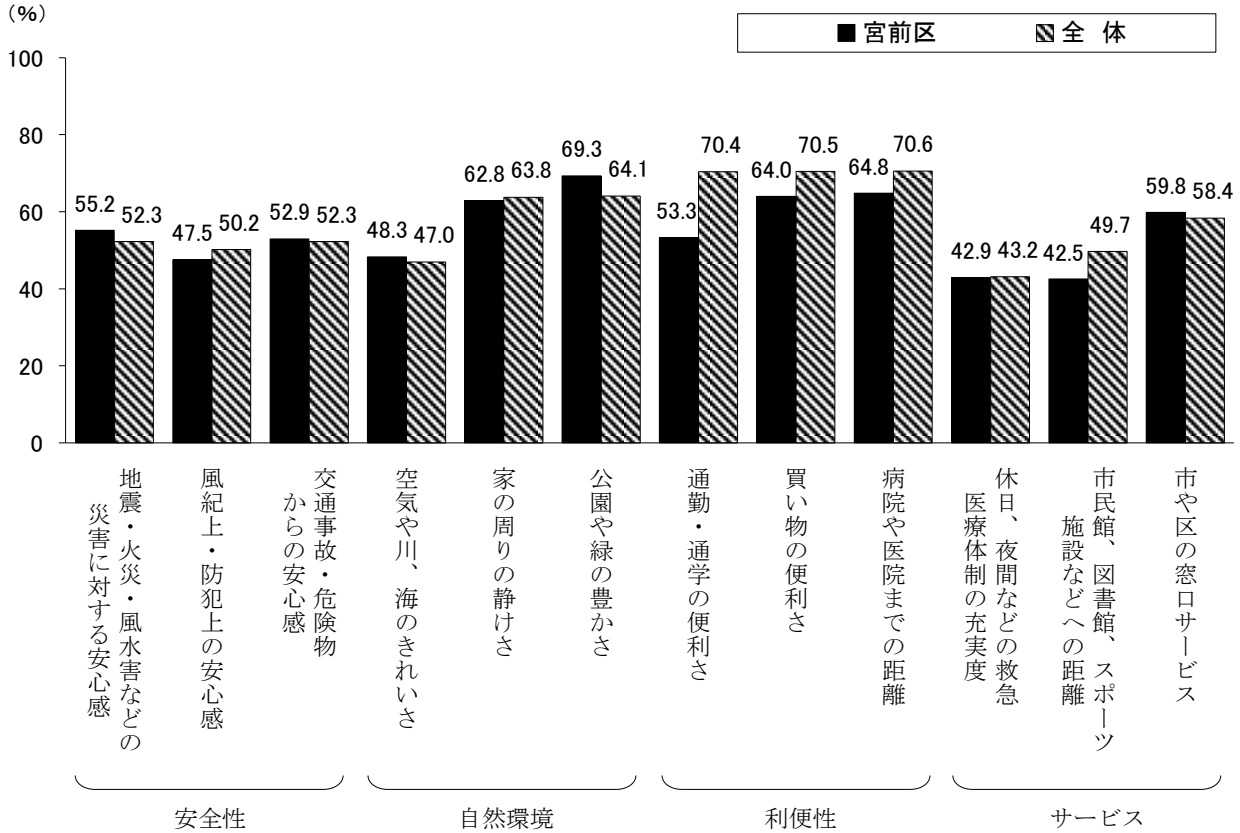


高津区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は4.0ポイントのプラス、「風紀上・防犯上の安心感」は4.3ポイントのマイナス、「交通事故・危険物からの安心感」は 6.4 ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は1.5ポイントのプラス、「家の周りの静けさ」は5.4ポイントのマイナス、「公園や緑の豊かさ」は 6.1 ポイントのマイナス、となっている。『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は5.8ポイント、「買い物の便利さ」は0.5ポイント、「病院や医院までの距離」は 2.6 ポイント上回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 2.5 ポイントのマイナス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 3.8 ポイントのマイナス、「市や区の窓口サービス」は 2.6 ポイントのプラスとなっている。（図表２－８）

図表２－９　生活環境の満足度（＜満足＞、宮前区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示　（%）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
宮前区	55.2	47.5	52.9	48.3	62.8	69.3	53.3	64.0	64.8	42.9	42.5	59.8
全　体	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4

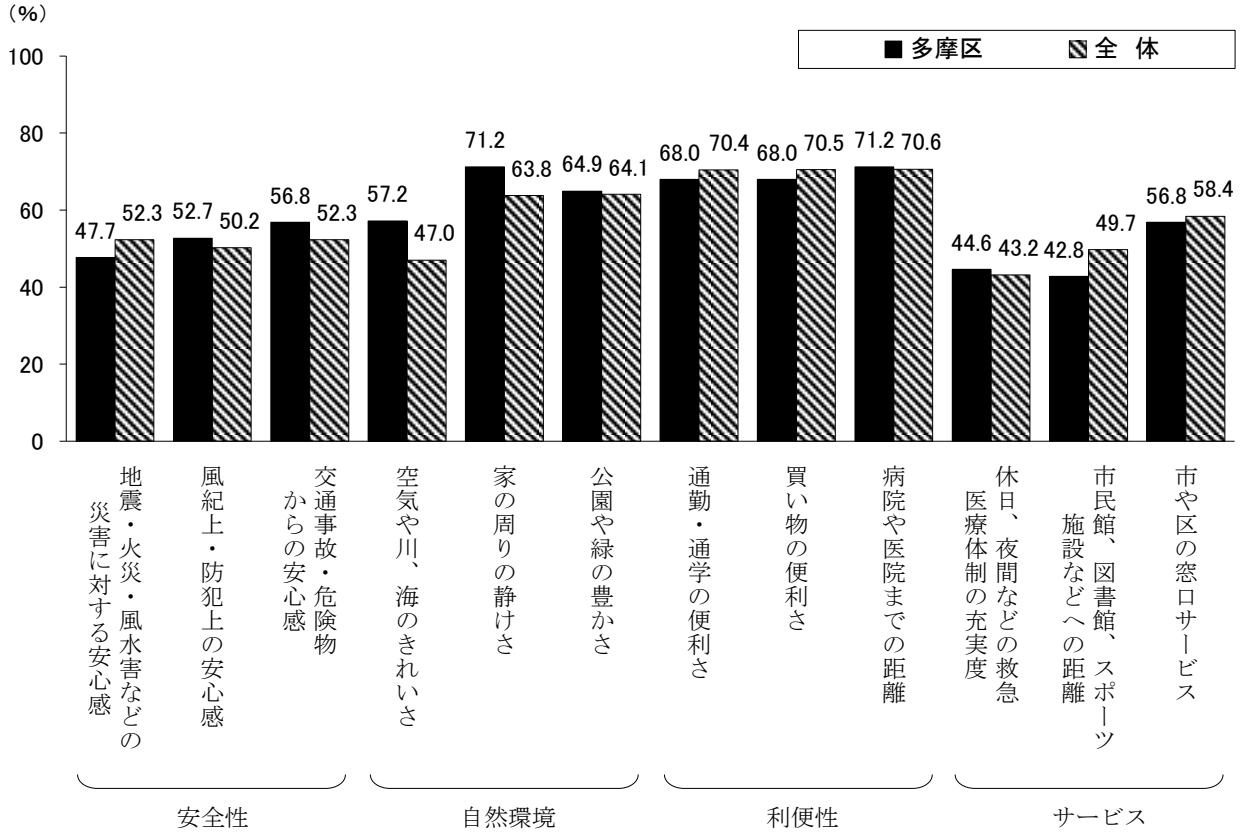


宮前区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は2.9ポイントのプラス、「風紀上・防犯上の安心感」は2.7ポイントのマイナス、「交通事故・危険物からの安心感」は0.6ポイントのプラスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は1.3ポイントのプラス、「家の周りの静けさ」は1.0ポイントのマイナス、「公園や緑の豊かさ」は 5.2 ポイントのプラスとなっている。『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は 17.1 ポイント、「買い物の便利さ」は 6.5 ポイント、「病院や医院までの距離」は 5.8 ポイント下回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 0.3 ポイントのマイナス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 7.2 ポイントのマイナス、「市や区の窓口サービス」は 1.4 ポイントのプラスとなっている。（図表２－９）

図表２－10　生活環境の満足度（＜満足＞、多摩区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示　（%）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
多摩区	47.7	52.7	56.8	57.2	71.2	64.9	68.0	68.0	71.2	44.6	42.8	56.8
全　体	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4

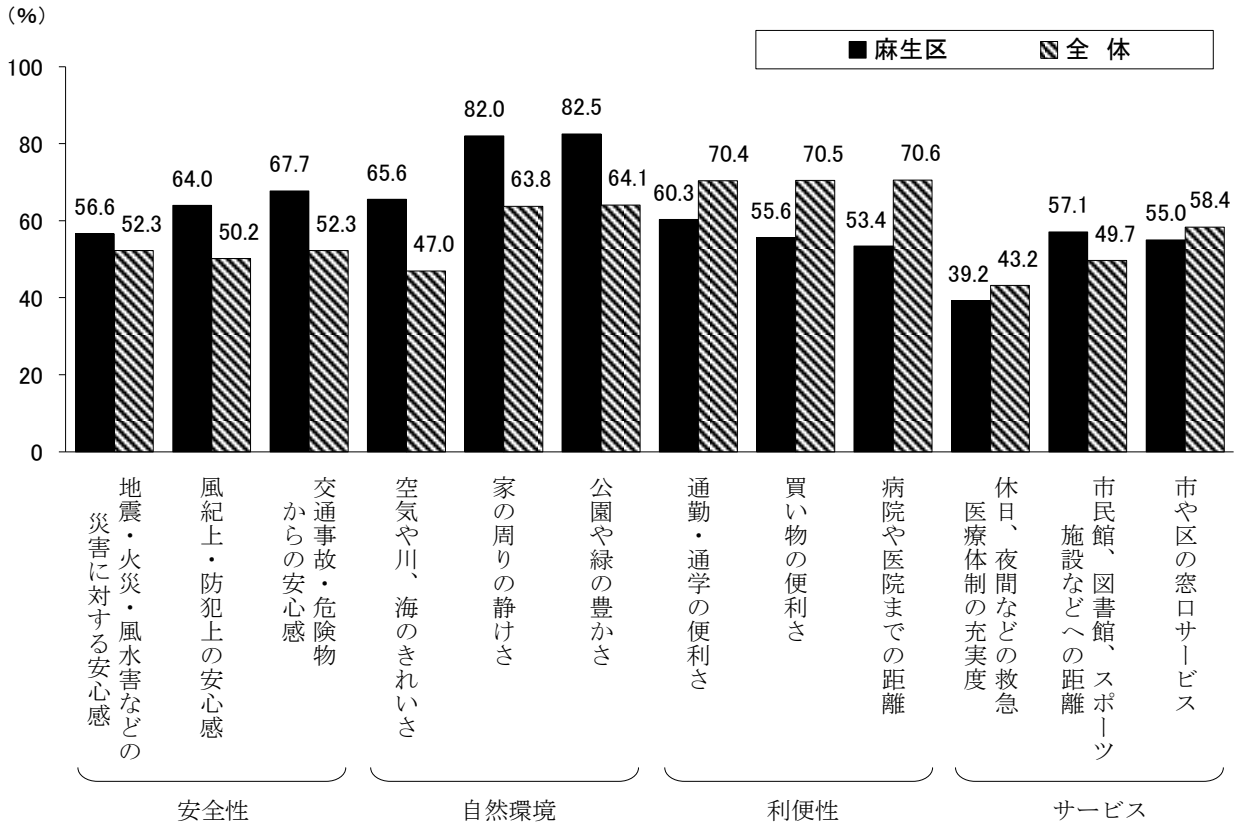


多摩区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は4.6ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は2.5ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は 4.5 ポイントのプラスとなっている。『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「空気や川、海のきれいさ」は10.2ポイント、「家の周りの静けさ」は 7.4 ポイント、「公園や緑の豊かさ」は 0.8 ポイント上回っている。『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は2.4ポイントのマイナス、「買い物の便利さ」は2.5ポイントのマイナス、「病院や医院までの距離」は0.6ポイントのプラスとなっている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 1.4 ポイントのプラス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 6.9 ポイントのマイナス、「市や区の窓口サービス」は 1.6 ポイントのマイナスとなっている。（図表２－10）

図表２－11　生活環境の満足度（＜満足＞、麻生区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示　（%）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
麻生区	56.6	64.0	67.7	65.6	82.0	82.5	60.3	55.6	53.4	39.2	57.1	55.0
全　体	52.3	50.2	52.3	47.0	63.8	64.1	70.4	70.5	70.6	43.2	49.7	58.4



麻生区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は 4.3 ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は 13.8 ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は 15.4 ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は 18.6 ポイント、「家の周りの静けさ」は 18.2 ポイント、「公園や緑の豊かさ」は 18.4 ポイント上回っている。『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は 10.1 ポイント、「買い物の便利さ」は 14.9 ポイント、「病院や医院までの距離」は 17.2 ポイント下回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 4.0 ポイントのマイナス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 7.4 ポイントのプラス、「市や区の窓口サービス」は 3.4 ポイントのマイナスとなっている。（図表２－11）

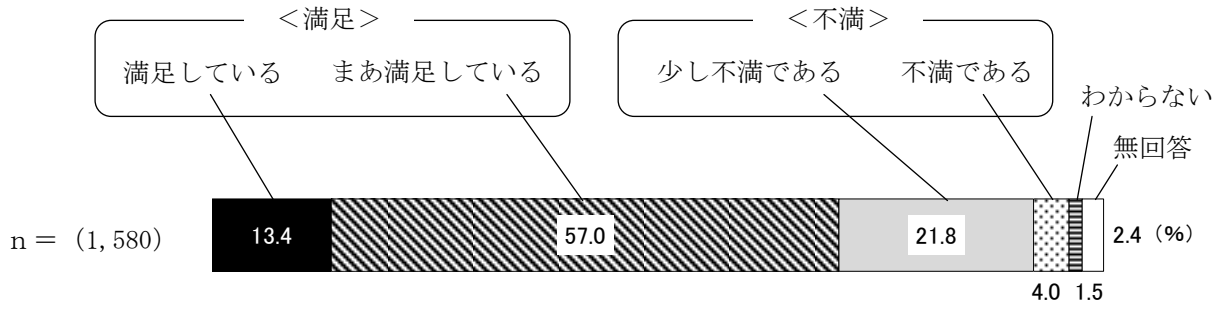
２－２　総合的な生活環境の満足度

◎＜満足＞が７０．４％

問６　地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

（○は１つだけ）

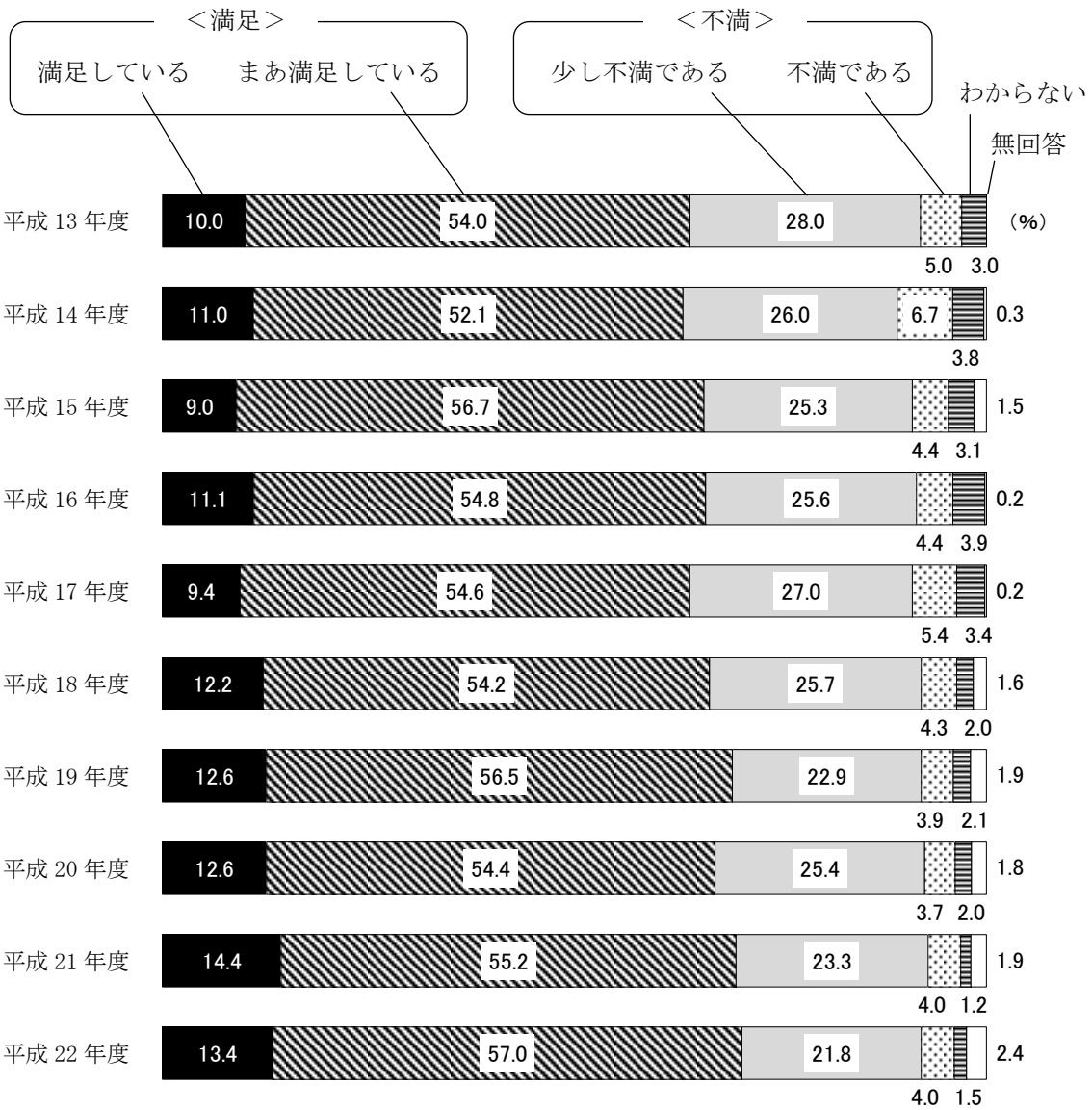
図表２－12　総合的な生活環境の満足度



総合的な生活環境は、「満足している」の 13.4%と「まあ満足している」の 57.0%をあわせた＜満足＞は 70.4%となっている。一方、「少し不満である」の 21.8%と「不満である」の 4.0%をあわせた＜不満＞は 25.8%となっている。（図表２－12）

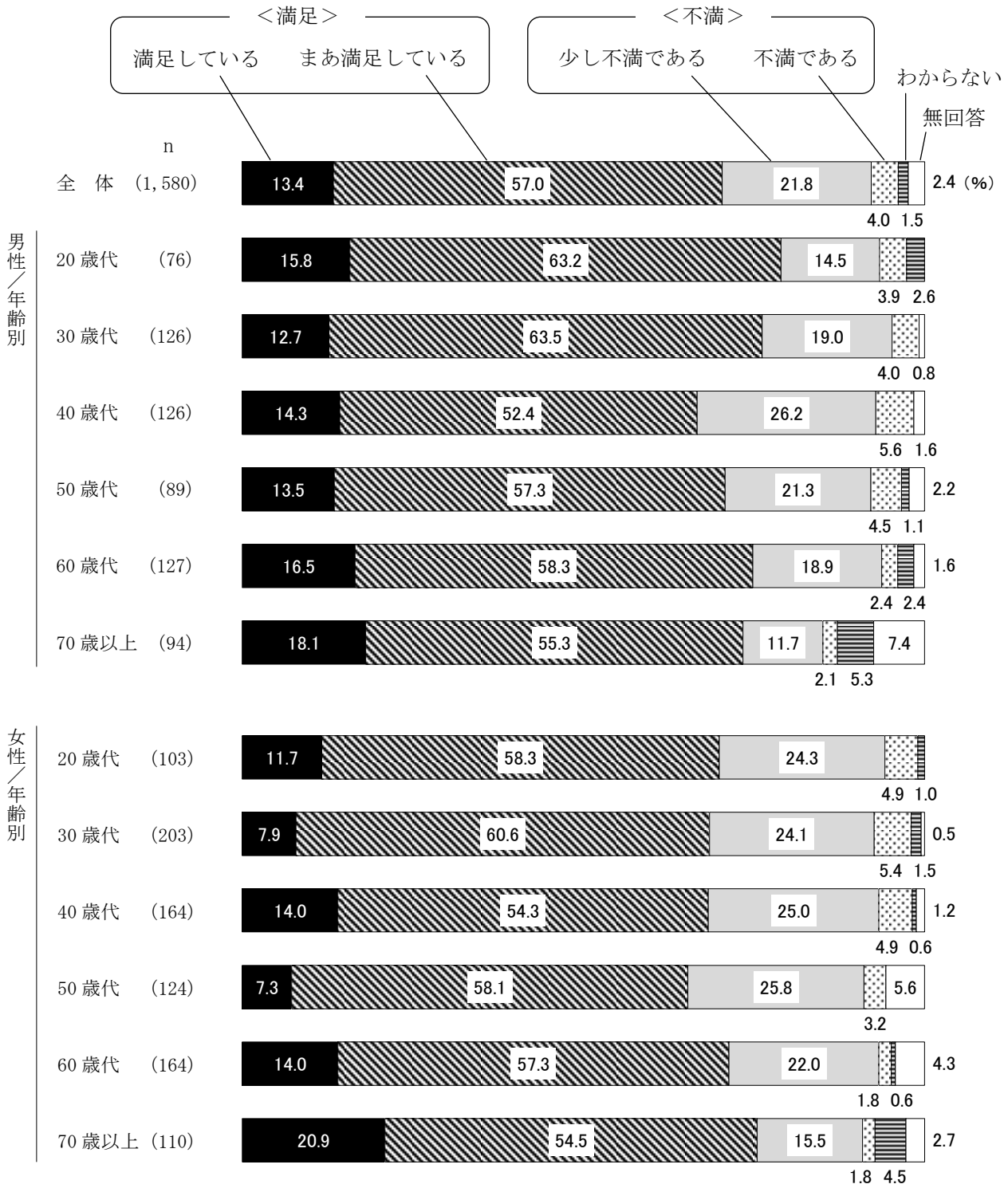
（第２回アンケート）

図表２－13　総合的な生活環境の満足度（経年比較）



過去の推移では、＜満足＞は、平成 13 年度以降６割台でおおむね増加傾向にあったが、平成 22 年度に初めて７割台に到達した。（図表２－13）

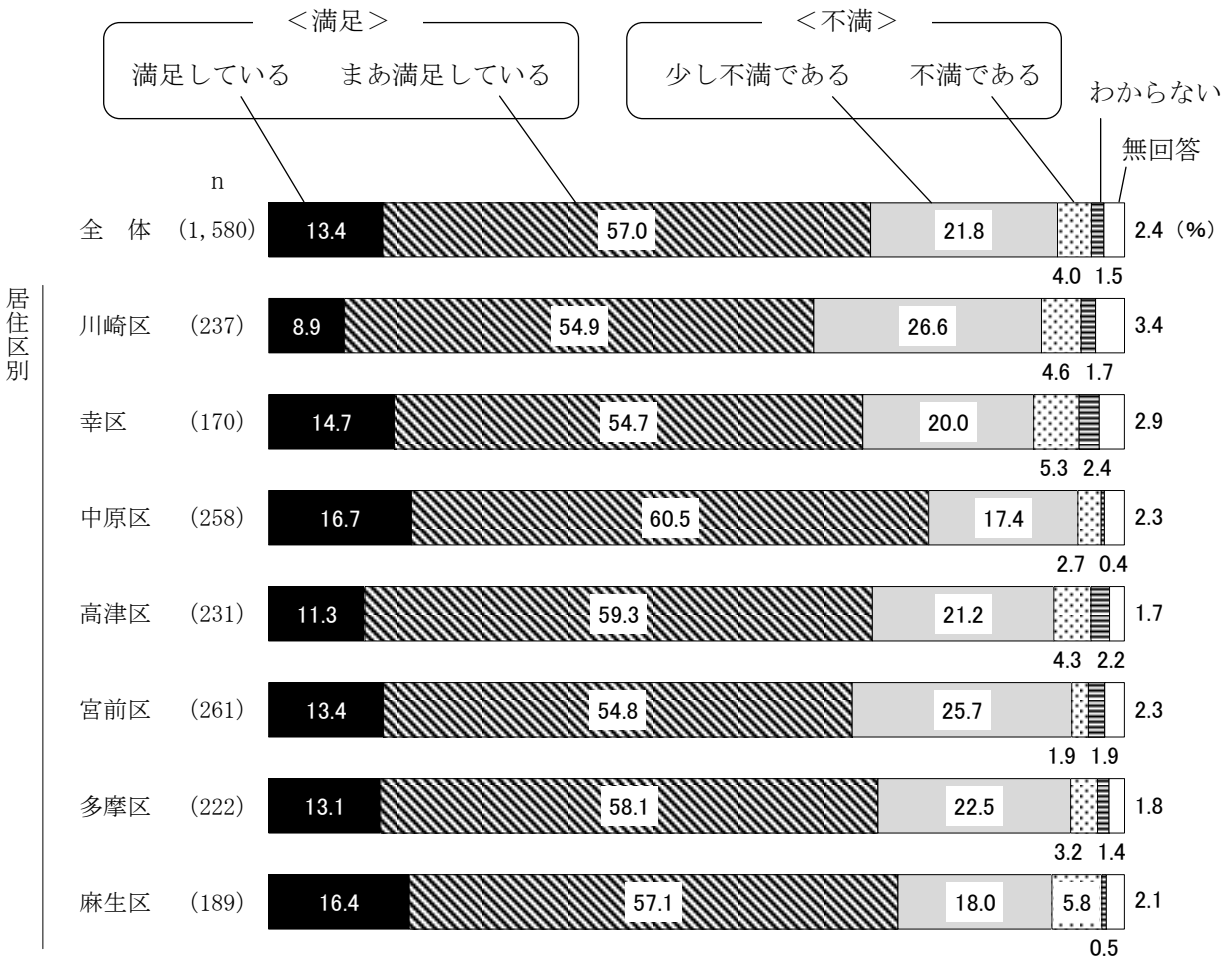
図表２－14　総合的な生活環境の満足度（性／年齢別）



性／年齢別では、＜満足＞は、男性では 20 歳代が 79.0％と最も多くなっている。次いで、30 歳代の 76.2％、60 歳代の 74.8％と続いている。女性では 70 歳以上が 75.4％と最も多くなっている。次いで、60 歳代の 71.3％、20 歳代の 70.0％と続いている。一方、＜不満＞は、男性では 40 歳代が 31.8％、女性でも 40 歳代が 29.9％と最も多くなっている。（図表２－14）

（第２回アンケート）

図表２－15　総合的な生活環境の満足度（居住区別）



居住区別では、＜満足＞は、中原区が 77.2%と最も多くなっている。次いで、麻生区の 73.5%、多摩区の 71.2%と続いている。＜不満＞は、川崎区が 31.2%と最も多くなっている。次いで、宮前区の 27.6%、多摩区の 25.7%と続いている。（図表２－15）

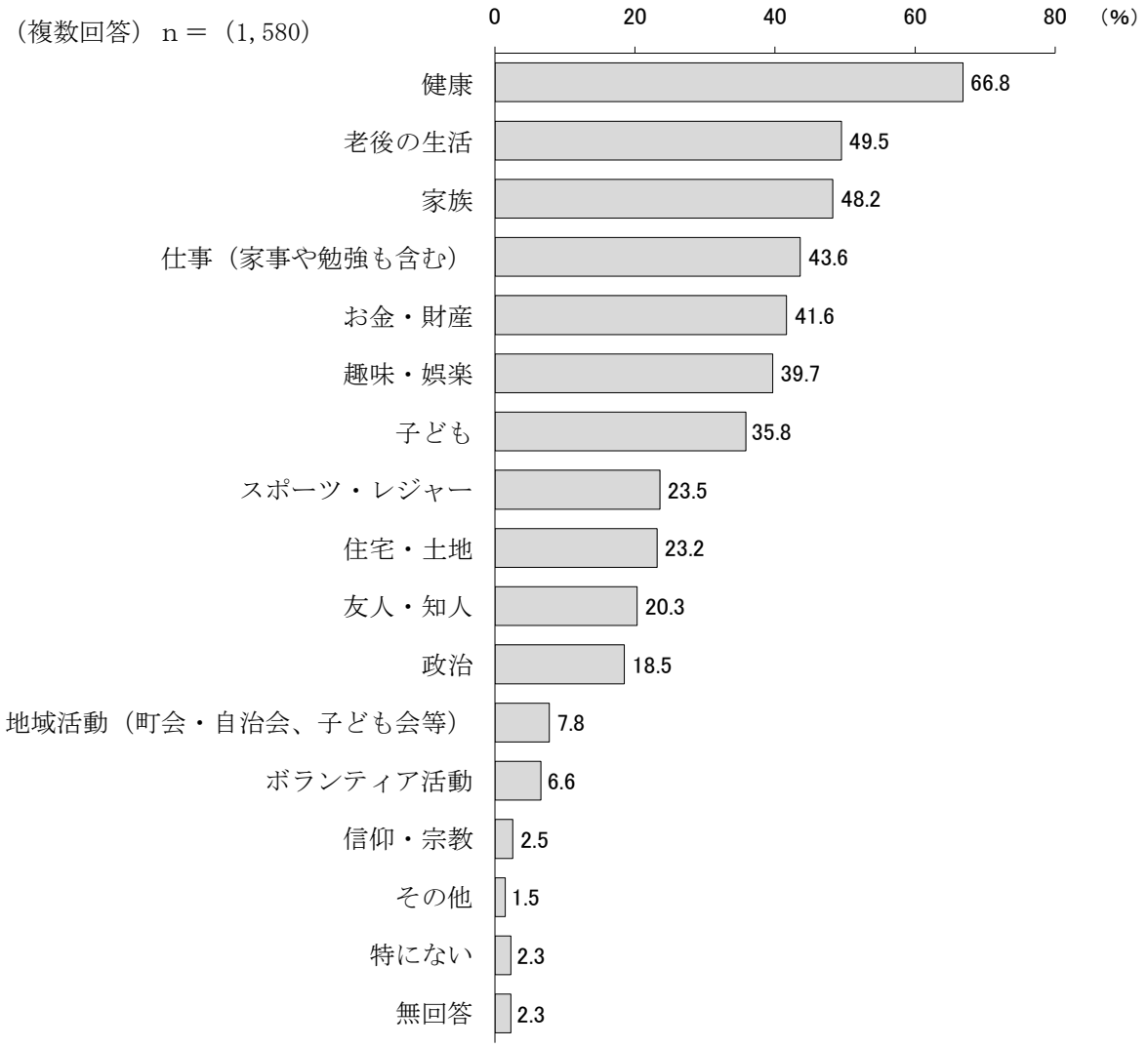
３　関心ごとと行動範囲について

３－１　関心を持っていること

◎「健康」が６６．８％

問７　現在特に関心をお持ちのことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

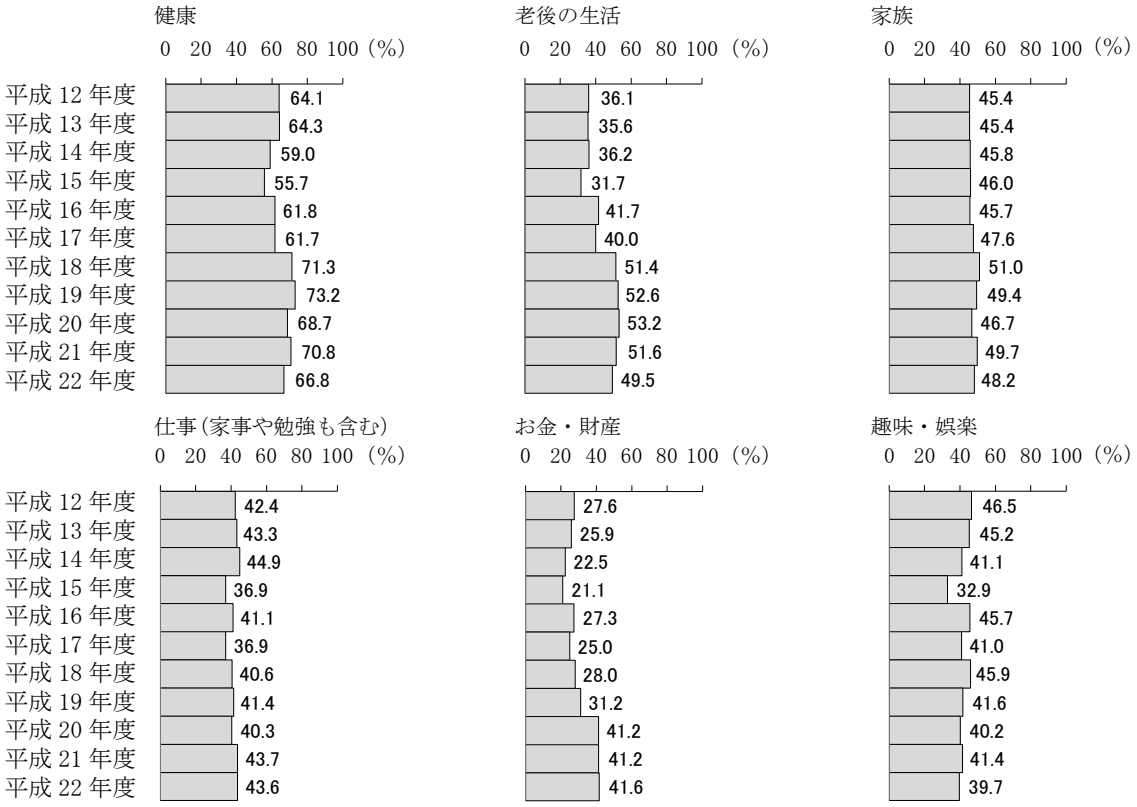
図表３－１　関心を持っていること



関心を持っていることは、「健康」の 66.8%が最も多くなっている。次いで、「老後の生活」の 49.5%、「家族」の 48.2%、「仕事（家事や勉強も含む）」の 43.6%、「お金・財産」の 41.6%、「趣味・娯楽」の 39.7%と続いている。（図表３－１）

（第２回アンケート）

図表３－２　関心を持っていること（経年比較、上位６項目）



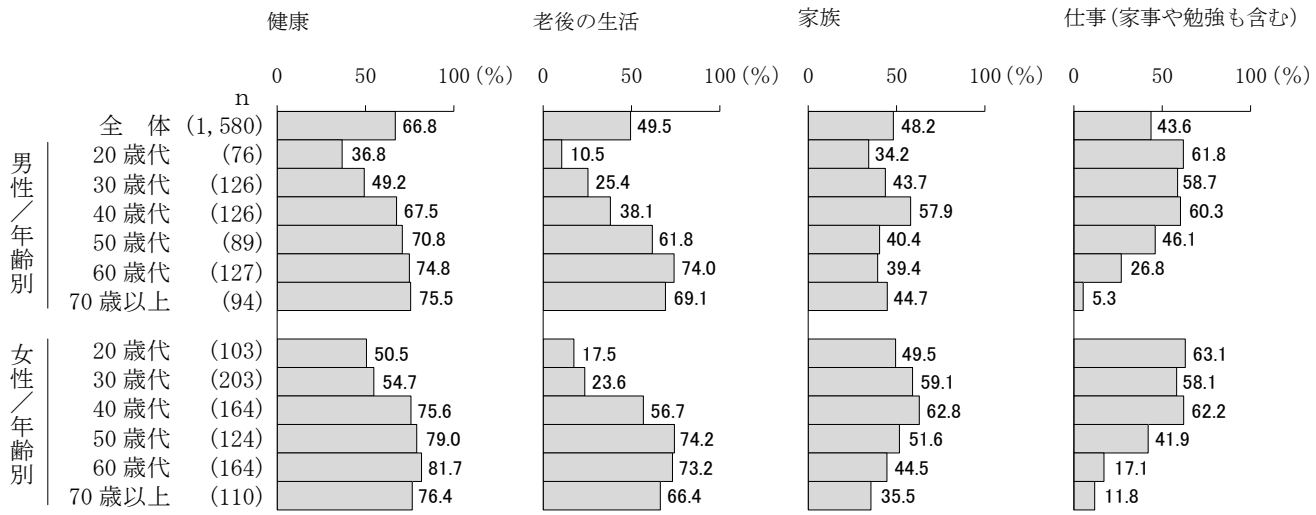
（%）

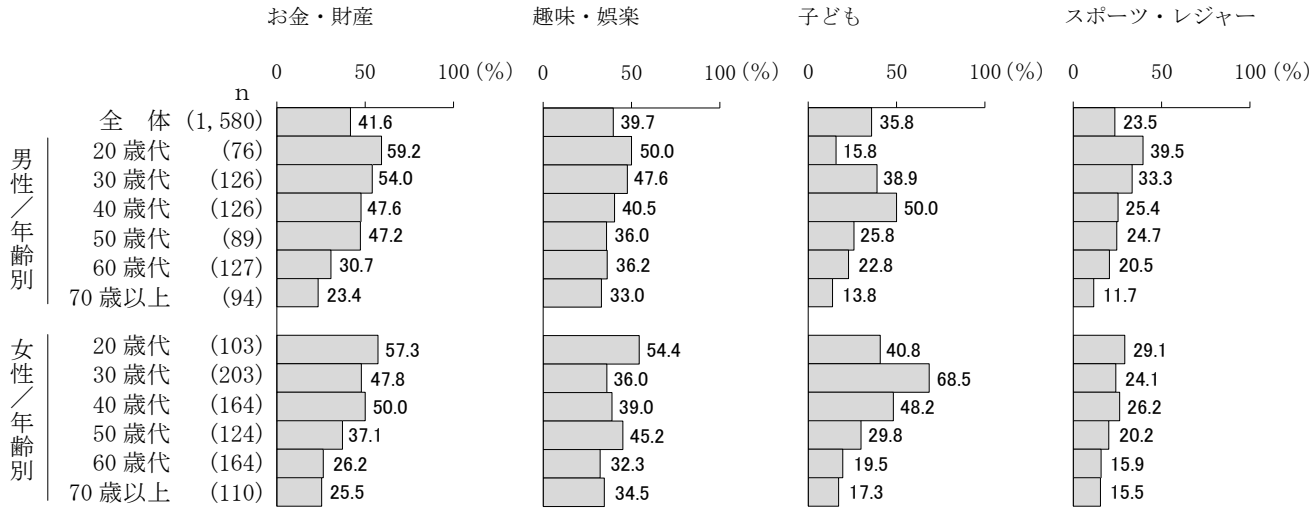
	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位	
平成12年度	健康	64.1	趣味・娯楽	46.5	家族	45.4	仕事（家事や勉強も含む）	42.4	子ども	37.2	老後の生活	36.1
平成13年度	健康	64.3	家族	45.4	趣味・娯楽	45.2	仕事（家事や勉強も含む）	43.3	老後の生活	35.6	子ども	32.9
平成14年度	健康	59.0	家族	45.8	仕事（家事や勉強も含む）	44.9	趣味・娯楽	41.1	老後の生活	36.2	子ども	34.4
平成15年度	健康	55.7	家族	46.0	仕事（家事や勉強も含む）	36.9	子ども	34.1	趣味・娯楽	32.9	老後の生活	31.7
平成16年度	健康	61.8	家族／趣味・娯楽			45.7	老後の生活	41.7	仕事（家事や勉強も含む）	41.1	子ども	34.5
平成17年度	健康	61.7	家族	47.6	趣味・娯楽	41.0	老後の生活	40.0	子ども	37.7	仕事（家事や勉強も含む）	36.9
平成18年度	健康	71.3	老後の生活	51.4	家族	51.0	趣味・娯楽	45.9	仕事（家事や勉強も含む）	40.6	子ども	35.5
平成19年度	健康	73.2	老後の生活	52.6	家族	49.4	趣味・娯楽	41.6	仕事（家事や勉強も含む）	41.4	子ども	34.0
平成20年度	健康	68.7	老後の生活	53.2	家族	46.7	お金・財産	41.2	仕事（家事や勉強も含む）	40.3	趣味・娯楽	40.2
平成21年度	健康	70.8	老後の生活	51.6	家族	49.7	仕事（家事や勉強も含む）	43.7	趣味・娯楽	41.4	お金・財産	41.2
平成22年度	健康	66.8	老後の生活	49.5	家族	48.2	仕事（家事や勉強も含む）	43.6	お金・財産	41.6	趣味・娯楽	39.7

注：「お金・財産」」は平成 19 年度調査までは「金・財産」であった。

上位の６項目について、平成 12 年度以降を比較した。平成 21 年度と比較すると、上位４項目に順位の変動は無いが、「お金・財産」は６位から５位となり、「趣味・娯楽」は５位から６位となった。また、上位４項目のポイントが全て減少した。（図表３－２）

図表３－３　関心を持っていること（性／年齢別、上位８項目）





性／年齢別では、「健康」は、男性では年齢が高くなるにつれ、女性でもおおむね年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「老後の生活」は、男性では 60 歳代が 74.0%、女性では 50 歳代が 74.2%と最も多くなっている。「家族」は、男性では 40 歳代で 57.9%、女性でも 40 歳代で 62.8%と最も多くなっている。「仕事（家事や勉強も含む）」は、男性では 20 歳代から 40 歳代で５割台後半から６割台前半、女性では５割台後半から６割台半ばと多くなっている。「お金・財産」は、男性では年齢が上がるにつれ、女性でもおおむね年齢が上がるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「趣味・娯楽」は、男性では年齢が高くなるにつれおおむね割合が少なくなる傾向となっており、女性では 20 歳代を除く全年代を通して３割台前半から４割台半ばとなっている。「子ども」は、男性では 40 歳代が 50.0%、女性では 30 歳代が 68.5%と最も多くなっている。「スポーツ・レジャー」は、男女とも 20 歳代で最も多くなっており、男性では年齢が上がるにつれ、女性でもおおむね年齢が上がるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。（図表３－３）

（第２回アンケート）

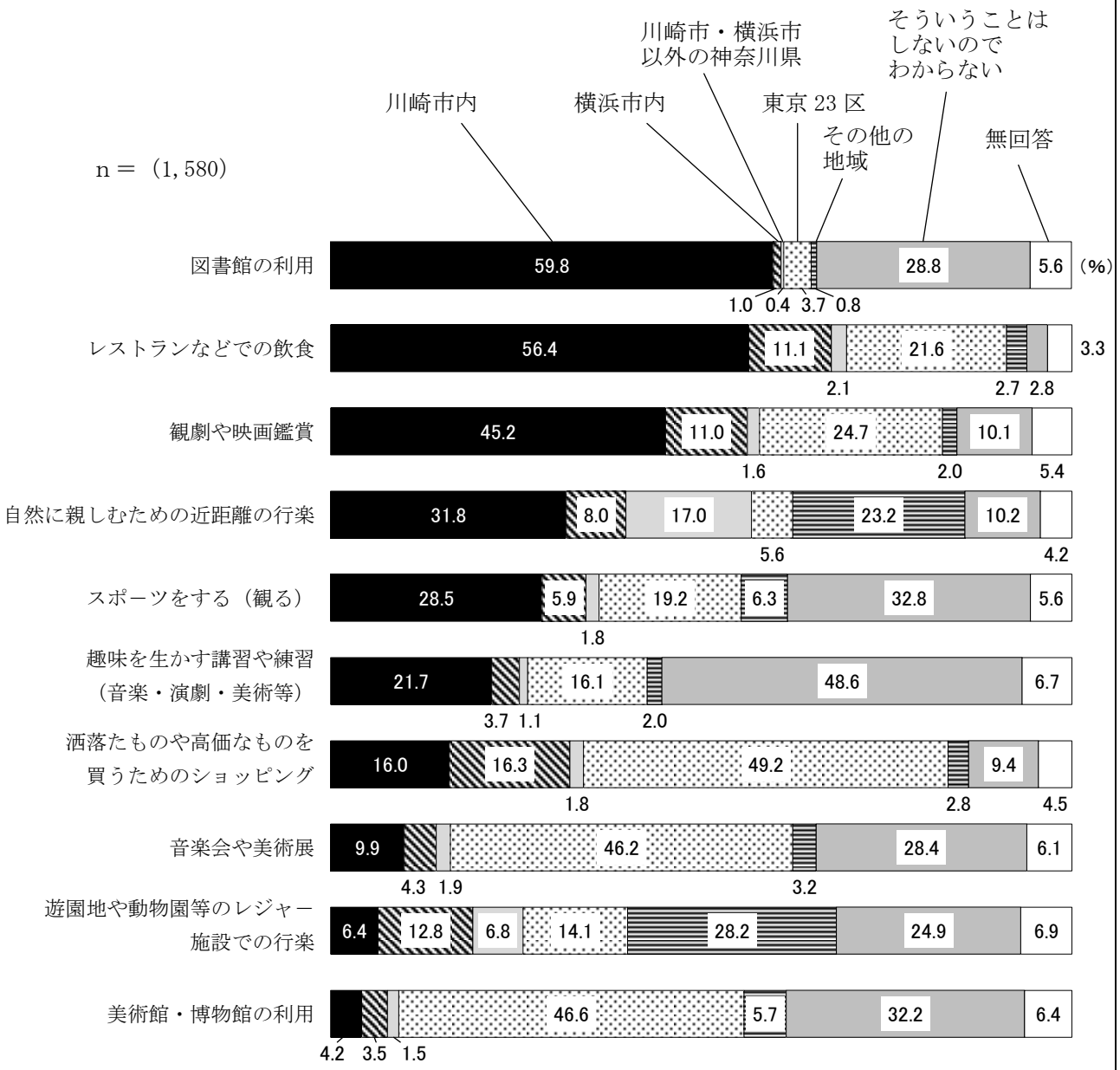
３－２　行動範囲

◎『川崎市内』で多いのは、「図書館の利用」５９．８%、「レストランなどでの飲食」５６．４%

問８　行楽や文化施設の利用・ショッピングなどをされる場合、主にどこに行かれますか。

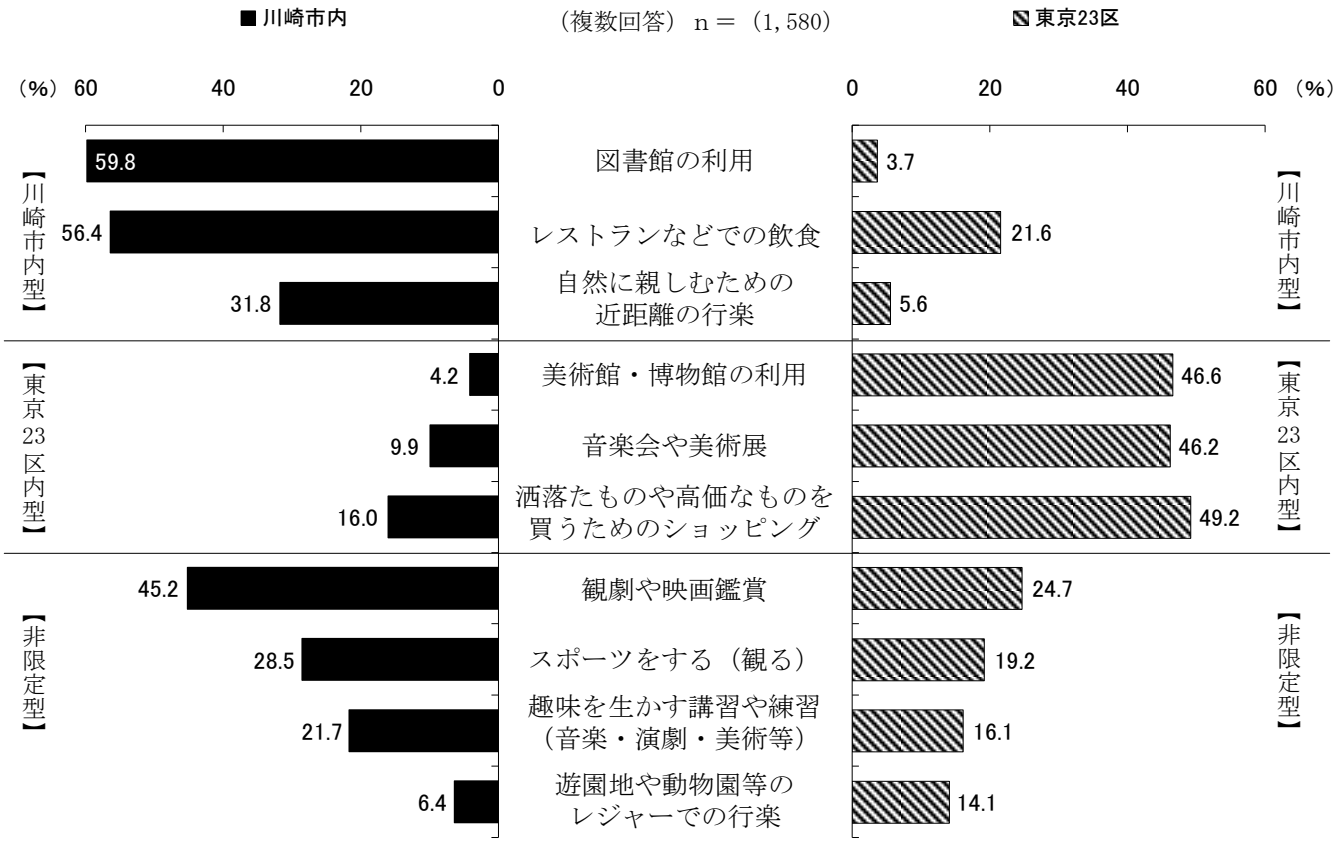
（○はそれぞれ１つずつ）

図表３－４　行動範囲



川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が最も多かったのは、「図書館の利用」の 59.8%となっている。次いで、「レストランなどでの飲食」の 56.4%、「観劇や映画鑑賞」の 45.2%と続いている。一方、『東京 23 区』が最も多かったのは、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」の 49.2%となっている。次いで、「美術館・博物館の利用」の 46.6%、「音楽会や美術展」の 46.2%と続いている。（図表３－４）

図表３－５　行動範囲（『川崎市内』と『東京 23 区』との比較）



各項目について、行動範囲別に【川崎市内型】、【東京 23 区内型】、【非限定型】に分類すると以下のようになる。（図表３－５）

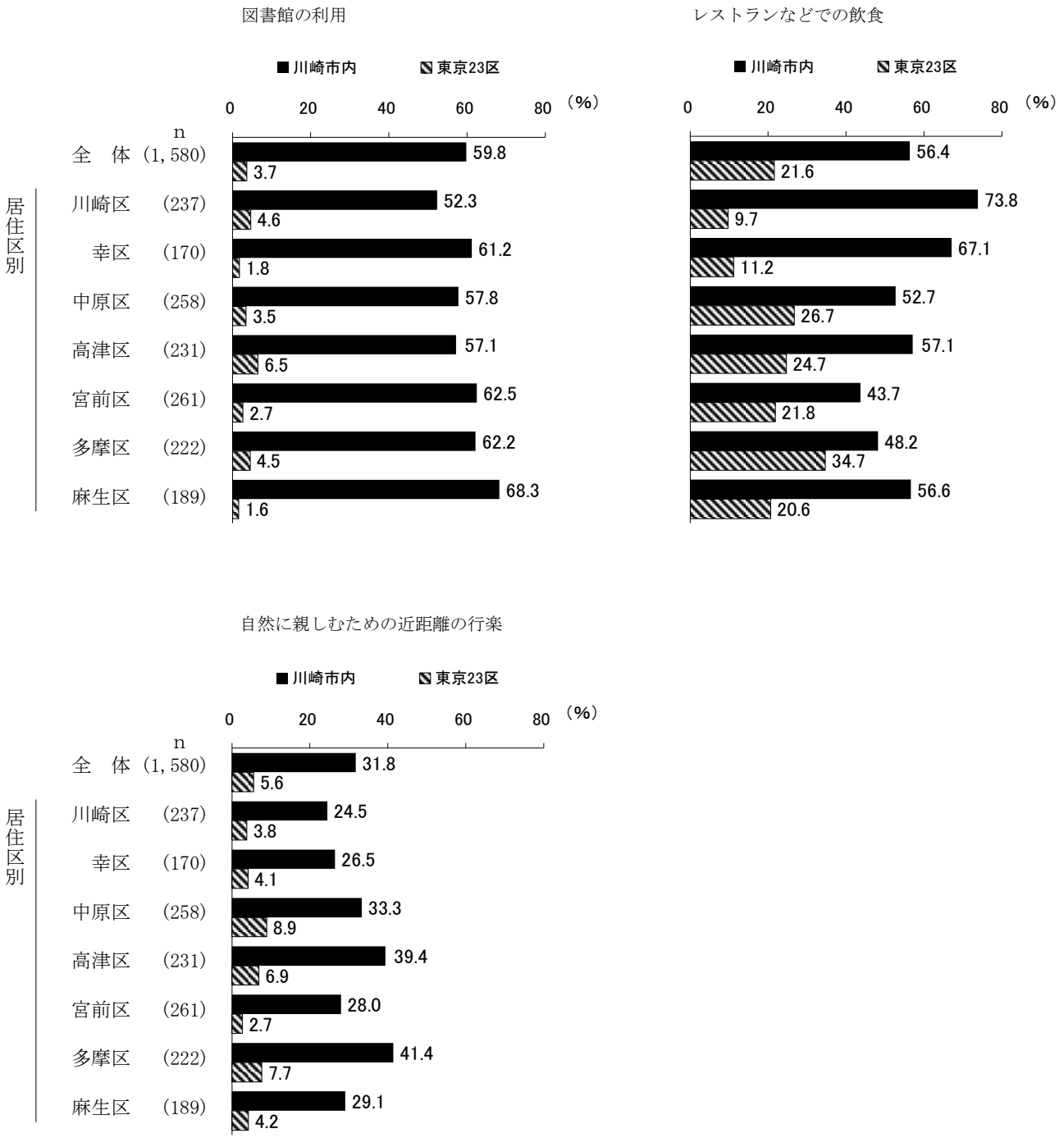
【川崎市内型】 ･･････ 図書館の利用
レストランなどでの飲食
自然に親しむための近距離の行楽

【東京 23 区内型】 ･･･ 美術館・博物館の利用
音楽会や美術展
洒落たものや高価なものを買うためのショッピング

【非限定型】 ････････ 観劇や映画鑑賞
スポーツをする（観る）
趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）
遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽

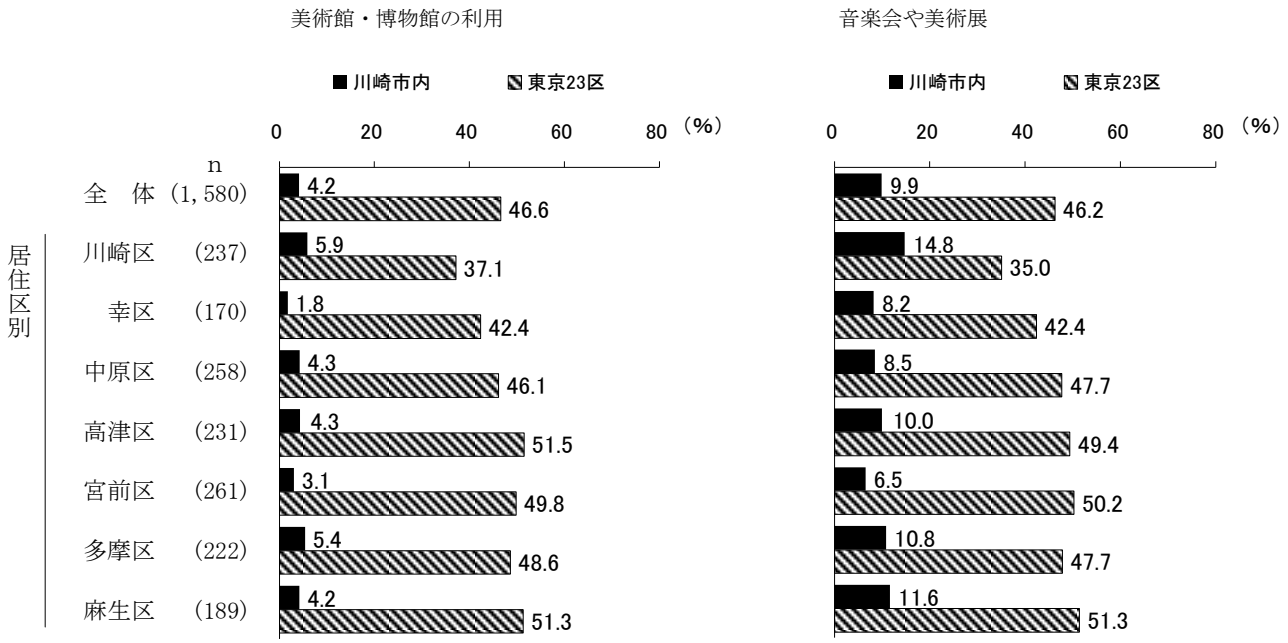
（第２回アンケート）

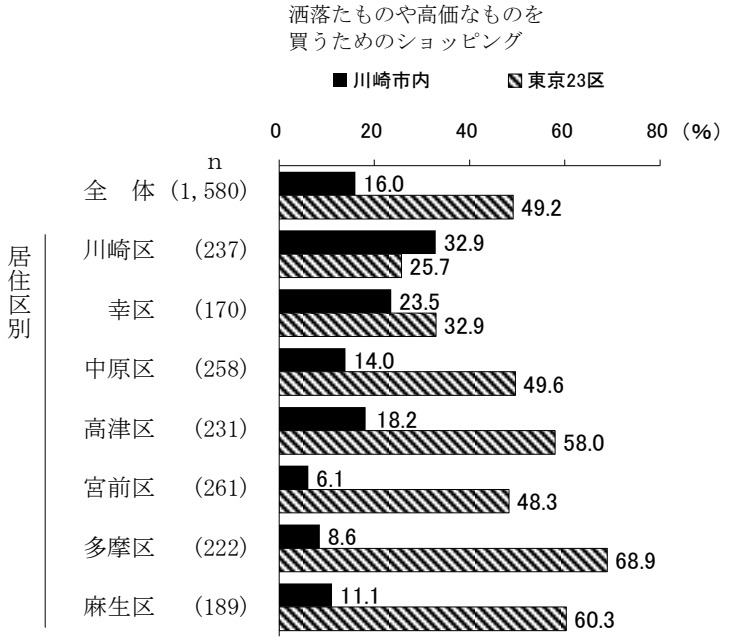
図表３－６　行動範囲（『川崎市内』と『東京 23 区』との比較、居住区別）【川崎市内型】



【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い３項目を、居住区別で比較すると、「図書館の利用」は、麻生区が 68.3％と最も多くなっており、『東京 23 区』の利用率は、いずれの居住区においても１割未満と少なくなっている。「レストランなどでの飲食」は、川崎区が 73.8％と最も多くなっており、『東京 23 区』の利用率が最も高いのは多摩区の 34.7％となっている。「自然に親しむための近距離の行楽」は、多摩区が 41.4％と最も多くなっており、『東京 23 区』の利用率は、いずれの居住区においても１割未満と少なくなっている。（図表３－６）

図表３－７　行動範囲（『川崎市内』と『東京 23 区』との比較、居住区別）【東京 23 区内型】

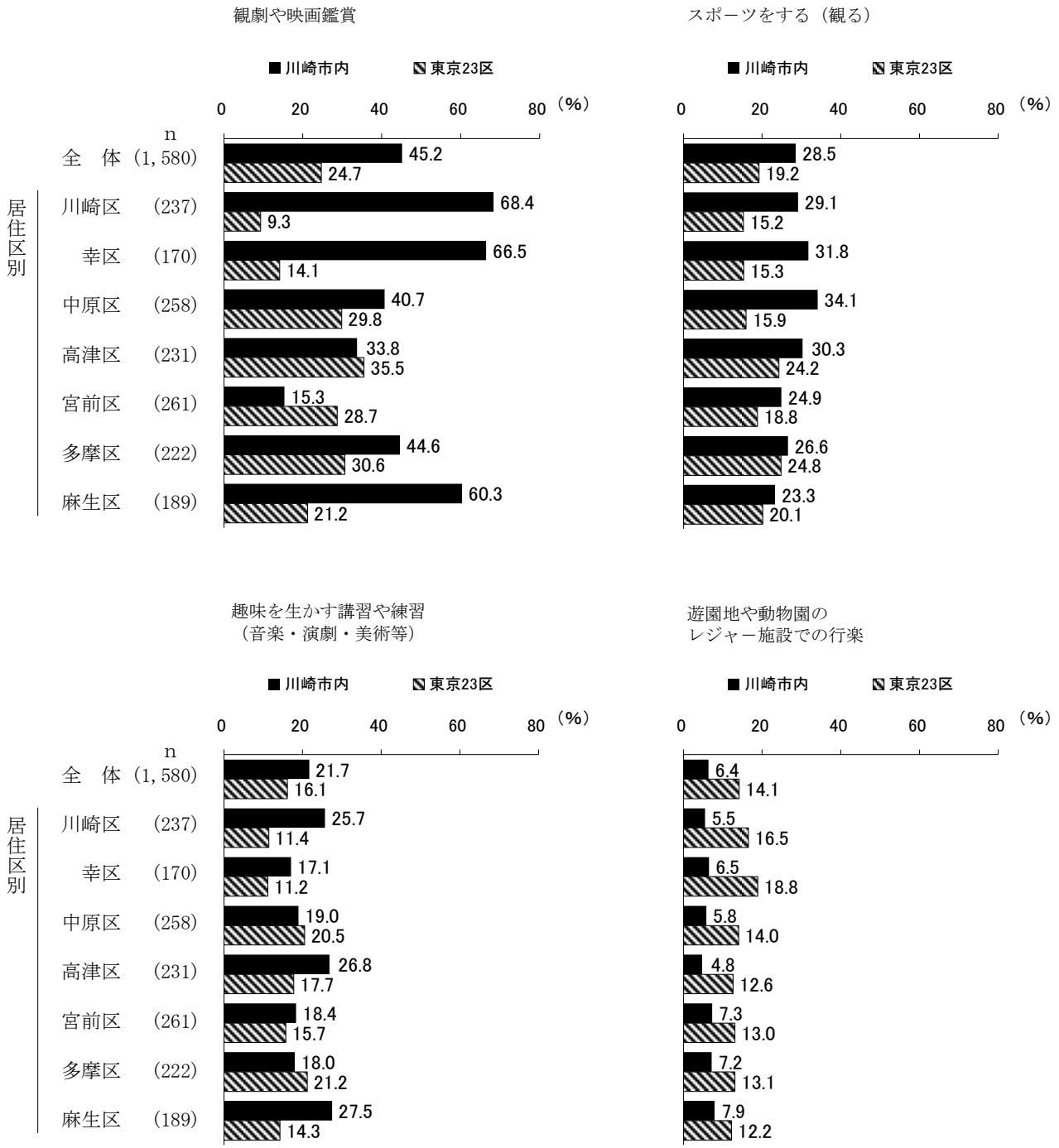




【東京 23 区内型】に分類した『東京 23 区』での利用率が高い３項目を、居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」は、高津区が 51.5%と最も多くなっており、『川崎市内』の利用率は、いずれの居住区においても１割未満と少なくなっている。「音楽会や美術展」は、川崎区が 35.0%と最も少なくなっているのに対して、『川崎市内』での利用が 14.8%と最も多くなっている。「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は、多摩区が 68.9%と最も多くなっている。なお、川崎区では『川崎市内』の利用率が 32.9%と多く、『東京 23 区』の利用率の 25.7%を上回っている。（図表３－７）

（第２回アンケート）

図表３－８　行動範囲（『川崎市内』と『東京 23 区』との比較、居住区別）【非限定型】



『川崎市内』や『東京 23 区』に限らず平均的な利用があると思われる【非限定型】４項目を、居住区別で比較すると、「観劇や映画鑑賞」は、川崎区、幸区、麻生区で『川崎市内』の割合が６割台前半から６割台後半と多くなっている。「スポーツをする（観る）」は、いずれの居住区においても『川崎市内』が『東京 23 区』を上回っている。「趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）」は、中原区、多摩区で『東京 23 区』が『川崎市内』を上回っている。「遊園地や動物園のレジャー施設での行楽」は、いずれの居住区においても『東京 23 区』が『川崎市内』を上回っている。（図表３－８）

４　市政に対する評価と要望について

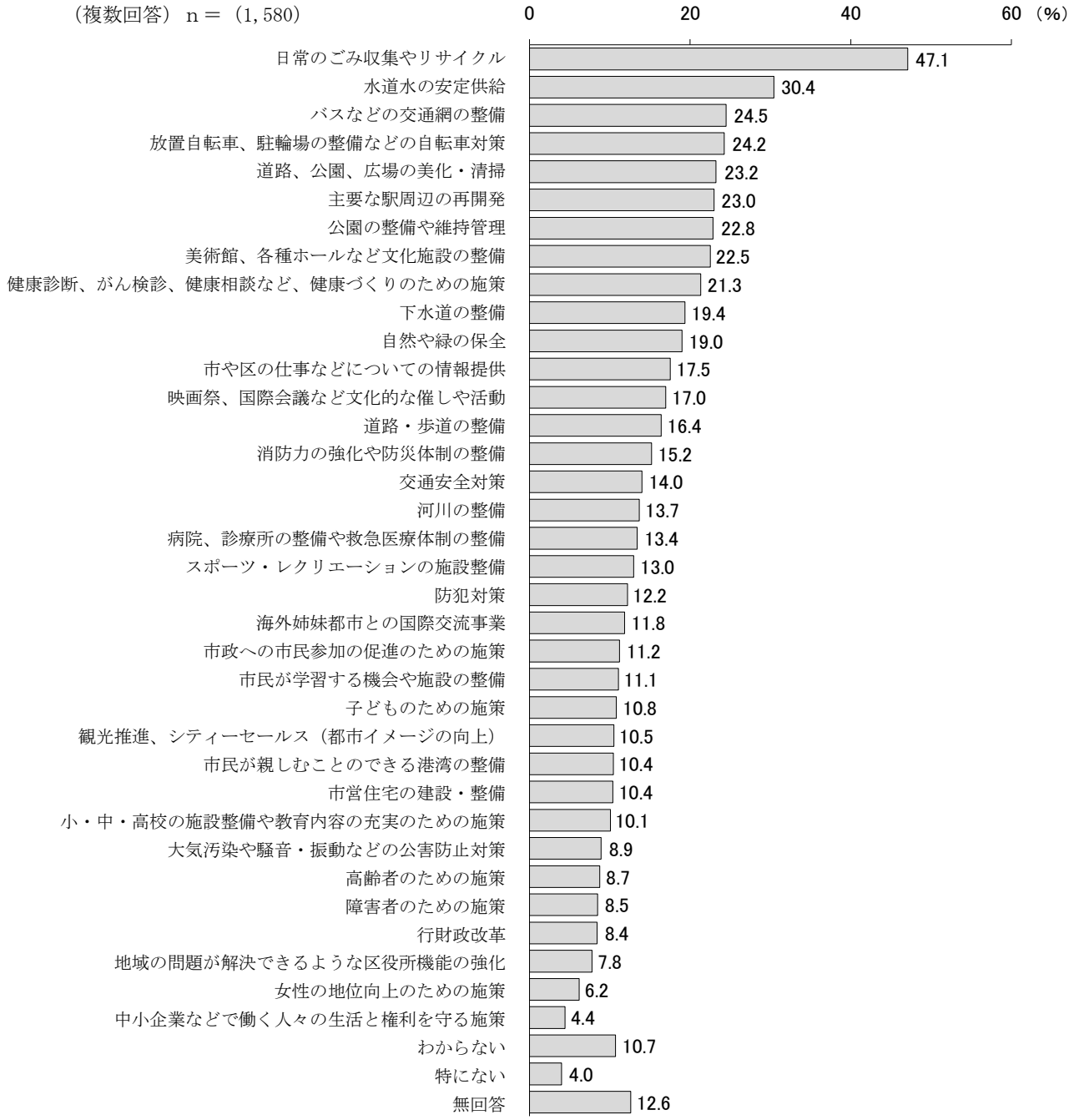
４－１　市政の仕事でよくやっていると思うこと

◎「日常のごみ収集やリサイクル」が４７．１％

問９　市政について総合的にうかがいます。

次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。（あてはまるものすべてに○）

図表４－１　市政の仕事でよくやっていると思うこと



（第２回アンケート）

市政の仕事でよくやっていると思うことは、「日常のごみ収集やリサイクル」の 47.1%が最も多くなっている。次いで、「水道水の安定供給」の 30.4%、「バスなどの交通網の整備」の 24.5%、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」の 24.2%と続いている。（図表４－１）

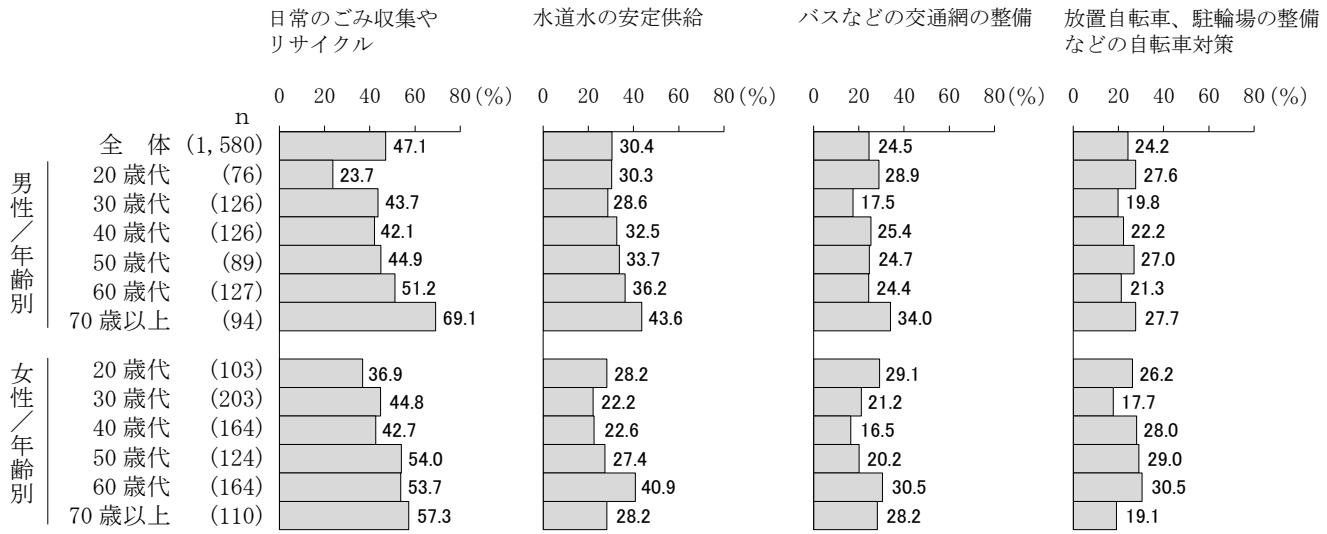
図表４－２　市政の仕事でよくやっていると思うこと（前年比較）　（%）

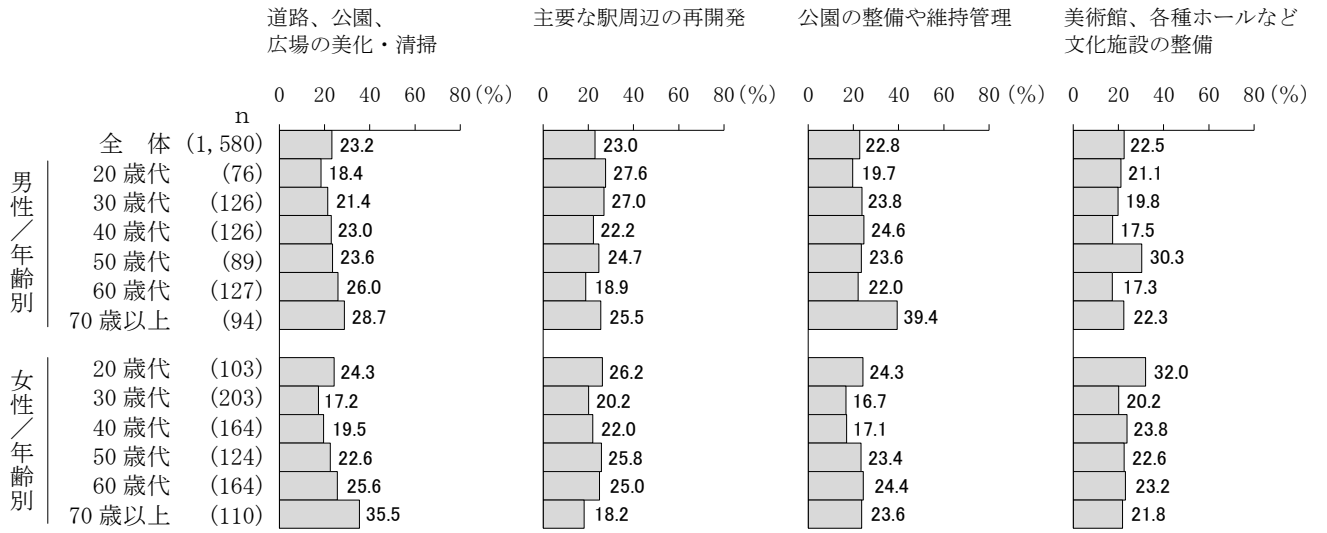
	平成22年度	平成21年度
日常のごみ収集やリサイクル	47.1	49.3
水道水の安定供給	30.4	31.8
バスなどの交通網の整備	24.5	25.4
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	24.2	23.3
道路、公園、広場の美化・清掃	23.2	24.0
主要な駅周辺の再開発	23.0	24.5
公園の整備や維持管理	22.8	22.4
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	22.5	26.1
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	21.3	20.8
下水道の整備	19.4	20.4
自然や緑の保全	19.0	19.5
市や区の仕事などについての情報提供	17.5	17.9
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	17.0	18.3
道路・歩道の整備	16.4	14.8
消防力の強化や防災体制の整備	15.2	16.4
交通安全対策	14.0	14.9
河川の整備	13.7	15.7
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	13.4	12.2
スポーツ・レクリエーションの施設整備	13.0	13.1
防犯対策	12.2	11.9
海外姉妹都市との国際交流事業	11.8	12.9
市政への市民参加の促進のための施策	11.2	10.0
市民が学習する機会や施設の整備	11.1	11.7
子どものための施策	10.8	10.1
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	10.5	11.6
市民が親しむことのできる港湾の整備	10.4	10.3
市営住宅の建設・整備	10.4	10.1
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	10.1	8.7
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	8.9	9.2
高齢者のための施策	8.7	7.4
障害者のための施策	8.5	6.8
行財政改革	8.4	8.4
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	7.8	6.7
女性の地位向上のための施策	6.2	6.5
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	4.4	4.9
わからない	10.7	6.8
特にない	4.0	1.8
無回答	12.6	11.6

平成 21 年度と比較すると、「障害者のための施策」の 8.5%が 1.7 ポイント、「道路・歩道の整備」の 16.4%が 1.6 ポイント、「小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策」の 10.1%が 1.4 ポイント上回っている。一方、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」の 22.5%が 3.6 ポイント、「日常のごみ収集やリサイクル」の 47.1%が 2.2 ポイント、「河川の整備」の 13.7%が 2.0 ポイント下回っている。（図表４－２）

（第２回アンケート）

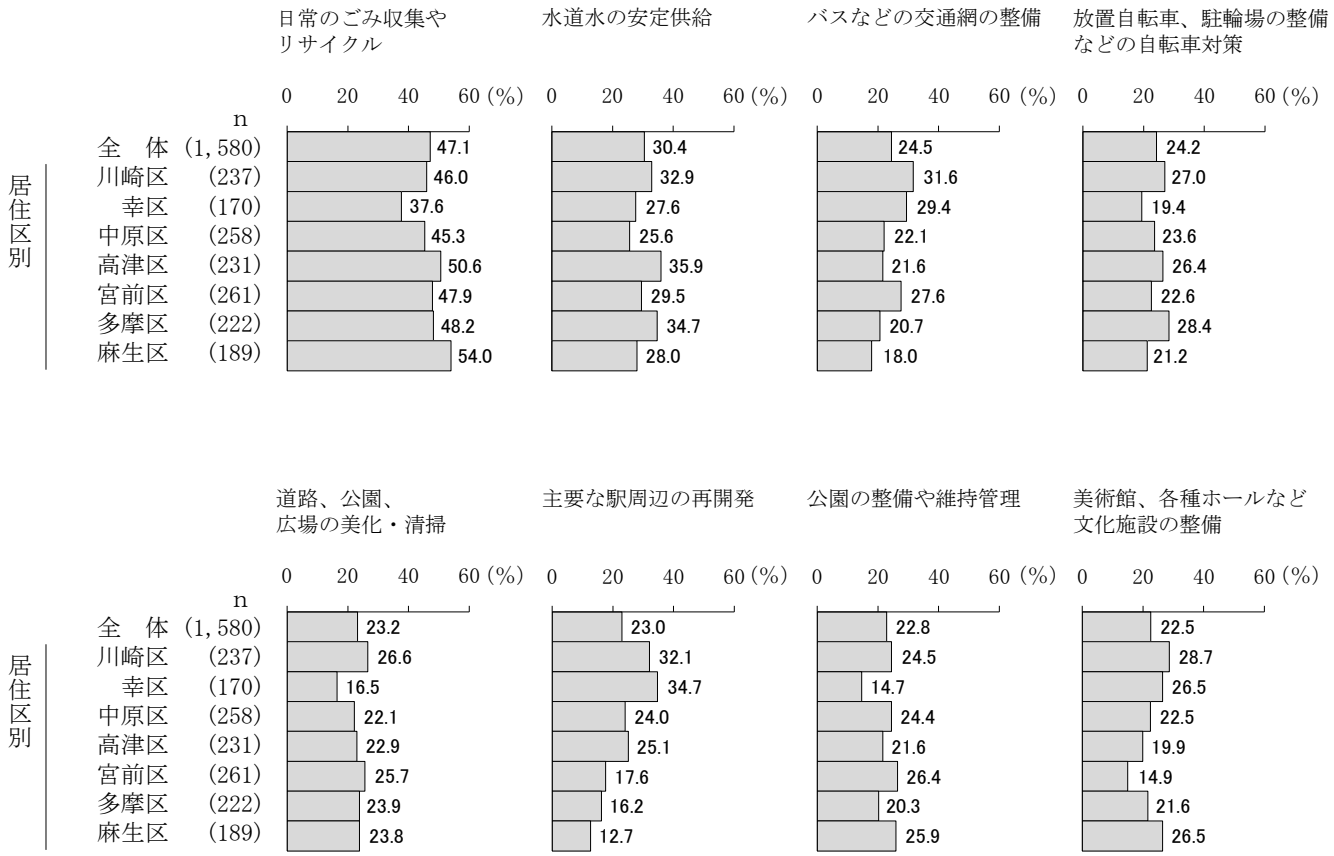
図表４－３　市政の仕事でよくやっていると思うこと（性／年齢別、上位８項目）





性／年齢別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「バスなどの交通網の整備」は、男性では 30 歳代が、女性では 40 歳代が１割台半ばと少なくなっている。「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」は、男性では 30 歳代が、女性では 30 歳代と 70 歳以上が１割台後半と少なくなっている。「道路、公園、広場の美化・清掃」は、男性では年齢が高くなるにつれ、女性ではおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。（図表４－３）

図表４－４　市政の仕事でよくやっていると思うこと（居住区別、上位８項目）



居住区別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、麻生区が 54.0％と最も多くなっている。次いで、高津区の 50.6％、多摩区の 48.2％と続いている。対して、幸区が 37.6％と最も少なくなっている。「水道水の安定供給」は、高津区が 35.9％と最も多くなっている。次いで、多摩区の 34.7％、川崎区の 32.9％と続いている。「道路、公園、広場の美化・清掃」、「公園の整備や維持管理」は、幸区が１割台半ばと最も少なくなっている。（図表４－４）

（第２回アンケート）

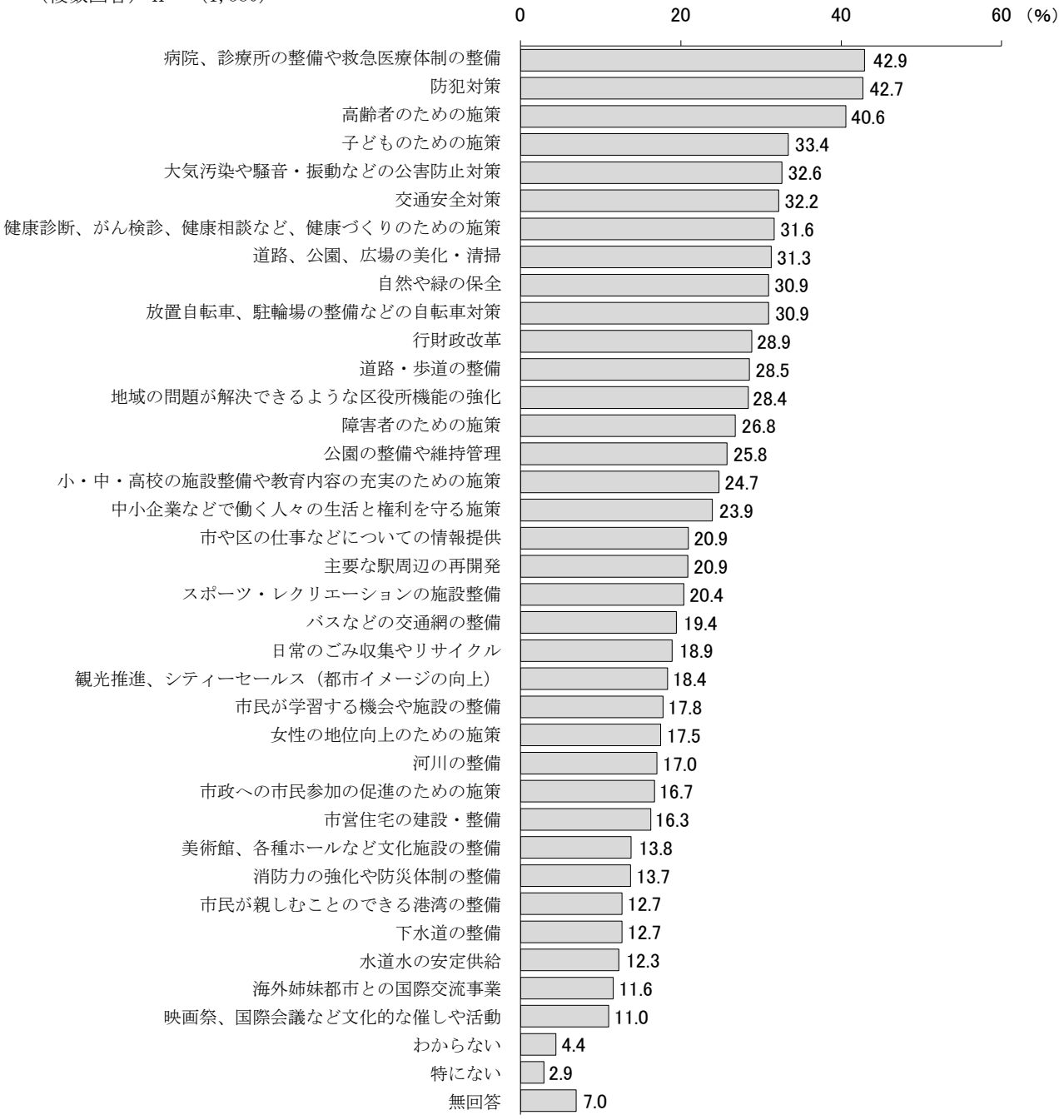
４－２　市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

◎「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」が４２．９%、「防犯対策」が４２．７%

問 10　また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。（あてはまるものすべてに○）

図表４－５　市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

（複数回答）ｎ＝（1,580）



市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことは、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」の 42.9%が最も多くなっている。次いで、「防犯対策」の 42.7%、「高齢者のための施策」の 40.6%、「子どものための施策」の 33.4%、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」の 32.6%、「交通安全対策」の 32.2%と続いている。（図表４－５）

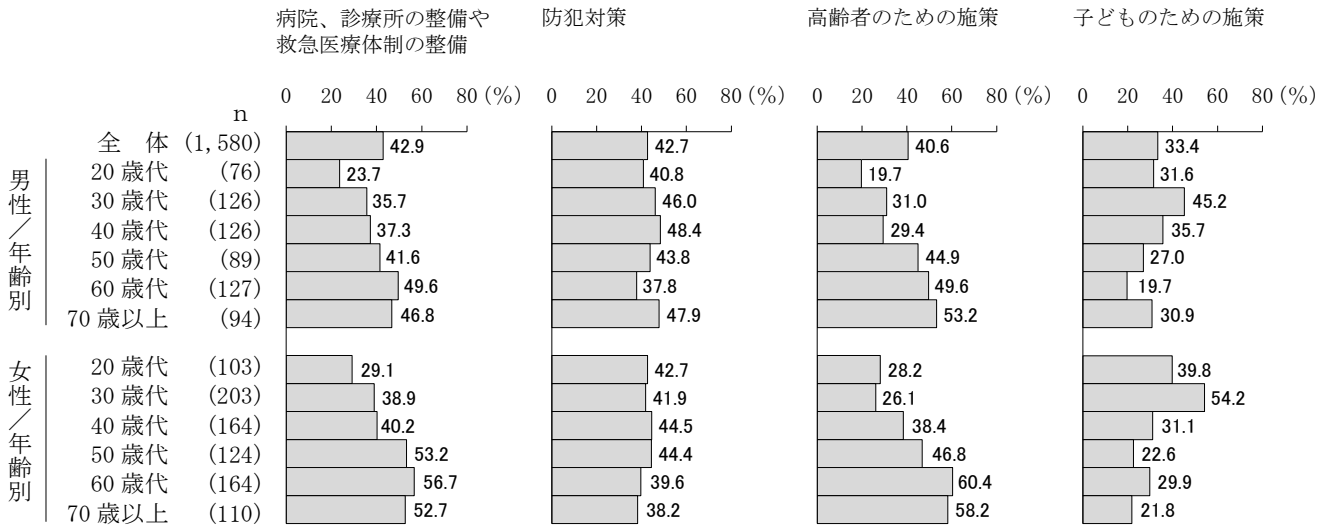
図表４－６　市政の仕事で今後特に力を入れてほしいと思うこと（前年比較）　（%）

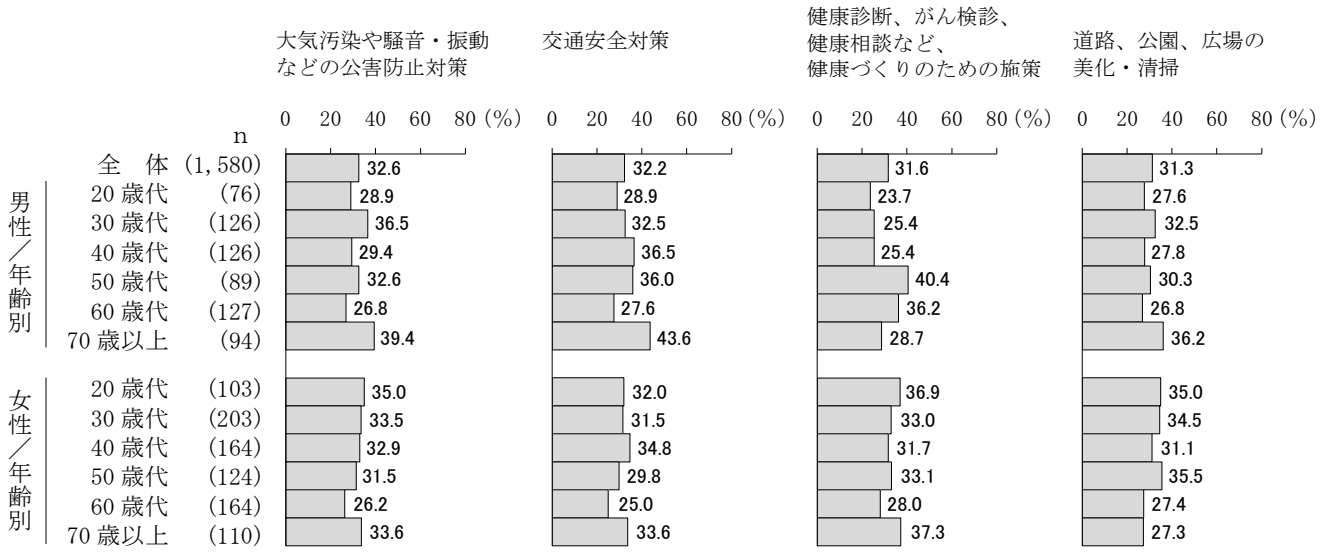
	平成22年度	平成21年度
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	42.9	49.8
防犯対策	42.7	46.6
高齢者のための施策	40.6	44.3
子どものための施策	33.4	35.3
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	32.6	36.2
交通安全対策	32.2	33.0
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	31.6	34.6
道路、公園、広場の美化・清掃	31.3	34.6
自然や緑の保全	30.9	35.5
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	30.9	34.2
行財政改革	28.9	30.0
道路・歩道の整備	28.5	31.7
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	28.4	29.8
障害者のための施策	26.8	29.6
公園の整備や維持管理	25.8	27.8
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	24.7	24.9
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	23.9	24.2
市や区の仕事などについての情報提供	20.9	23.6
主要な駅周辺の再開発	20.9	23.6
スポーツ・レクリエーションの施設整備	20.4	20.5
バスなどの交通網の整備	19.4	21.0
日常のごみ収集やリサイクル	18.9	21.6
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	18.4	17.3
市民が学習する機会や施設の整備	17.8	17.5
女性の地位向上のための施策	17.5	16.4
河川の整備	17.0	15.0
市政への市民参加の促進のための施策	16.7	17.4
市営住宅の建設・整備	16.3	17.4
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	13.8	13.2
消防力の強化や防災体制の整備	13.7	14.8
市民が親しむことのできる港湾の整備	12.7	12.9
下水道の整備	12.7	11.7
水道水の安定供給	12.3	11.8
海外姉妹都市との国際交流事業	11.6	9.3
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	11.0	11.2
わからない	4.4	2.7
特にない	2.9	0.7
無回答	7.0	5.3

平成 21 年度と比較すると、「海外姉妹都市との国際交流事業」の 11.6%が 2.3 ポイント、「河川の整備」の 17.0%が 2.0 ポイント、「観光推進、シティーセールス（都市イメージの向上）」の 18.4%が 1.1 ポイント、「女性の地位向上のための施策」の 17.5%が 1.1 ポイント上回っている。一方、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」の 42.9%が 6.9 ポイント、「自然や緑の保全」の 30.9%が 4.6 ポイント、「防犯対策」の 42.7%が 3.9 ポイント下回っている。（図表４－６）

（第２回アンケート）

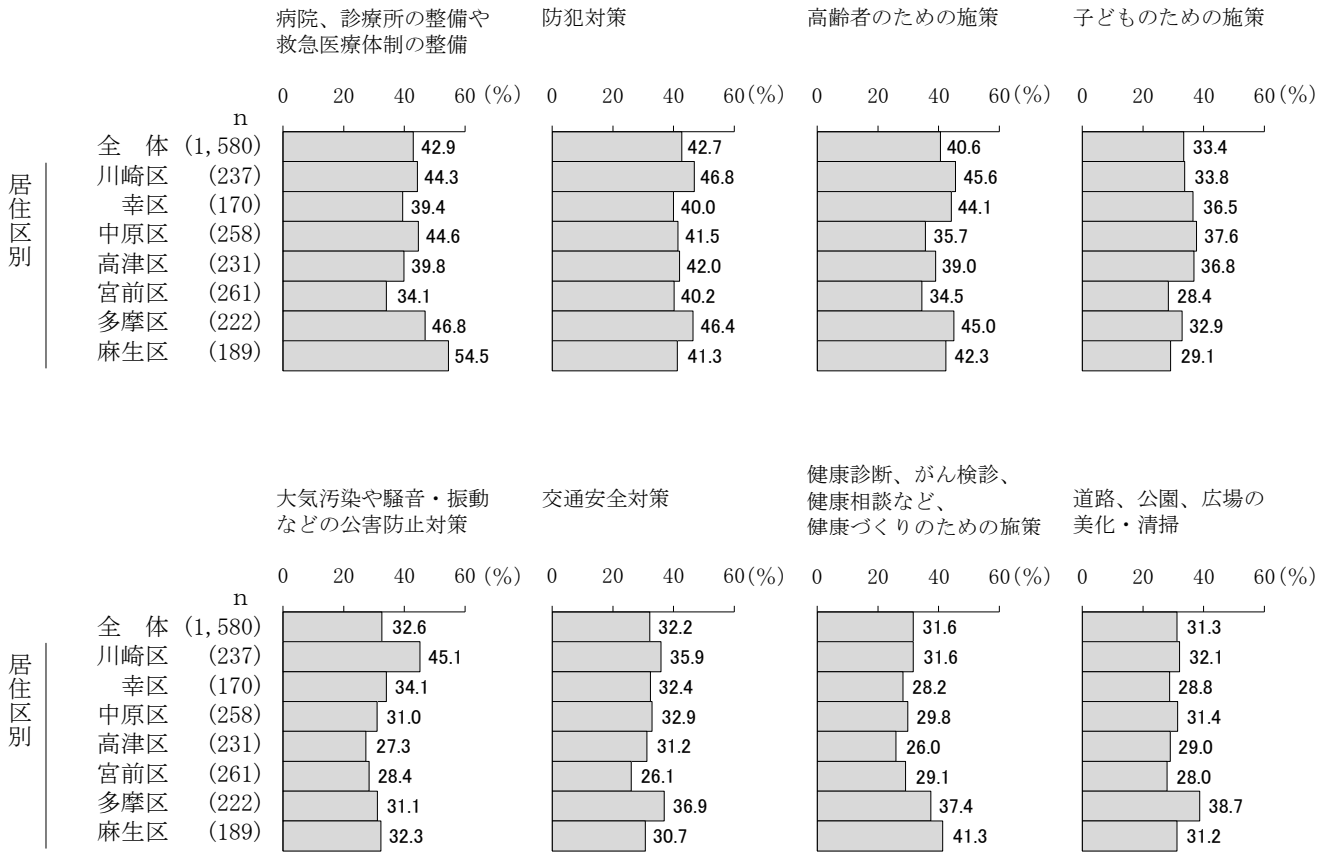
図表４－７　市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（性／年齢別、上位８項目）





性／年齢別では、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、男性では 60 歳代が 49.6%、女性でも 60 歳代が 56.7%と最も多くなっている。「防犯対策」は、男性では全年代を通して３割台後半から４割台後半、女性では３割台後半から４割台半ばとなっている。「高齢者のための施策」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、男性では 70 歳以上が 53.2%、女性では 60 歳代が 60.4%と最も多くなっている。「子どものための施策」は、男性では 30 歳代が 45.2%、女性でも 30 歳代が 54.2%と最も多くなっており、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」は、男性では全年代を通して２割台半ばから３割台後半、女性では２割台半ばから３割台半ばとなっている。（図表４－７）

図表４－８　市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（居住区別、上位８項目）



居住区別では、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、麻生区が 54.5％と最も多くなっている。次いで、多摩区の 46.8％、中原区の 44.6％と続いている。「防犯対策」は、全居住区を通して４割台前半から４割台半ばとなっている。「高齢者のための施策」は、川崎区が 45.6％と最も多くなっている。次いで、多摩区の 45.0％、幸区の 44.1％と続いている。「子どものための施策」は、宮前区が 28.4％、麻生区が 29.1％と少なくなっているのを除き、全居住区を通して３割台前半から３割台後半となっている。「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」は、川崎区が 45.1％と最も多くなっている。次いで、幸区の 34.1％、麻生区の 32.3％と続いている。（図表４－８）

（第２回アンケート）

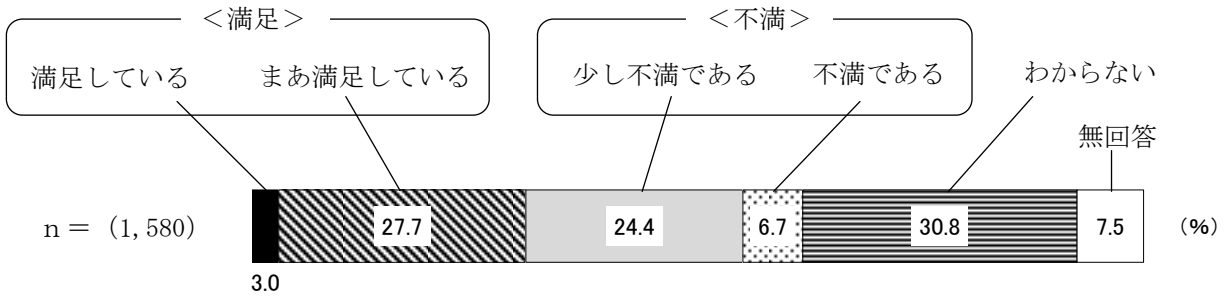
４－３施策や事業の総合的な満足度

◎＜満足＞が３０．７％

問 11 川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

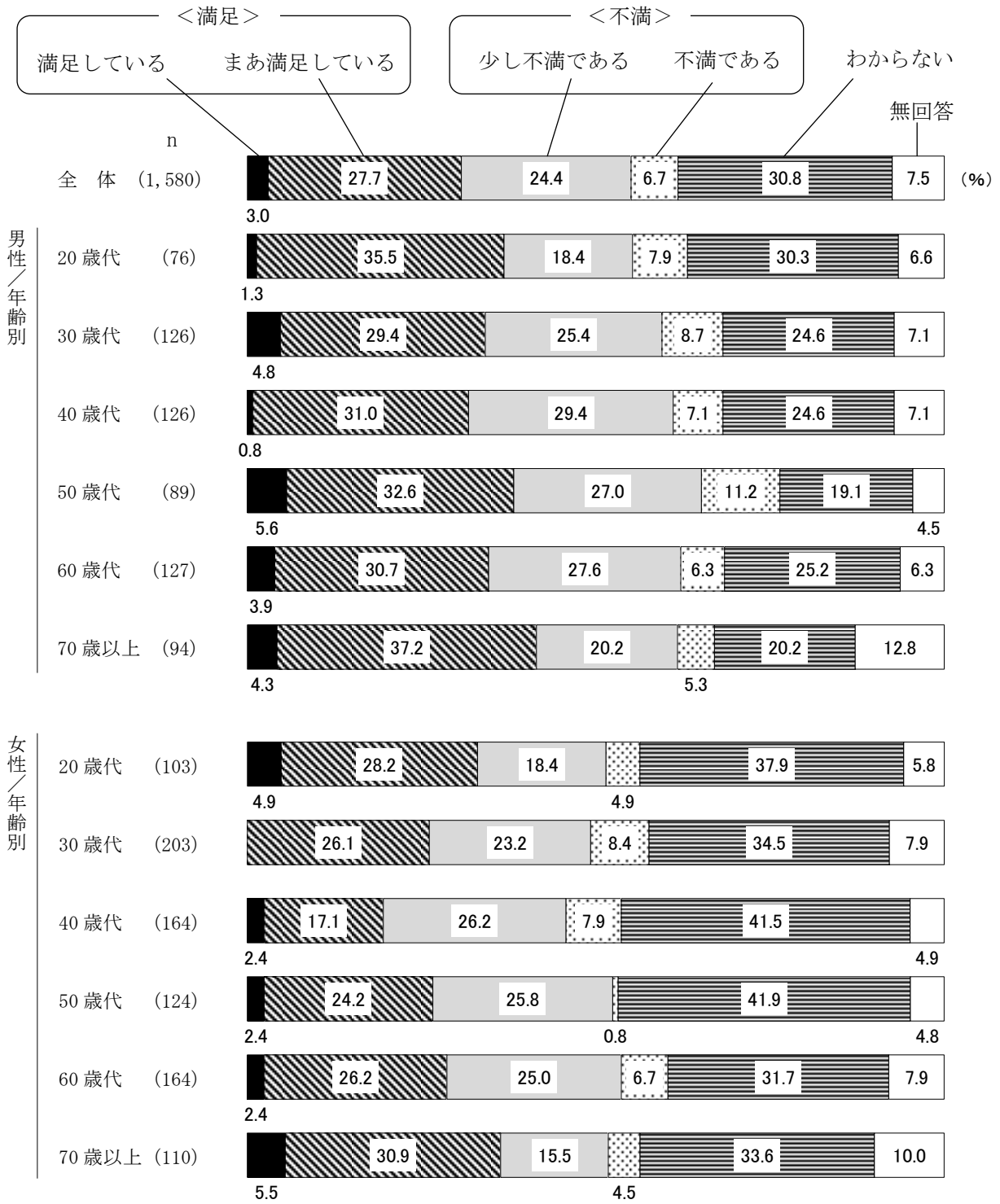
（○は１つだけ）

図表４－９　施策や事業の総合的な満足度



施策や事業の総合的な満足度は、「満足している」の 3.0%と「まあ満足している」の 27.7%をあわせた＜満足＞は、30.7%となっている。一方、「少し不満である」の 24.4%と「不満である」の 6.7%をあわせた＜不満＞は、31.1%となっており、＜不満＞が＜満足＞を 0.4 ポイント上回っている。（図表４－９）

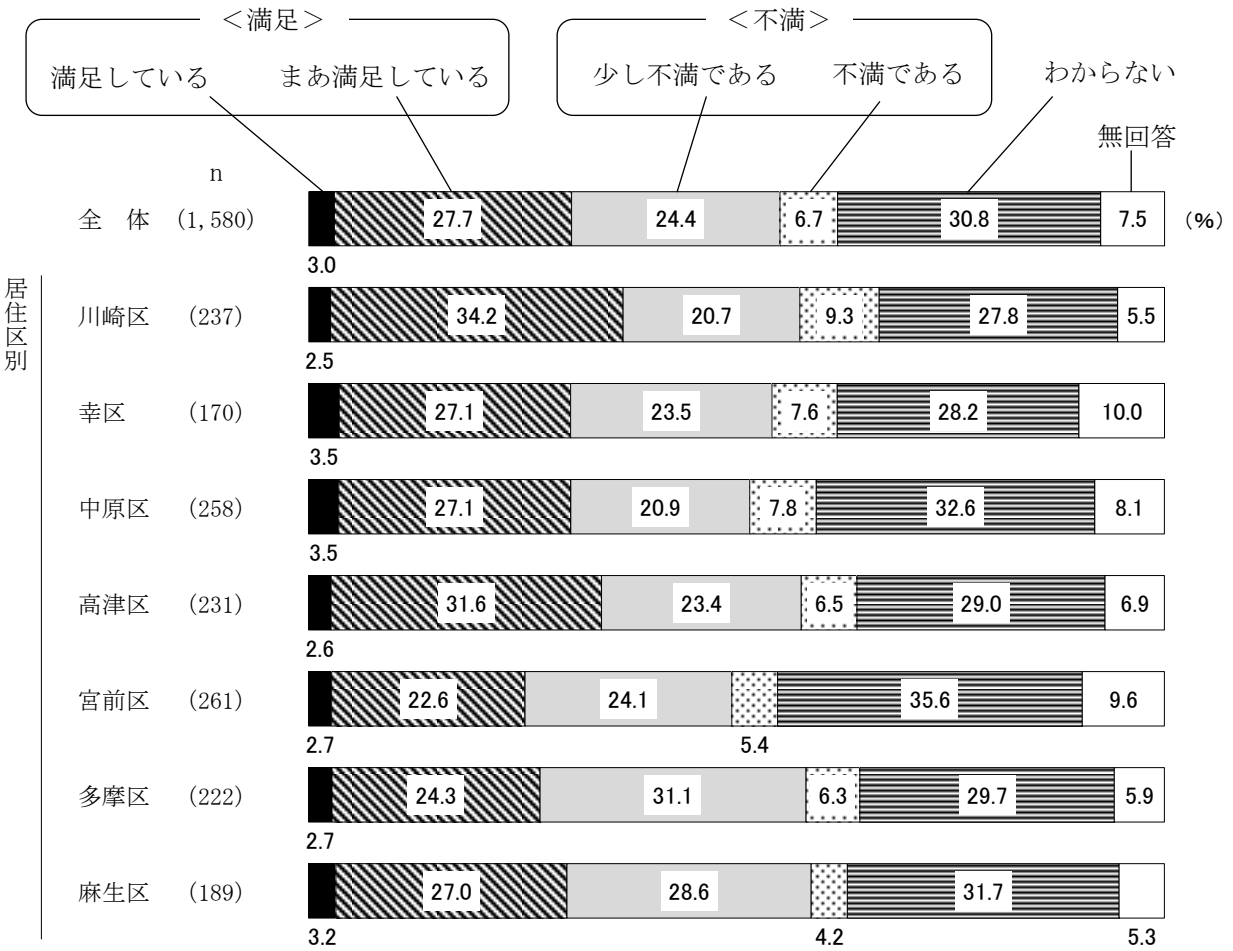
図表４－10　施策や事業の総合的な満足度（性／年齢別）



性／年齢別では、＜満足＞は、男性では 70 歳以上が 41.5%と最も多くなっており、それ以外の年代ではおおむね３割台前半から３割台後半となっている。女性では、40 歳代が 19.5%と最も少なくなっており、40 歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっている。＜不満＞は、男性では 50 歳代が 38.2%、女性では 40 歳代が 34.1%と最も多くなっている。（図表４－10）

（第２回アンケート）

図表４－11　施策や事業の総合的な満足度（居住区別）



居住区別では、＜満足＞は、川崎区が 36.7％と最も多くなっている。次いで、高津区の 34.2％、幸区と中原区の 30.6％と続いている。一方、＜不満＞は、多摩区が 37.4％と最も多くなっている。次いで、麻生区の 32.8％、幸区の 31.1％と続いている。（図表４－11）